

平成25年度
「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」
調査報告書

長野市

目 次

I	調査の概要	1
	1 調査の目的	
	2 調査対象	
	3 抽出方法	
	4 調査の方法	
	5 調査時期	
	6 送付・回収状況	
	7 調査事項	
	8 調査票の集計 報告書の見方	
II	回答者の属性	5
III	結果の概要	13
IV	調査の結果	19
	一般的な問題	21
	労働に関する問題	45
	仕事と家庭生活の調和に関する問題	53
	地域社会に関する問題	73
	男女の人権に関する問題	79
	男女共同参画施策に関する問題	85
	資 料	91
	単純集計	93
	自由意見	109
	調 査 票	127

I . 調査の概要

1. 調査の目的

長野市における男女共同参画に関する市民の意識と実態の調査を実施し、男女共同参画施策の推進状況の把握と、今後の男女共同参画行政の推進のための資料を得ることを目的とする。

2. 調査の対象

平成 25 年 6 月 17 日現在で長野市に在住する 20 歳以上 75 歳未満の男女各 1,000 人
(計：2,000 人)

3. 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

4. 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒（料金受取人払）により調査票を返送してもらう郵送調査法による（調査票は別紙のとおり）。

5. 調査時期

平成 25 年 7 月 1 日（日） ～ 平成 25 年 7 月 17 日（水）

6. 送付・回収状況

送付数：2,000 票

回収数：733 票（回収率：36.6%）【男性票：302 票、女性票：428 票、性別不明：3 票】

7. 調査事項

● 回答者の属性

A性別 B年齢 C職業 D家族 E配偶者の有無 F配偶者の職業の有無 G子の有無

- (1) 一般的な問題
- (2) 労働に関する問題
- (3) 仕事と家庭生活の調和に関する問題
- (4) 地域社会に関する問題
- (5) 男女の人権に関する問題
- (6) 男女共同参画施策に関する問題
- (7) 自由記入

8. 調査票の集計

電子計算機による集計（委託）

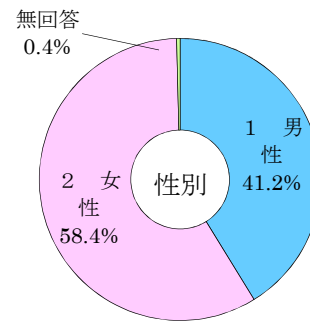
報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位まで表記している。従って、内訳を合計しても 100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が 100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。

Ⅱ. 回答者の属性

A. 性別

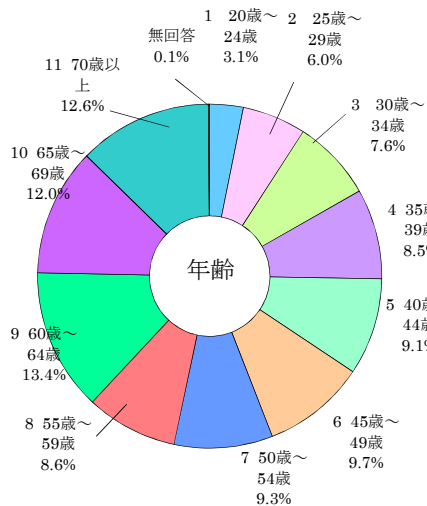
	回答者数 (人)	割合 (%)
1 男性	302	41.2%
2 女性	428	58.4%
無回答	3	0.4%
合計	733	100.0%



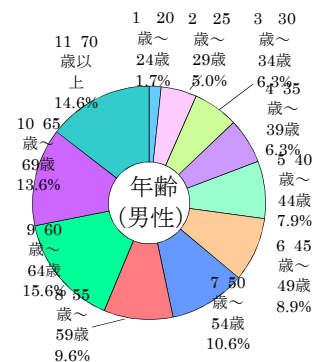
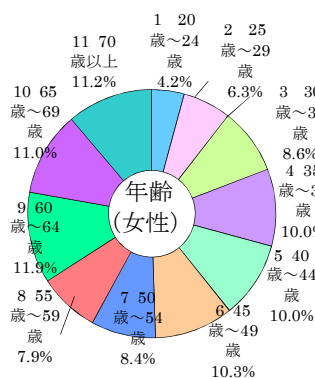
B. 年齢

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 20歳～24歳	23	18	5	0	3.1	4.2	1.7	0.0
2 25歳～29歳	44	27	15	2	6.0	6.3	5.0	66.7
3 30歳～34歳	56	37	19	0	7.6	8.6	6.3	0.0
4 35歳～39歳	62	43	19	0	8.5	10.0	6.3	0.0
5 40歳～44歳	67	43	24	0	9.1	10.0	7.9	0.0
6 45歳～49歳	71	44	27	0	9.7	10.3	8.9	0.0
7 50歳～54歳	68	36	32	0	9.3	8.4	10.6	0.0
8 55歳～59歳	63	34	29	0	8.6	7.9	9.6	0.0
9 60歳～64歳	98	51	47	0	13.4	11.9	15.6	0.0
10 65歳～69歳	88	47	41	0	12.0	11.0	13.6	0.0
11 70歳以上	92	48	44	0	12.6	11.2	14.6	0.0
無回答	1	0	0	1	0.1	0.0	0.0	33.3
合計	733	428	302	3	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】



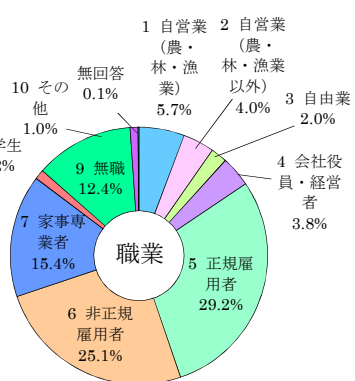
【男女別】



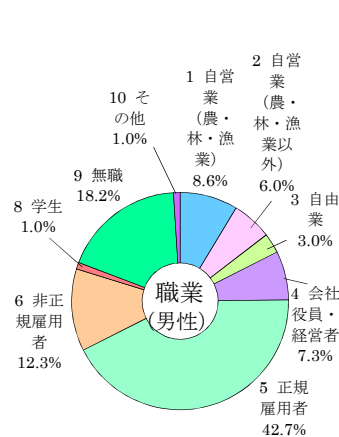
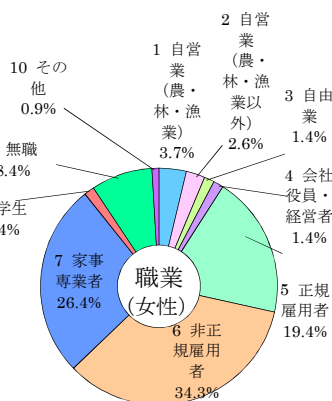
C. 職業

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 自営業 (農・林・漁業)	42	16	26	0	5.7	3.7	8.6	0.0
2 自営業 (農・林・漁業以外)	29	11	18	0	4.0	2.6	6.0	0.0
3 自由業	15	6	9	0	2.0	1.4	3.0	0.0
4 会社役員・経営者	28	6	22	0	3.8	1.4	7.3	0.0
5 正規雇用者	214	83	129	2	29.2	19.4	42.7	66.7
6 非正規雇用者	184	147	37	0	25.1	34.3	12.3	0.0
7 家事専業者	113	113	0	0	15.4	26.4	0.0	0.0
8 学生	9	6	3	0	1.2	1.4	1.0	0.0
9 無職	91	36	55	0	12.4	8.4	18.2	0.0
10 その他	7	4	3	0	1.0	0.9	1.0	0.0
無回答	1	0	0	1	0.1	0.0	0.0	33.3
合計	733	428	302	3	100.0	100.0	100.0	100.0

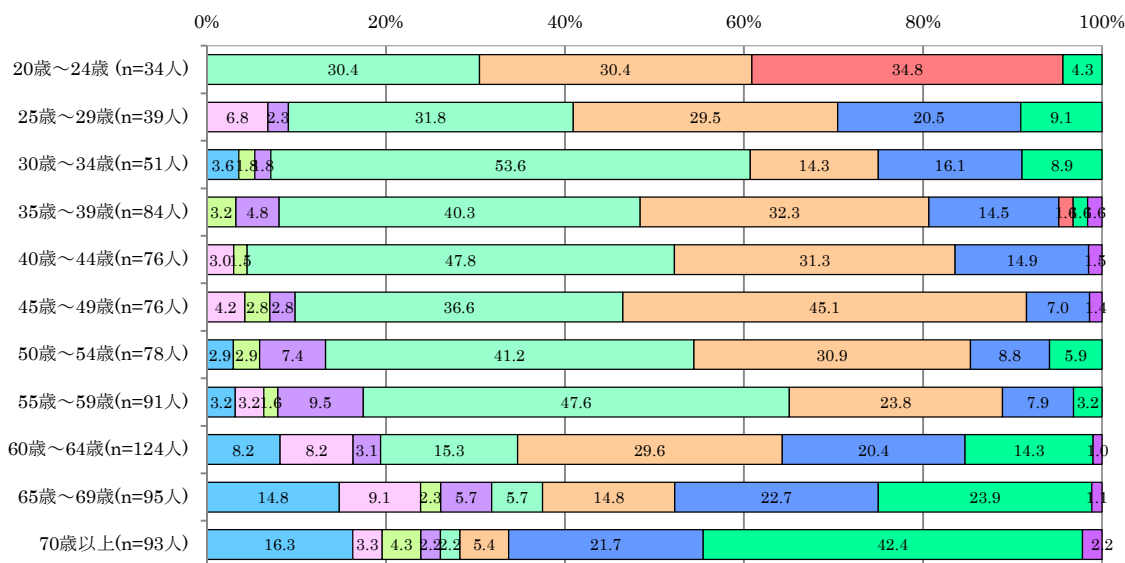
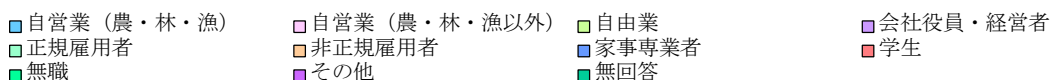
【全体】



【男女別】



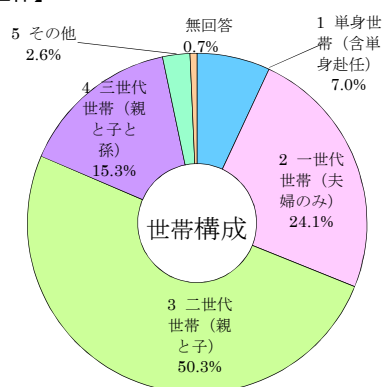
【年代別】



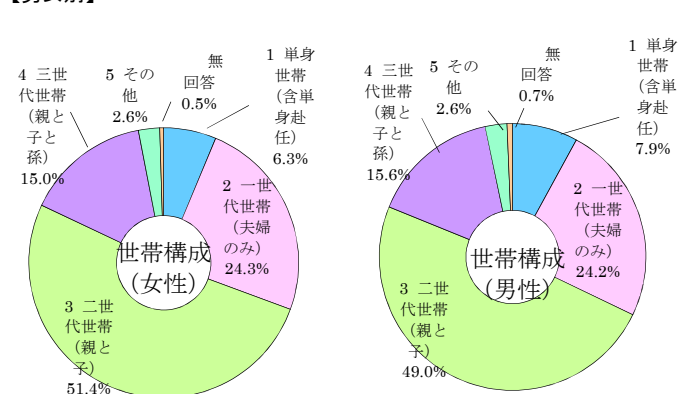
D. あなたのご家族の構成（世帯構成）について教えてください。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 単身世帯（含単身赴任）	51	27	24	0	7.0	6.3	7.9	0.0
2 一世代世帯（夫婦のみ）	177	104	73	0	24.1	24.3	24.2	0.0
3 二世世代世帯（親と子）	369	220	148	1	50.3	51.4	49.0	33.3
4 三世世代世帯（親と子と孫）	112	64	47	1	15.3	15.0	15.6	33.3
5 その他	19	11	8	0	2.6	2.6	2.6	0.0
無回答	5	2	2	1	0.7	0.5	0.7	33.3
合計	733	428	302	3	100.0	100.0	100.0	100.0

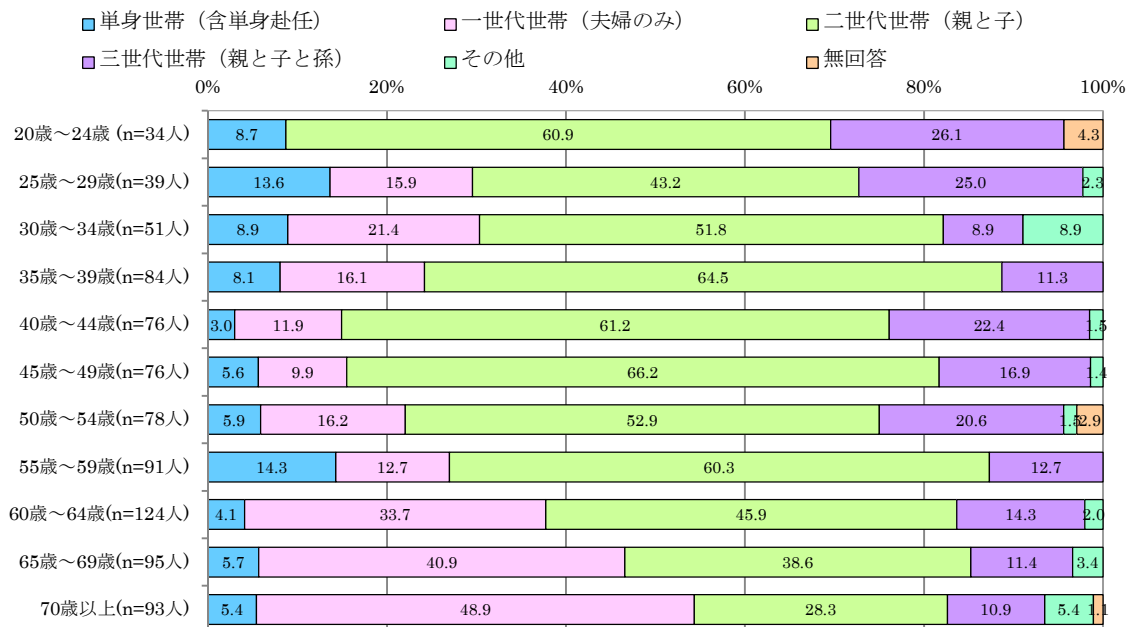
【全体】



【男女別】



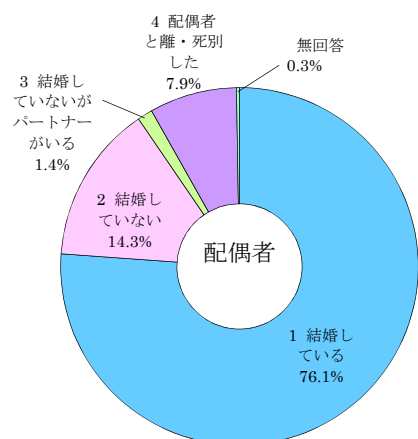
【年代別】



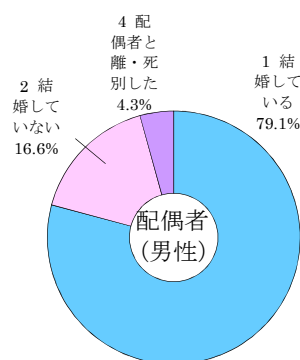
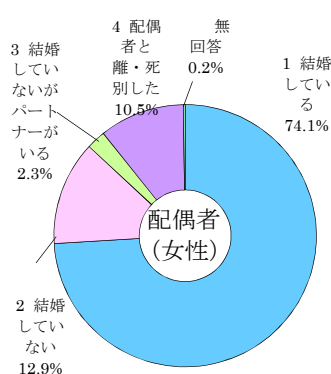
E. あなたは現在、結婚していますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 結婚している	558	317	239	2	76.1	74.1	79.1	66.7
2 結婚していない	105	55	50	0	14.3	12.9	16.6	0.0
3 結婚していないがパートナーがいる	10	10	0	0	1.4	2.3	0.0	0.0
4 配偶者と離・死別した	58	45	13	0	7.9	10.5	4.3	0.0
無回答	2	1	0	1	0.3	0.2	0.0	33.3
合計	733	428	302	3	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

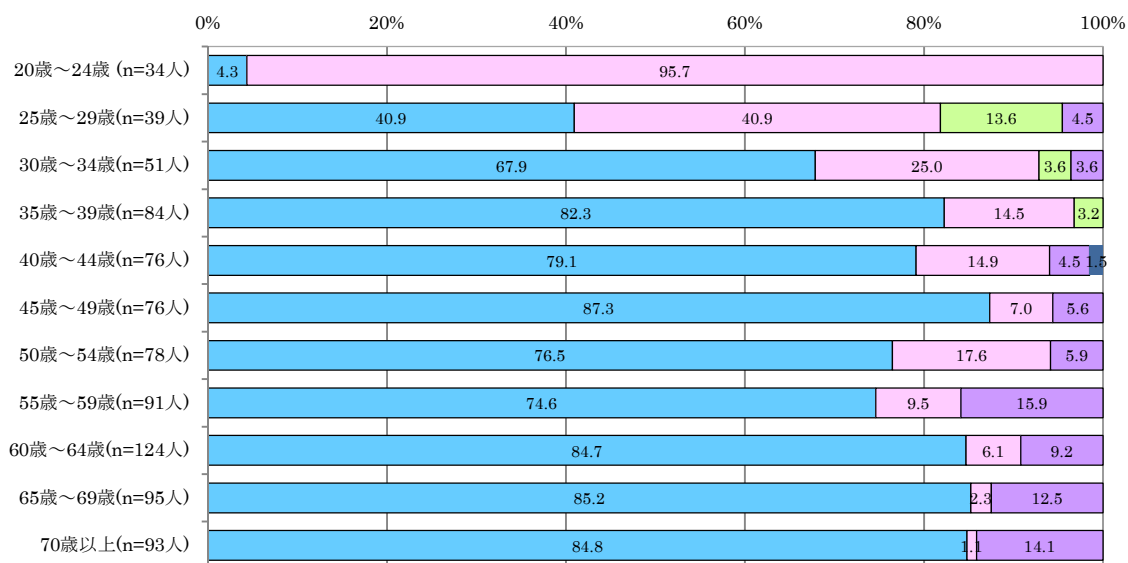


【男女別】



【年代別】

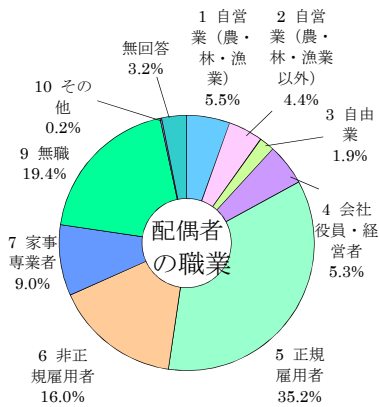
■ 結婚している ■ 結婚していない ■ 結婚していないがパートナーがいる ■ 配偶者と離・死別した ■ 無回答



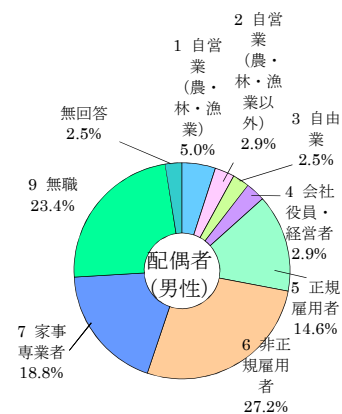
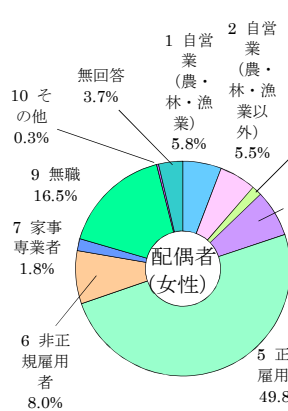
F. Eで「1 結婚している」「3 結婚していないがパートナーがいる」と答えた方のみお答えください。
あなたの配偶者又はパートナーの職業を教えてください。

	回答者数 (人)			割合 (%)		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 自営業 (農・林・漁業)	31	19	12	5.5	5.8	5.0
2 自営業 (農・林・漁業以外)	25	18	7	4.4	5.5	2.9
3 自由業	11	5	6	1.9	1.5	2.5
4 会社役員・経営者	30	23	7	5.3	7.0	2.9
5 正規雇用者	200	163	35	35.2	49.8	14.6
6 非正規雇用者	91	26	65	16.0	8.0	27.2
7 家事専業者	51	6	45	9.0	1.8	18.8
8 学生	0	0	0	0.0	0.0	0.0
9 無職	110	54	56	19.4	16.5	23.4
10 その他	1	1	0	0.2	0.3	0.0
無回答	18	12	6	3.2	3.7	2.5
合計	568	327	239	100.0	100.0	100.0

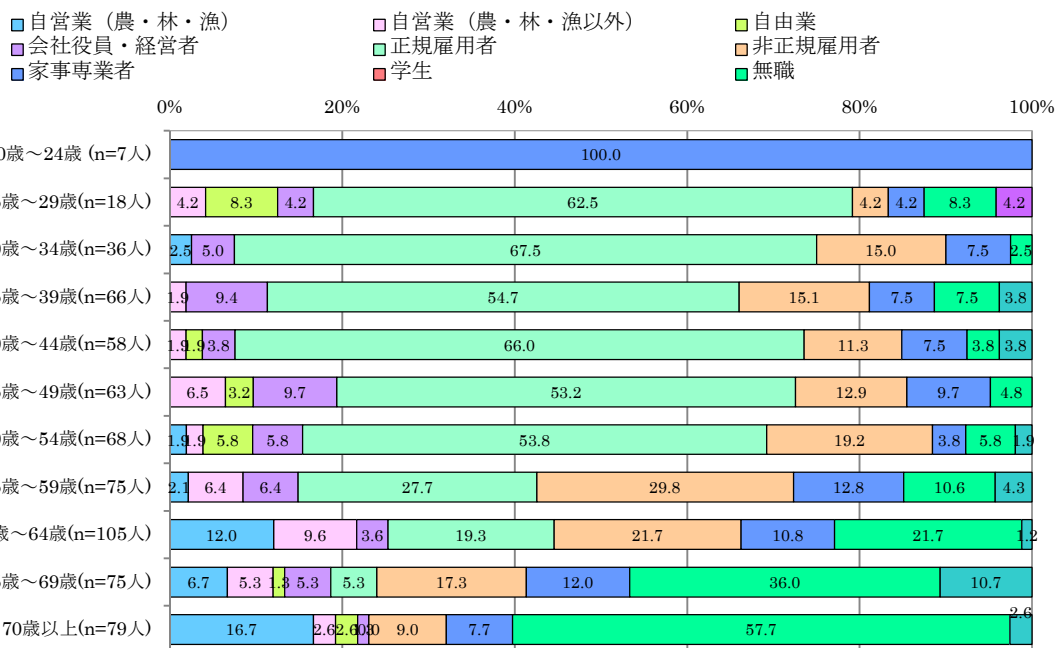
【全体】



【男女別】



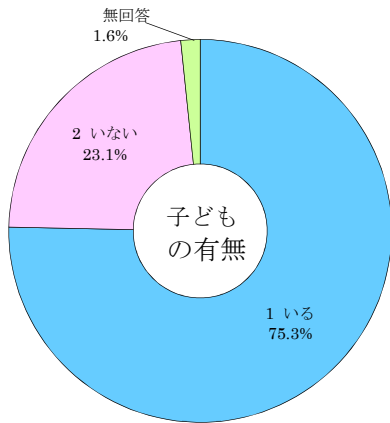
【年代別】



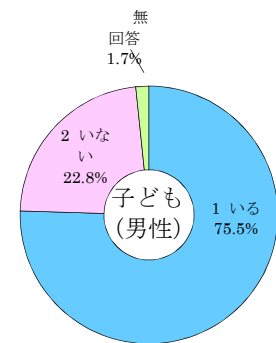
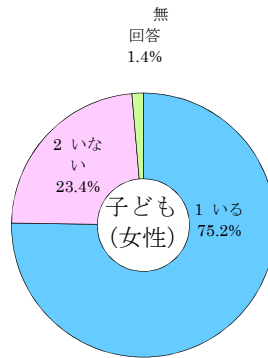
G. あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 いる	552	322	228	2	75.3	75.2	75.5	66.7
2 いない	169	100	69	0	23.1	23.4	22.8	0.0
無回答	12	6	5	1	1.6	1.4	1.7	33.3
合計	733	428	302	3	100.0	100.0	100.0	100.0

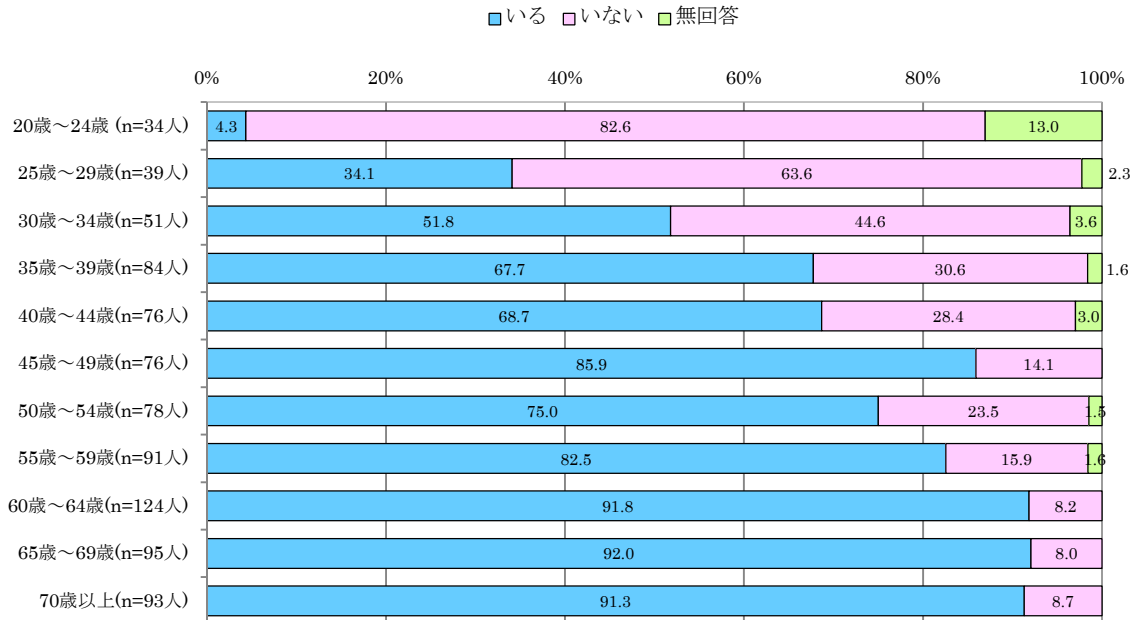
【全体】



【男女別】



【年代別】



Ⅲ. 結果の概要

1. 一般的な問題

(1) 社会における男女の扱いについて

「家庭」、「学校教育」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(52.1%)、「家庭」(43.8%)、「法律や制度」(38.2%)の3分野であった。それ以外の分野では「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では「男性が優位」という回答が7割を超えている。

分野別でみると、「家庭」において、全体では「平等である」という回答が最も多かったが、「男性が優位」という回答は、男性が23.2%、女性が42.3%をとり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度」においても、「男性が優位」という回答は、男性が26.5%なのに対し、女性は45.8%と最も多い回答となっている。また、「地域社会」、「職場」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」といった分野でも、「男性が優位」という回答が多く、男女とも5割～8割となっている。

(2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画社会」、「ジェンダー(社会的性別)」、「女子差別撤廃条約」、「男女雇用機会均等法」、「長野市男女共同参画推進条例」、「長野市男女共同参画センター」の6つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合が高いのは、「男女雇用機会均等法」(91.7%)と「男女共同参画社会」(77.4%)の2つとなっている。それ以外の用語の認知度は、いずれも5割を下回っている。

用語別では、いずれの用語においても性別による認知度の差は少ない。「ジェンダー(社会的性別)」は、年齢が20歳代前半での認知度が7割を超え最も高くなっている。「男女雇用機会均等法」は20歳～29歳以外の年代、性別においても8割以上の認知度となっている。

(3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答合計の割合は43.9%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答合計は54.7%となっている。前年に比べ、前者は0.7ポイント減少し、後者は0.6ポイント増加した。平成22年度調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答が、半数を上回り、その差は徐々に大きくなっており、年代別でみると、20歳代前半と30歳代後半の女性の割合が7割を超えている。

また、女性が働くことへの考え方に関しては、男性は、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という回答が最も多くなっているが、女性は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多い回答となっている。

男女間による固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をしたことがあるかという設問に対しては、「特にない」という回答が全体では約7割(66.2%)となっているが、男性81.5%、女性55.4%と男女間では大きな開きがある。さらに、「仕事を続けたかったが辞めざるを得ないことがあった」という回答については、男性は6.3%であるのに対して、女性は28.7%となっている。

2. 労働に関する問題

職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」の4つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、「昇進や昇格」以外の項目では「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関しては、「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男女とも約4割が回答している。また、「賃金」に関しては、「女性の方が優遇されている」という回答がほとんどないという結果となっている。

3. 仕事と家庭生活の調和に関する問題

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の24.0%となっており、認知度は依然として低いですが、前年より1.1ポイント増加している。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が26.5%と女性の22.4%より多くなっている。

(2) 理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活としては、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となった。現実の生活では、『仕事』優先」が『家庭生活』を優先」を上回った回答となっている。これは、男性が『仕事』優先」、女性が『仕事』優先」と『家庭生活』を優先」が同じくらいの結果のため、全体では拮抗している。

理想は男女別なく、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」だが、現実には男性が『仕事』を、女性は『仕事』と『家庭生活』の優先について現状の認識が分かれた結果となっている。

(3) 家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ゴミを捨てる」の6つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ゴミを捨てる」(41.4%)、女性では、「洗濯」(76.9%)、「食事のしたく」(74.5%)であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「食事のしたく」(45.0%)、「洗濯」(43.4%)で、女性では、「ゴミを捨てる」(16.6%)であった。

また、男性は、「掃除」、「食料品、日用品などの買物」については、「自分は手伝い程度している」という回答割合が約4割となっている。

「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」を選んだ方が、育児に関しては、男性は11.3%、女性は29.7%と差が大きいですが、介護に関しては男性が8%、女性が11.4%と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関しても、「利用しにくい雰囲気があるから」(53.2%)、「主たる稼ぎ手は男性だから」(53.1%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(41.1%)といった理由で利用が進まないといった状況となっている。

4. 地域社会に関する問題

自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAで、性別によって決められている事例があるか尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんど男性である」で、49.4%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」43.5%、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」40.5%と多くなっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も回答割合が高く、約4割（40.2%）となっている。次いで、「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（22.9%）と「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」（21.0%）と続いている。

5. 男女の人権に関する問題

DV（ドメスティック・バイオレンス）について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、すべての行為において「受けたこともしたこともない」という回答が最も多くなっている。しかしながら、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が25.8%、女性では「受けたことがある」という回答が19.6%と比較的多くなっている。

DVにあったときの相談窓口として、知っているという回答が最も多かったのは、「県警（地域安全推進室）」で約4割（40.2%）となっている。次いで、「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（25.0%）、「長野県女性相談センター」（22.2%）の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、約4割（45.7%）の回答割合となっている。

6. 男女共同参画施策に関する問題

（1）長野市議会及び住民自治協議会への女性の参画について

長野市議会及び住民自治協議会の女性議員・役員の数についての考えを尋ねたところ、「現在より少し増えた方がよい」（32.5%）という回答が最も多くなっている。次いで、「現在より大幅に増えた方がよい」（31.4%）が続いており、合わせて63.9%の方が「増えた方がよい」と考えている。

また、政策決定の場に女性が増えることで何を期待するか尋ねたところ、最も多い回答は「女性が持つ意見や発想が活かされる」（48.6%）となっており、男女とも約5割の回答割合となる。

（2）男女共同参画社会実現へ向けた拠点施設の整備と行政に期待することについて

拠点施設の機能としては、「団体やサークルの活動・提供」（44.6%）が最も多くなっている。次いで、「学習・研修」（43.8%）、「相談」（41.6%）の順で続いている。

行政に期待することについては、「育児や介護に関するサービスの充実」（47.5%）が最も多くなっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」（37.0%）、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」（28.5%）の順で続いている。

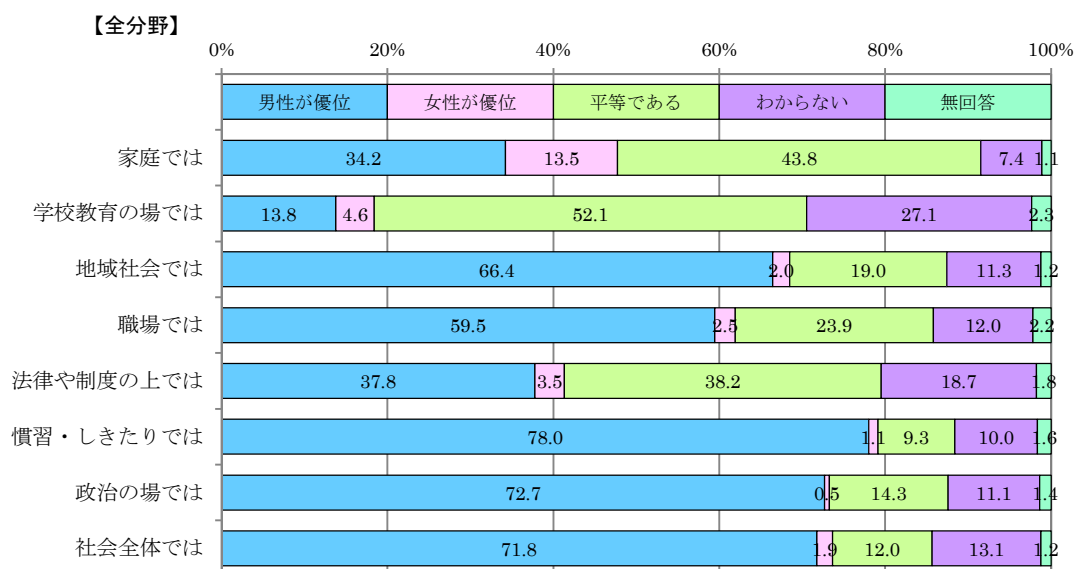
IV. 調査の結果

一般的な問題

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

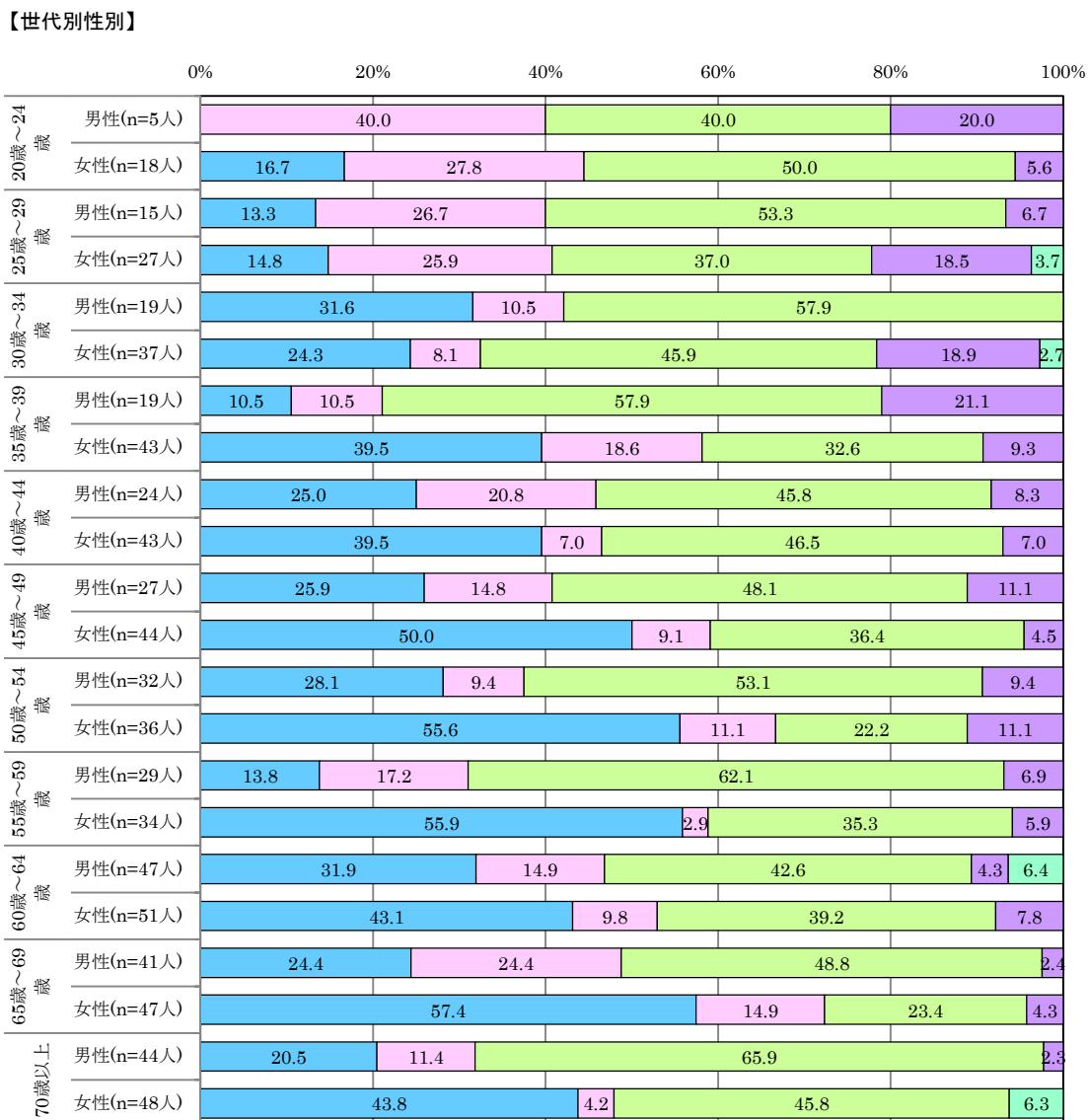
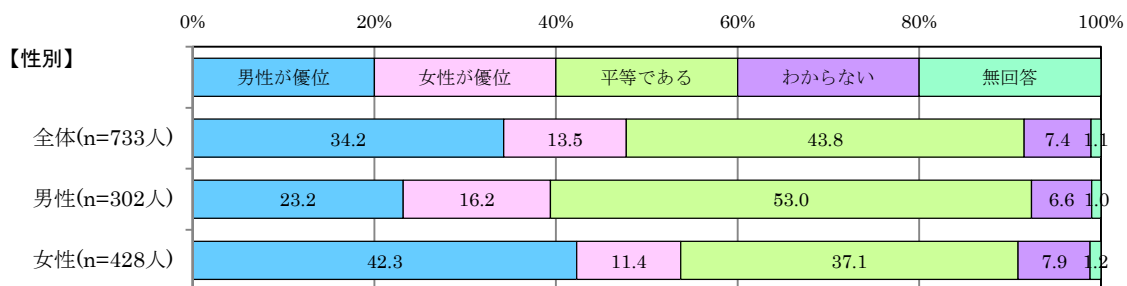
- ・「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(52.1%)、「家庭」(43.8%)、「法律や制度」(38.2%)の3分野となっている。
- ・一方、「地域社会」、「職場」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では、「男性が優位」という回答がいずれも約6割以上で最も多い回答となっている。なかでも「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では7割を超えており、その他の分野に比べて「男性が優位」という回答が多い。

全体 (n=733人)



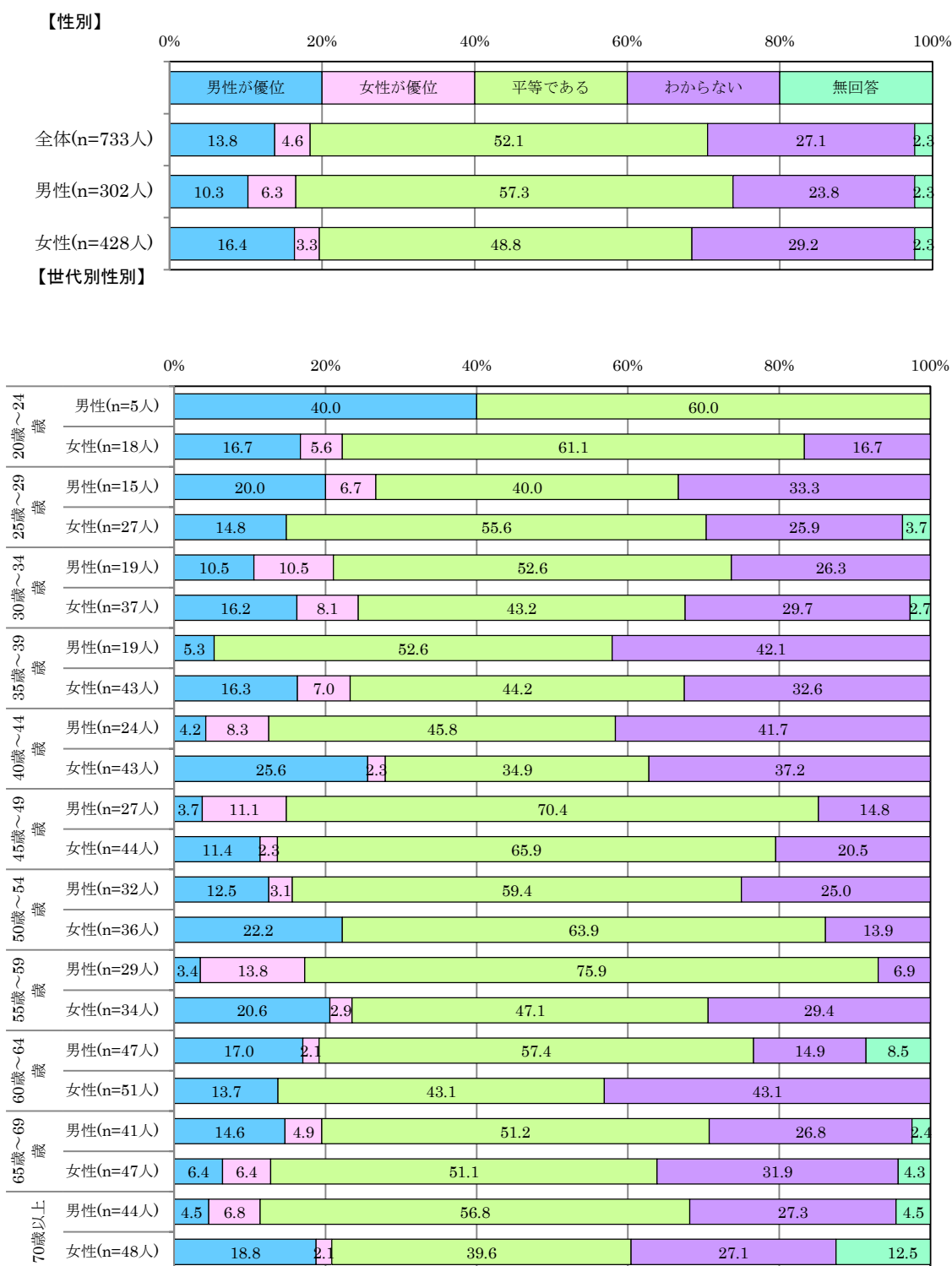
1. 家庭では

- 性別でみると、男性は、「平等である」(53.0%)という回答が最も多く、約5割を超えているが、女性の回答は約4割(37.1%)となっている。「男性が優位」という回答は、男性においては約2割(23.2%)となっているが、女性では約4割(42.3%)となり、最も多い回答となっている。
- 世代別性別でみると、「男性が優位」という回答は、女性の45歳～49歳と50歳代、65～69歳で多く、回答割合が5割を超えている。男性では、20歳～24歳の世代で「女性が優位」と「平等である」が同じ回答割合となっているが、それ以外の世代では、いずれも「平等である」という回答が最も多い。



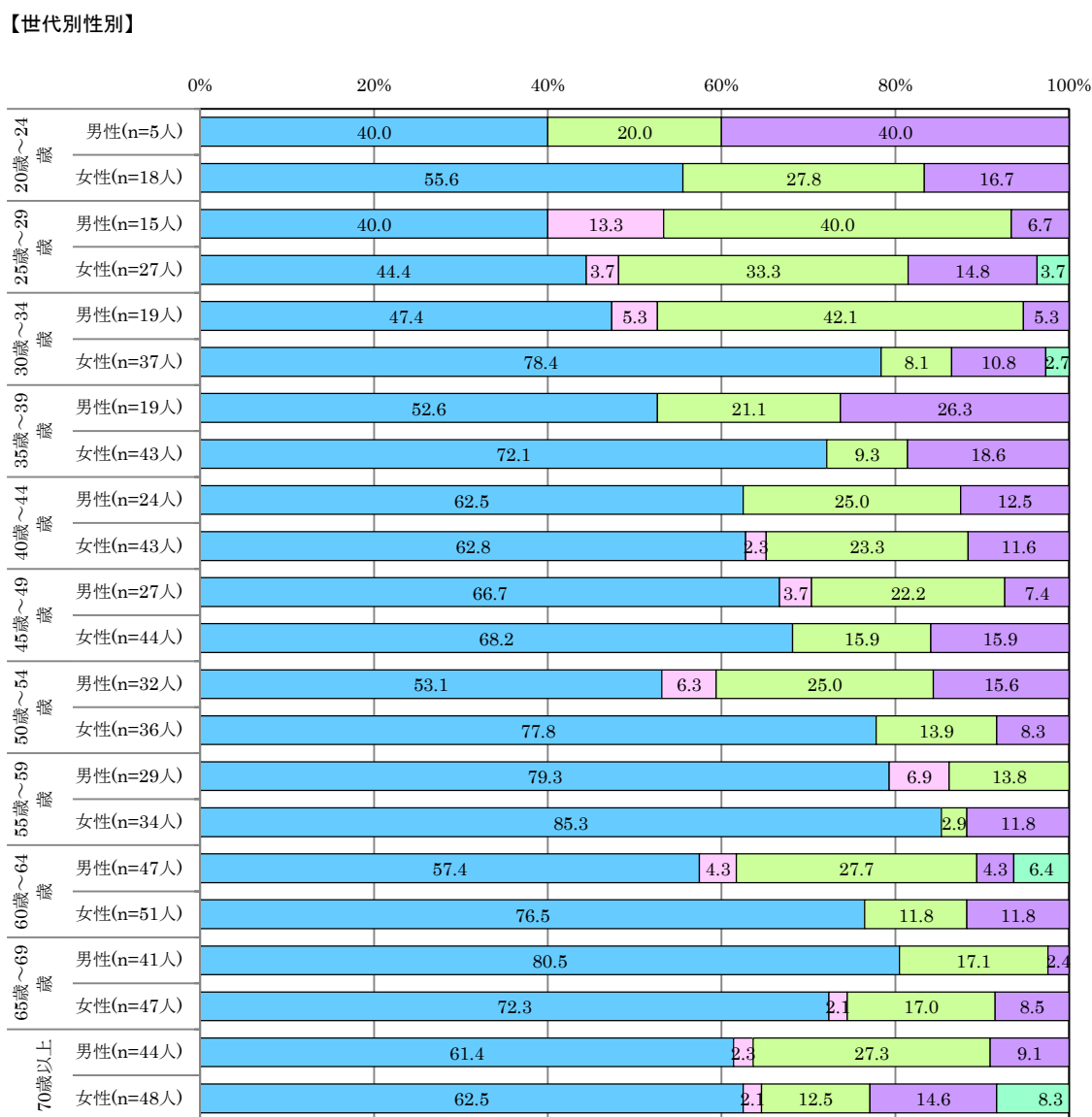
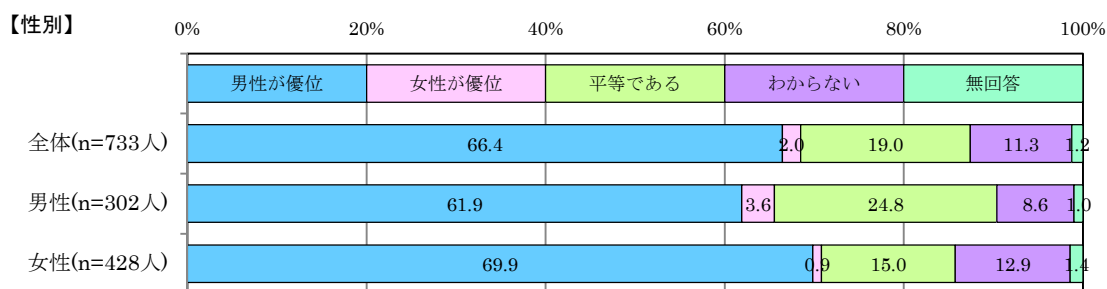
2. 学校教育の場では

- 性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性が約6割（57.3%）、女性が約5割（48.8%）となっている。「男性が優位」という回答は、男性よりも女性の方がやや多くなっている。
- 世代別性別でみると、いずれの世代でも「平等である」という回答が最も多くなっている。「男性が優位」という回答は、女性では、40歳～44歳の女性で約3割となり、そのほかの世代に比べ高い回答割合となっている。一方で、20歳～24歳の男性においては、「女性が優位」という回答はなしとなっている。



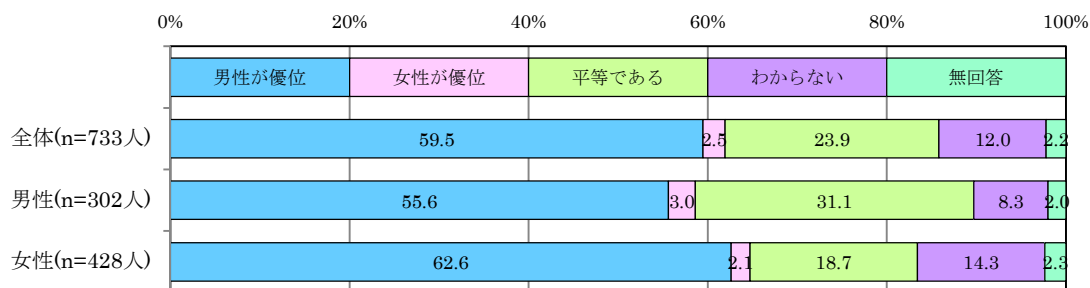
3. 地域社会では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性が約6割（61.9%）、女性が約7割（69.9%）となっている。一方、「平等である」という回答は男性が約2割（24.8%）、女性が約1割（15.0%）となる。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性を除いて、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い回答となっている。なかでも55歳～59歳の女性、65歳～69歳の男性においては「男性が優位」という回答が8割を超えている。

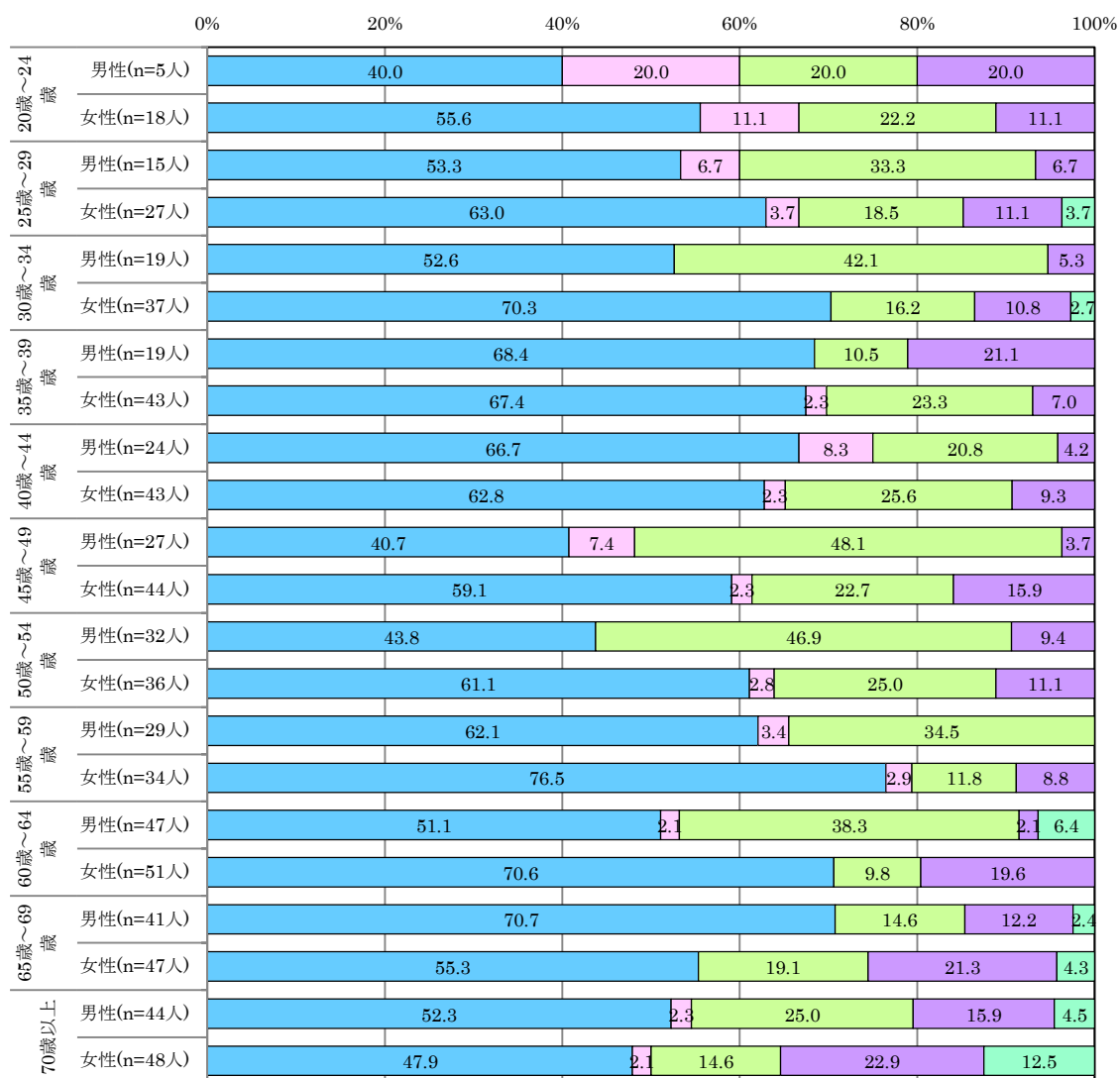


4. 職場では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性が約5割（55.6%）、女性が約6割（62.6%）となっている。「平等である」という回答は、男性の約3割（31.1%）に対し、女性は約2割（18.7%）となっている。
- ・世代別性別でみると、45歳～49歳、50歳～54歳の男性においては「平等である」という回答が最も多くなっている。それ以外の世代では、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い。

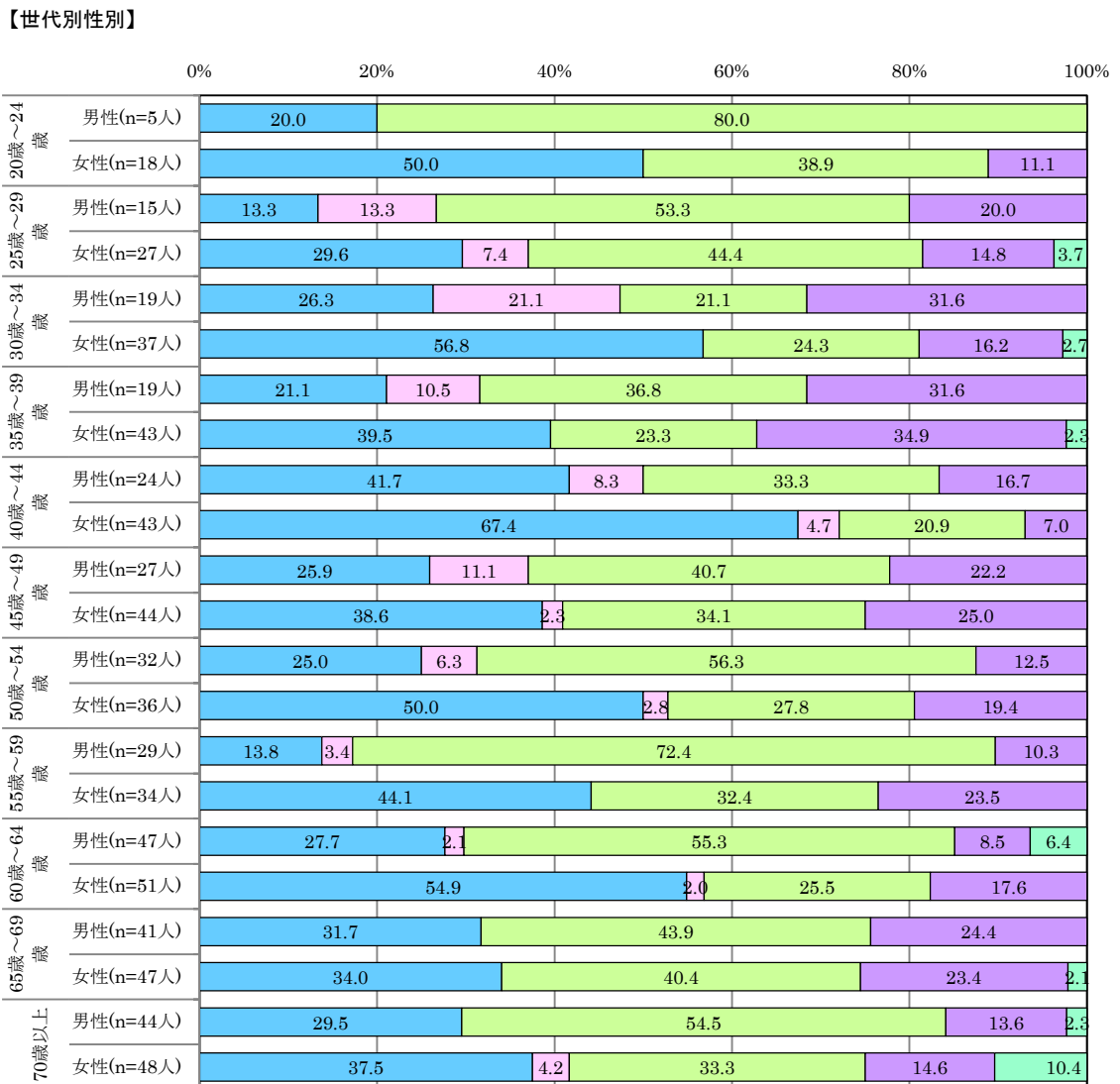
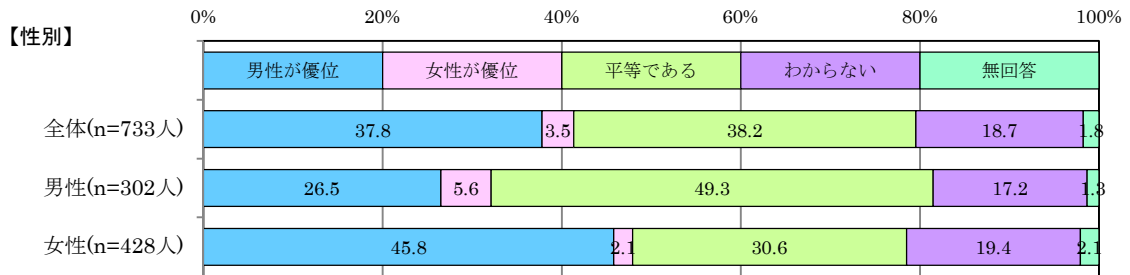


【世代別性別】



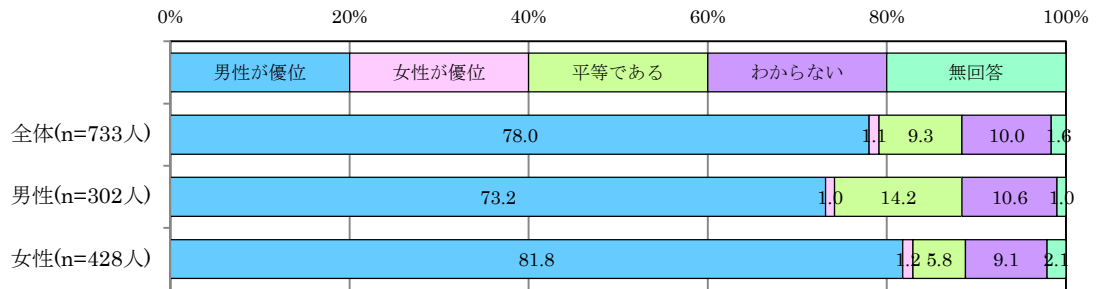
5. 法律や制度の上では

- ・性別でみると、男性では「平等である」という回答が最も多く、約5割（49.3%）となっている。一方、女性は「男性が優位」（45.8%）という回答が、「平等である」（30.6%）という回答を上回っている。法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- ・世代別性別でみると、男性では、30歳～34歳、40歳～44歳以外の世代で、「平等である」という回答が最も多くなっている。一方、20歳～24歳の世代では、「女性が優位」という回答が最も多くなっている。
- ・女性においては、25歳以上の世代で、「男性が優位」という回答が「平等である」という回答を上回っている。

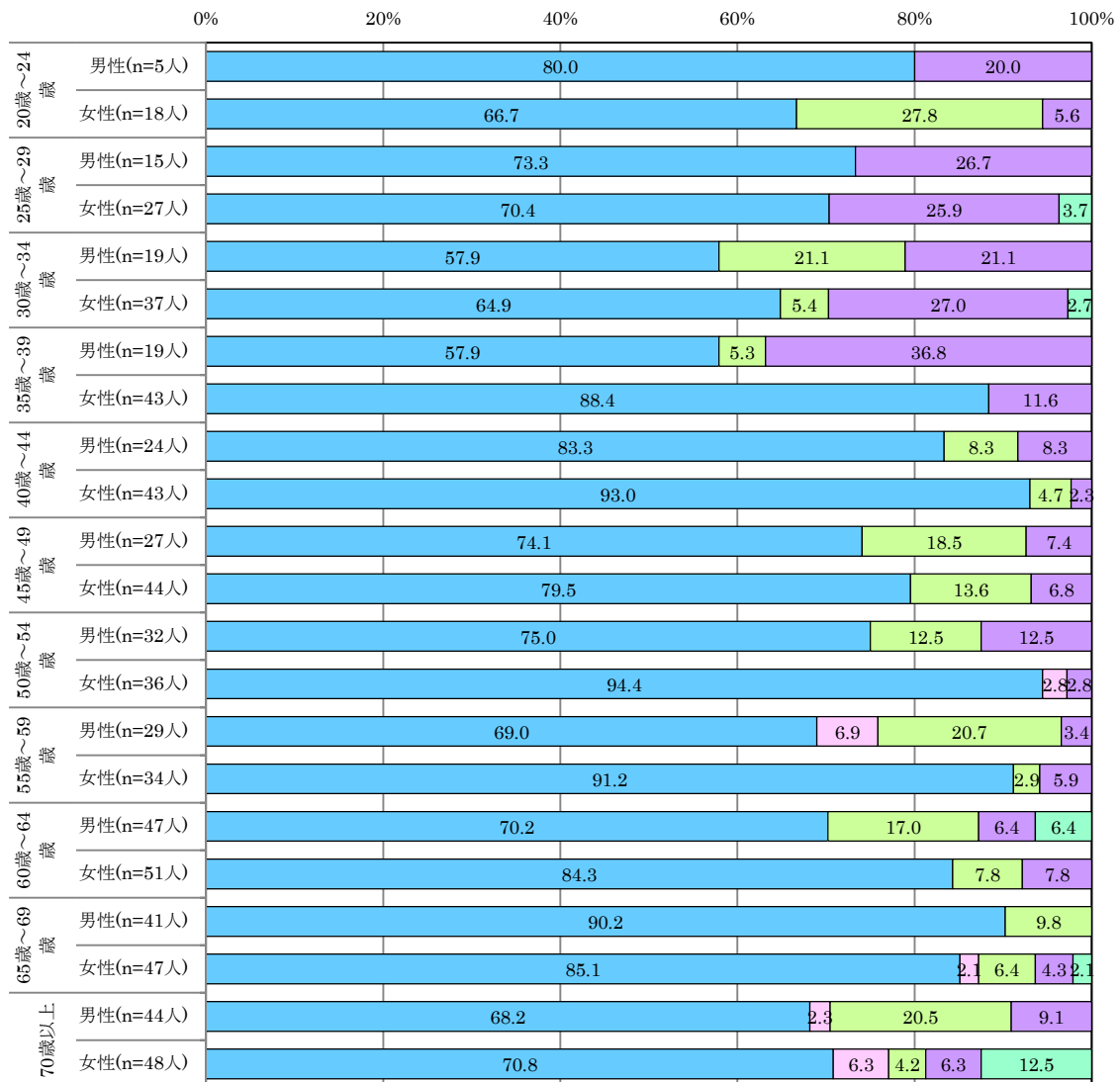


6. 慣習・しきたりでは

- ・性別では、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性は約7割（73.2%）、女性は約8割（81.8%）となっている。
- ・世代別性別でみると、女性では、20歳～24歳、30歳～34歳以上を除き、「男性が優位」という回答がいずれも7割以上となっている。特に、50歳～54歳の女性においては94.4%ときわめて高い。
- ・男性においては、65歳～69歳で「男性が優位」という回答が9割以上となっている。



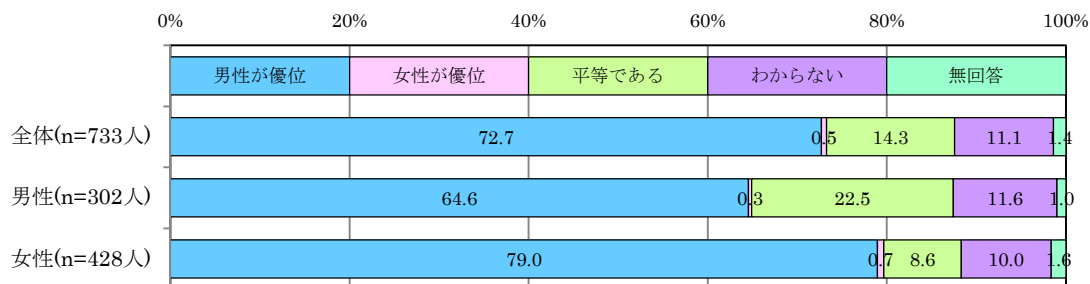
【世代別性別】



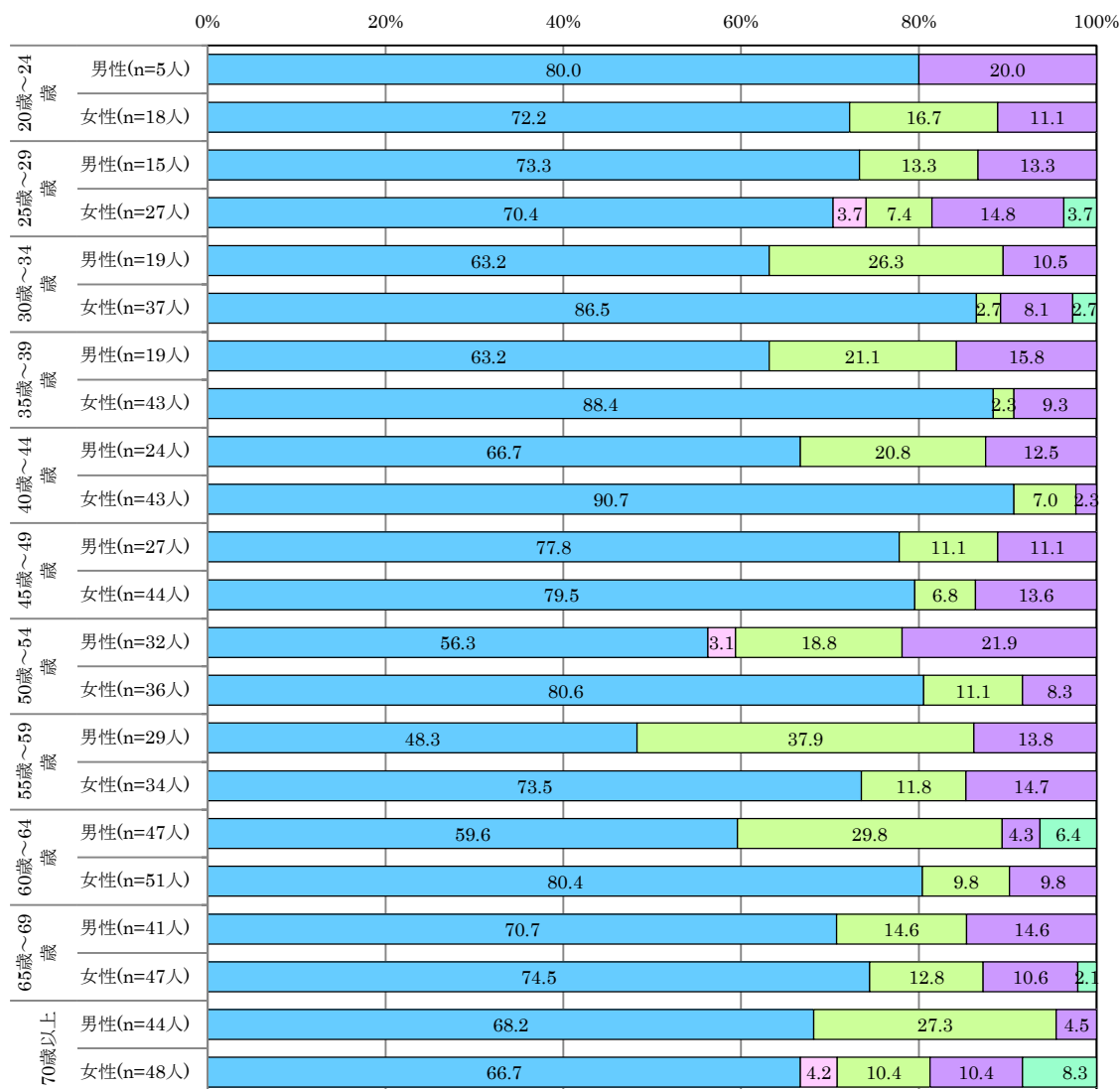
7. 政治の場では

- ・性別でみると、男性は約6割（64.6%）、女性は約8割（79.0%）の方が、「男性が優位」と回答している。「平等である」という回答は、男性が約2割（22.5%）なのに対して、女性は1割未満（8.6%）となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多くなっている。

【性別】

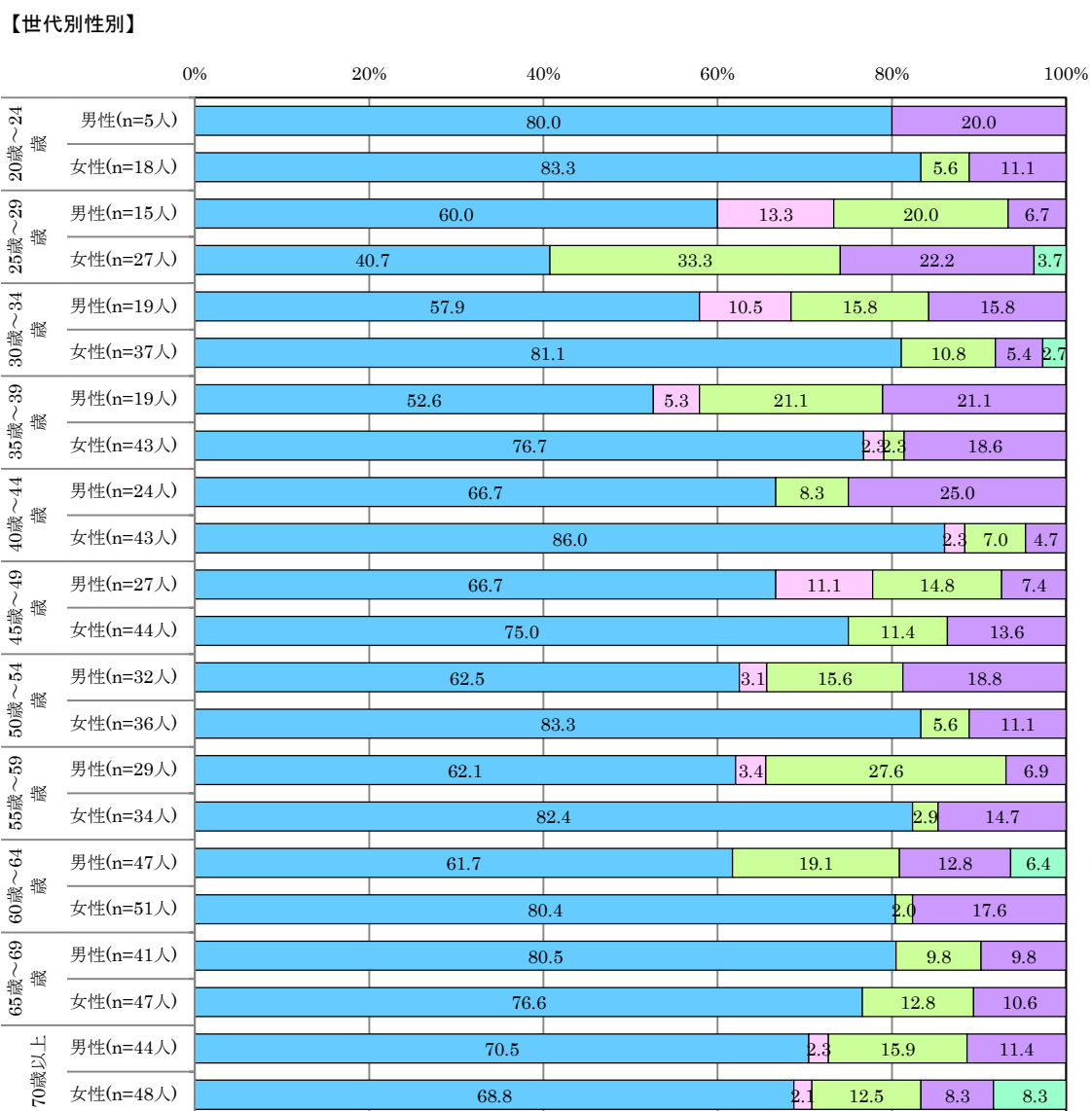
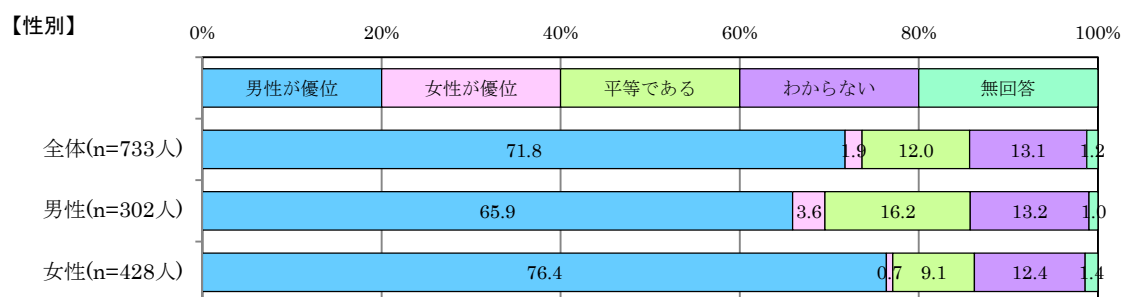


【世代別性別】



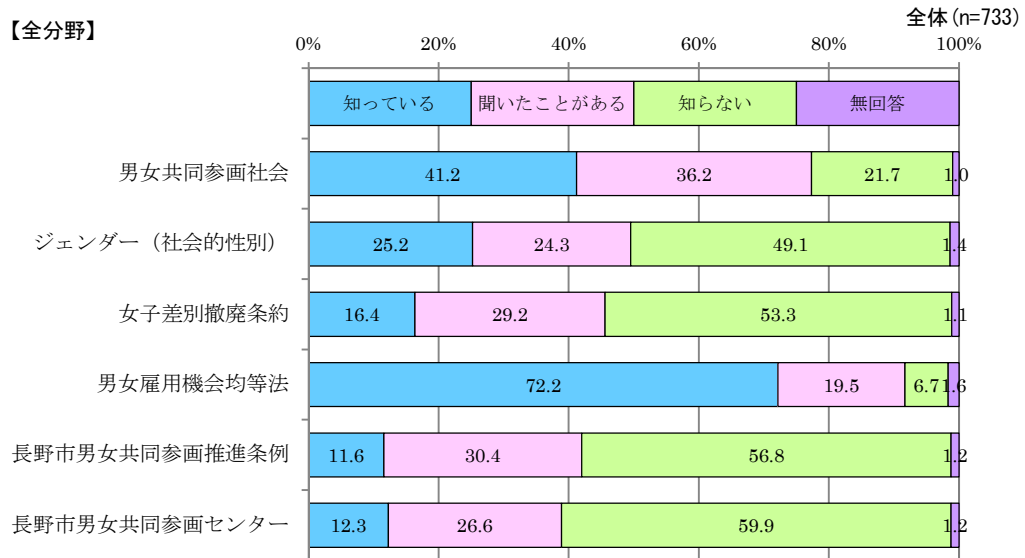
8. 社会全体では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、いずれも6割を超えている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割（16.4%）、女性が約1割（9.1%）となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多い。



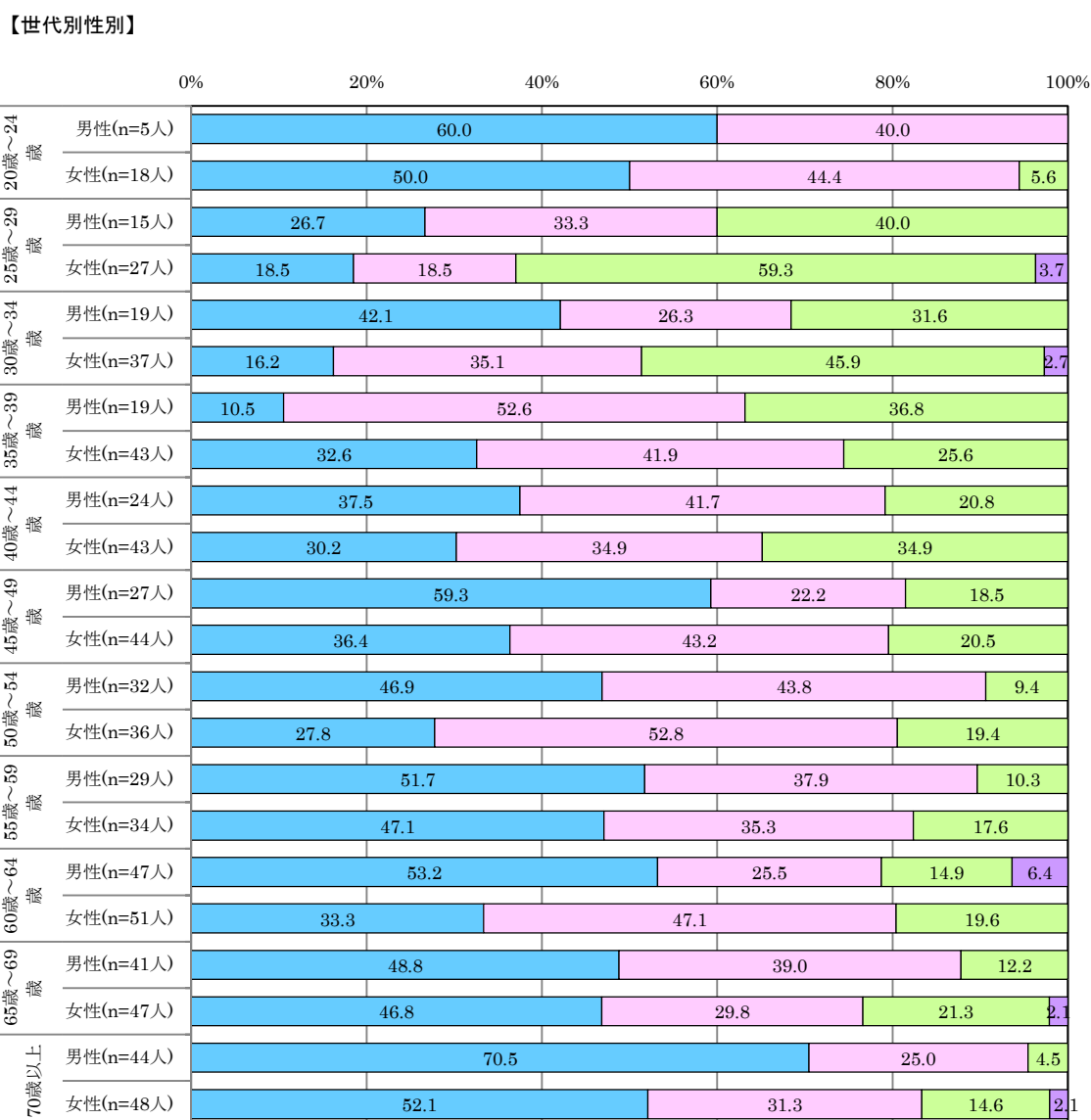
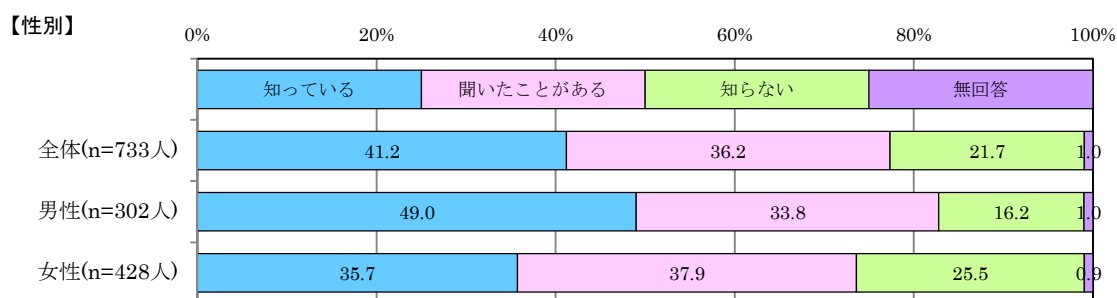
問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答を合計すると、「男女雇用機会均等法」は約9割（91.7%）となり、高い回答割合となっている。次いで、「男女共同参画社会」も約7割（77.4%）と認知度が高い。一方、「ジェンダー（社会的性別）」は約5割（49.5%）、「女子差別撤廃条約」が約5割（45.6%）、「長野市男女共同参画推進条例」（42.0%）と、「長野市男女共同参画センター」（38.9%）が約4割となっている。



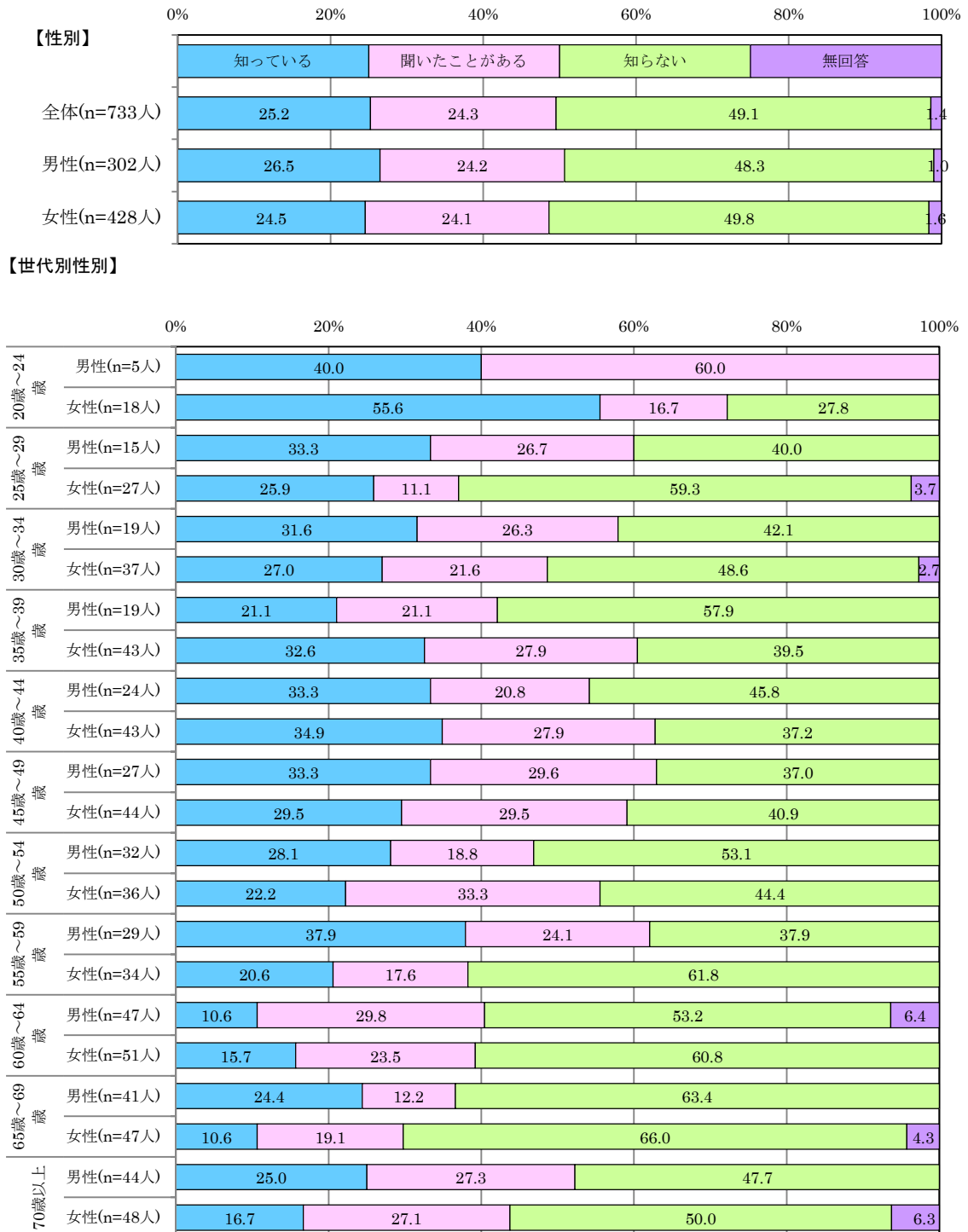
1. 男女共同参画社会

- 性別では、「知っている」及び「聞いたことがある」の回答割合は、男性が約8割（82.8%）、女性が約7割（73.6%）となり、男性の方が「男女共同参画社会」については知っていることが分かる。
- 世代別性別でみると、男性は25歳～29歳以上で、「知らない」という回答が3割以上となっている。一方、女性は25歳～29歳と30歳～34歳で「知らない」が最も多い回答で、約5割となっている。



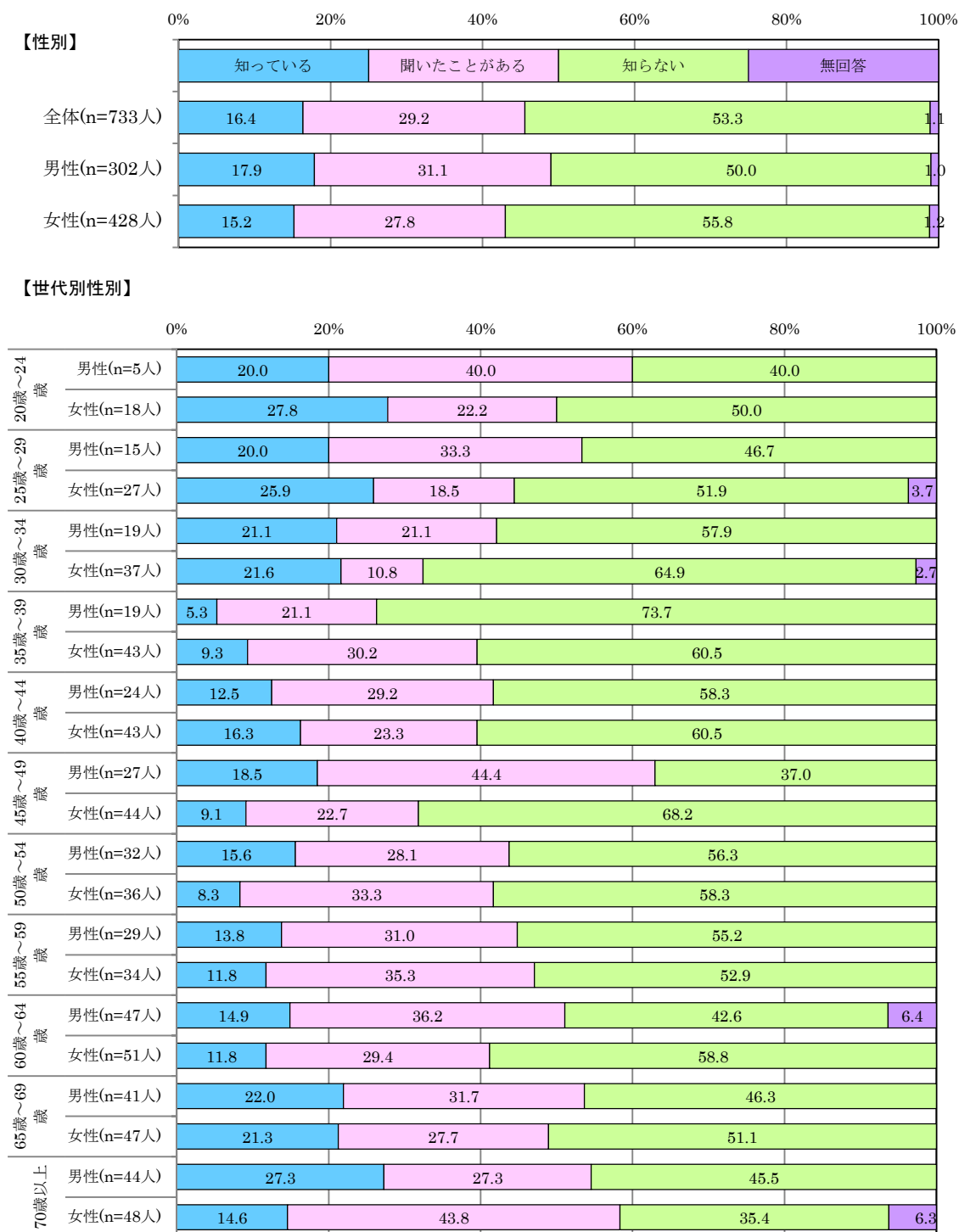
2. ジェンダー（社会的性別）

- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多い回答となり、男性が48.3%、女性が49.8%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答合計は、男性が50.7%、女性が48.6%となり、男性の方が女性よりやや回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、65歳～69歳の女性では、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答合計がやや少ない結果となる。



3. 女子差別撤廃条約

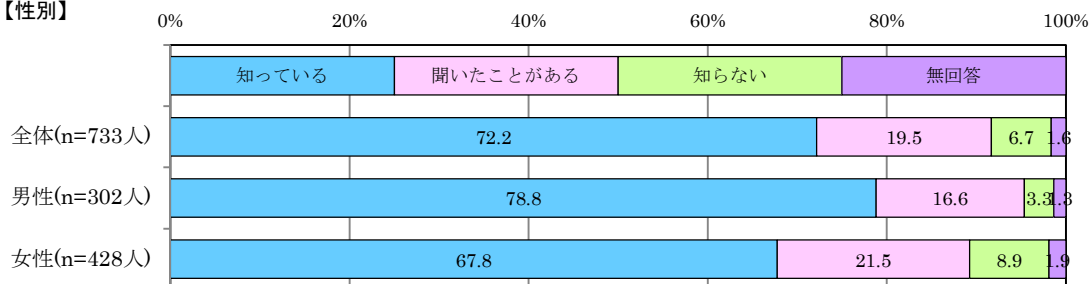
- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が 50.0%、女性が 55.8% となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合合計は、男性が 49.0%、女性が 43.0% で、やや男性の方が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性では、45 歳～49 歳の年代で、女性では 70 歳以上で最も多くなっている。
- ・45 歳以上の年代では、女性より男性の方が「知っている」という回答が多くなっている。



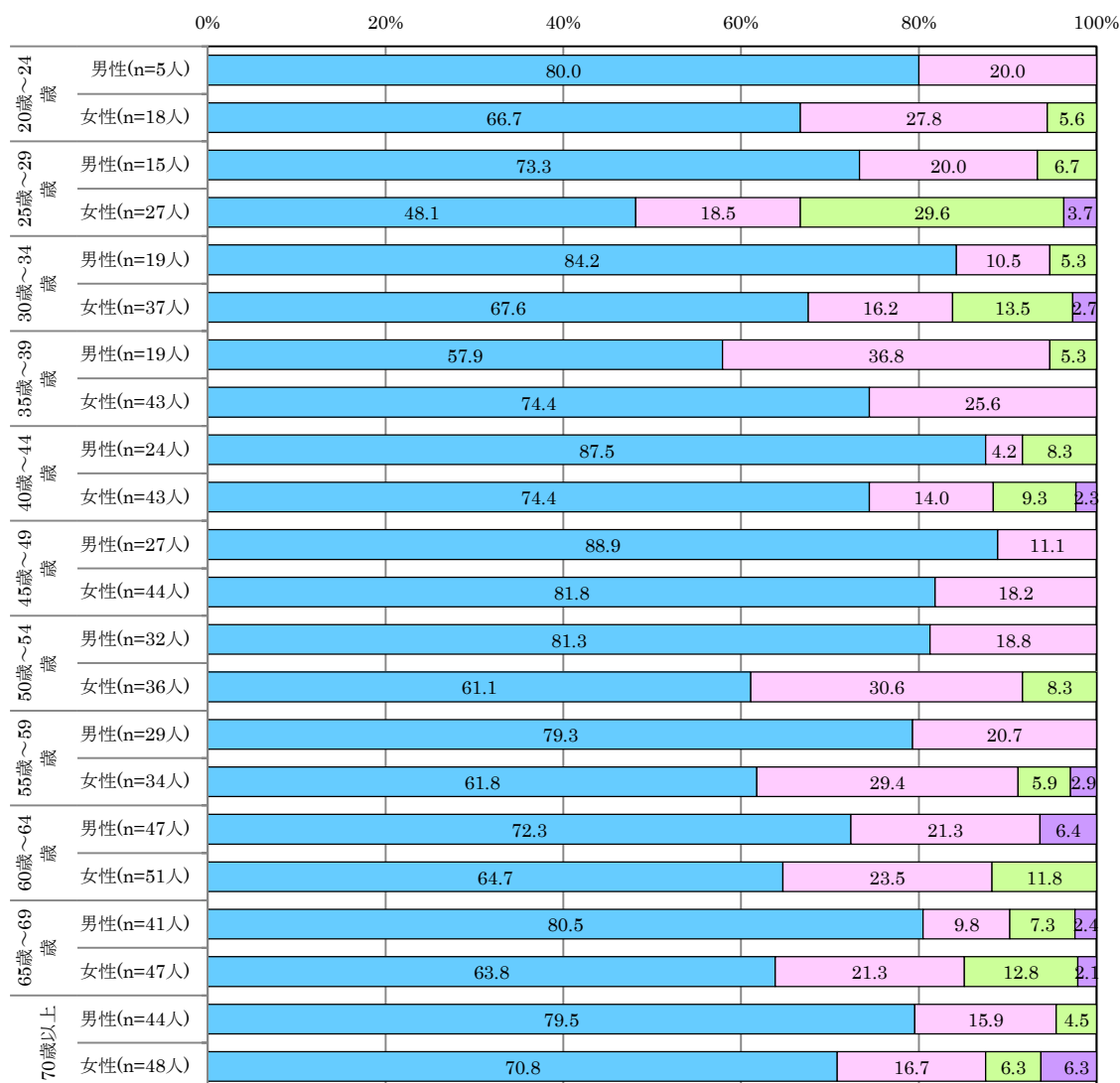
4. 男女雇用機会均等法

- ・性別でみると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合合計は、男性が95.4%、女性が89.3%で、どちらも約9割と高くなっている。
- ・世代別性別でみると、45歳～49歳の男女と、20歳～24歳、50歳代の男性、及び35歳～39歳の女性では、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が100.0%になっている。
- ・25歳～29歳の女性においては、「知っている」という回答割合が、やや低くなっている。

【性別】



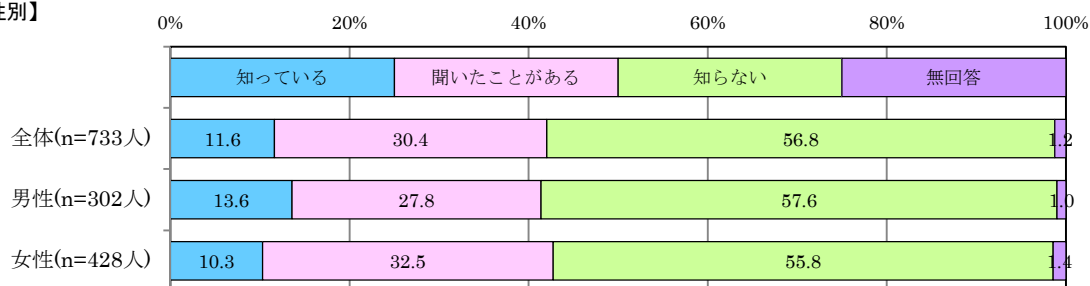
【世代別性別】



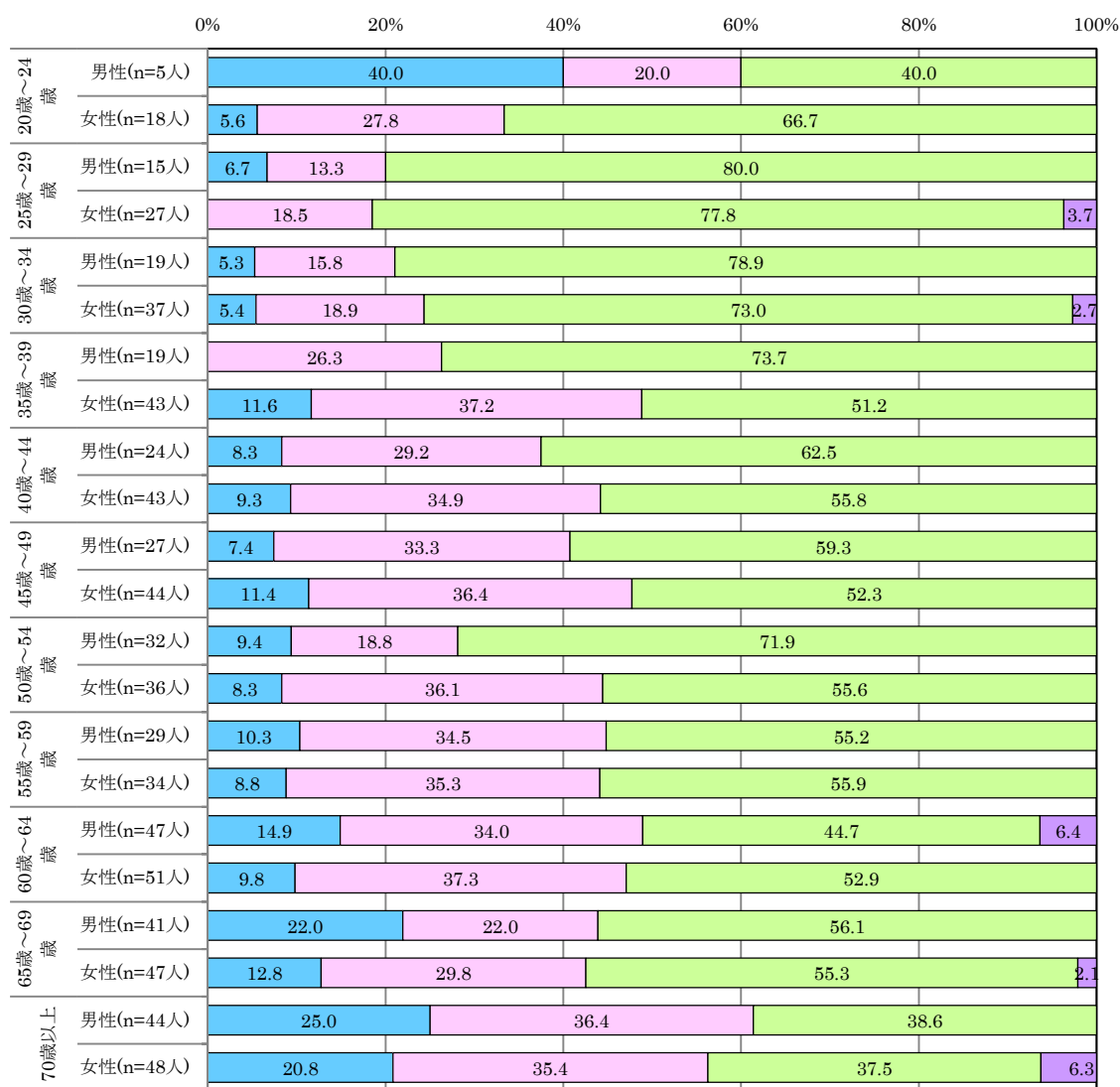
5. 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性で約6割（57.6%）、女性も約6割（55.8%）となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答合計も、男性が41.4%、女性が42.8%となっており、若干女性の方が多い。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳代の男性では「知らない」という回答は8割を超えている。70歳以上の世代で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合が約6割以上となっている。

【性別】

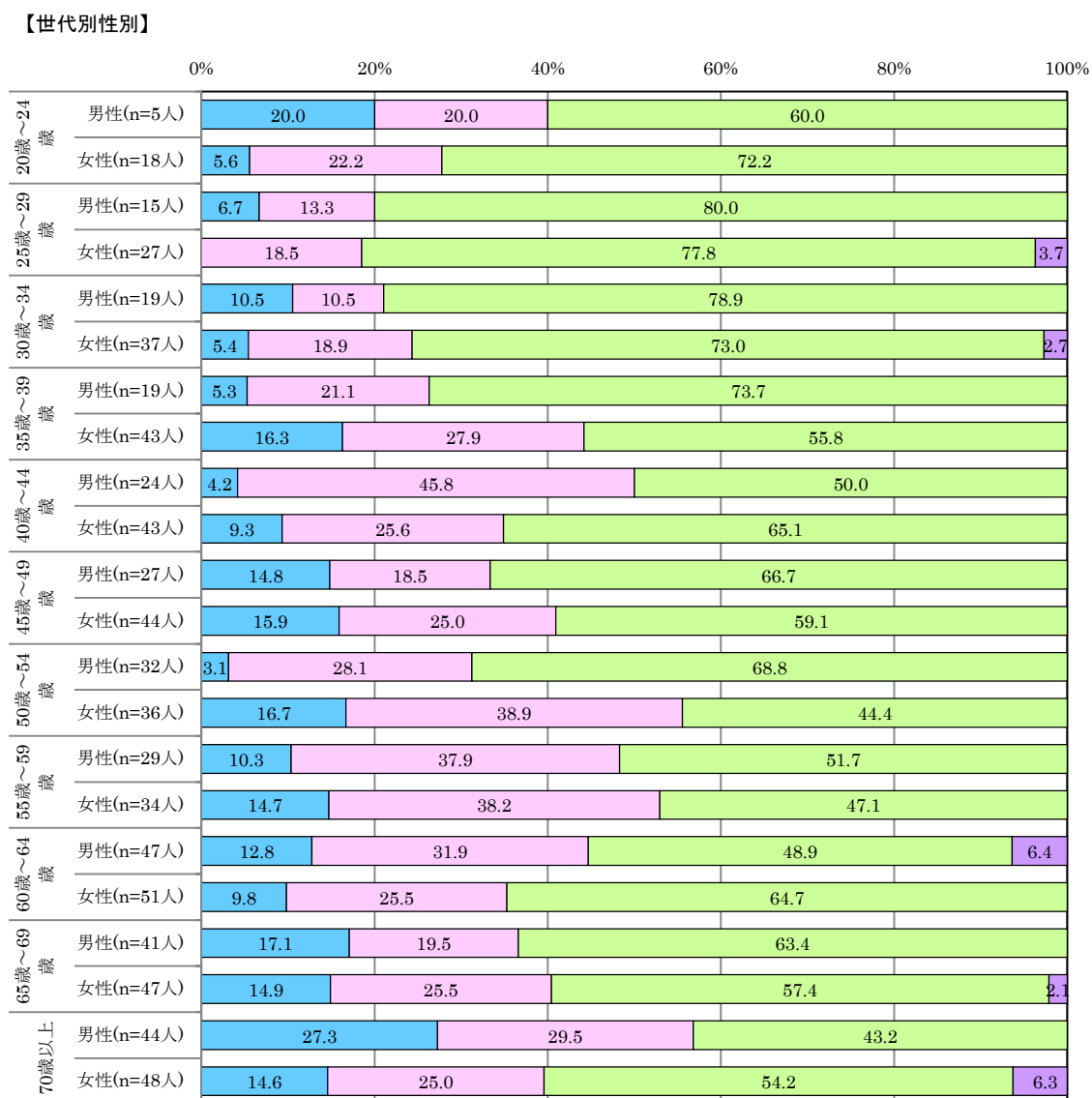
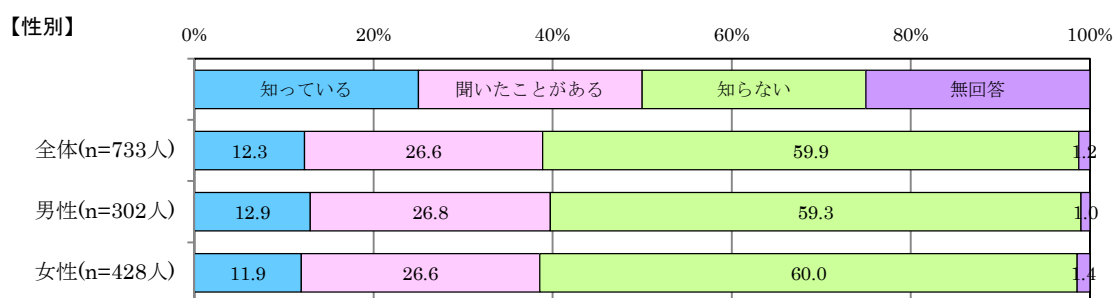


【世代別性別】



6. 長野市男女共同参画センター

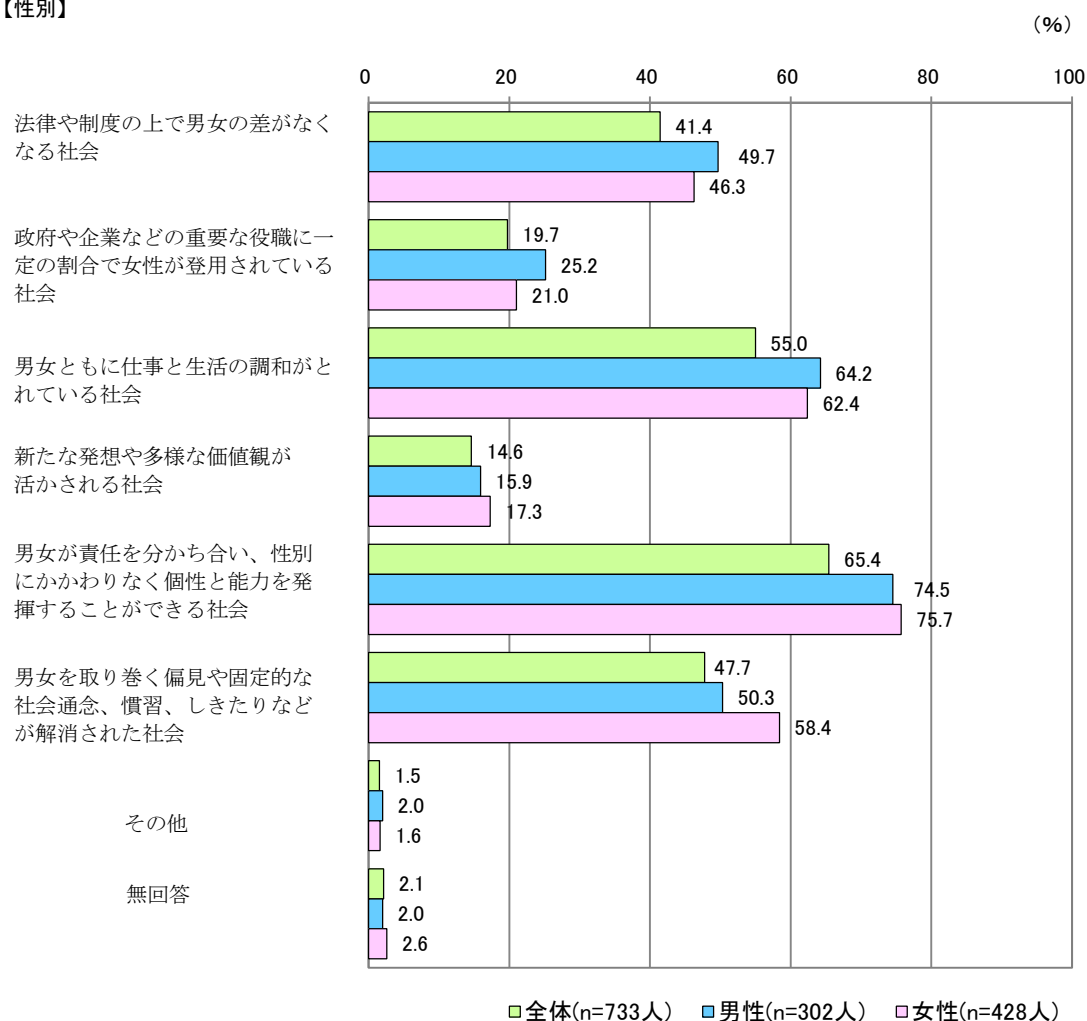
- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が59.3%、女性が60.0%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答合計は、男性が39.7%、女性が38.5%となり、女性の方が多い。
- ・世代別性別で見ると、25歳～29歳では男女とも約8割が「知らない」という回答となっている。



問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

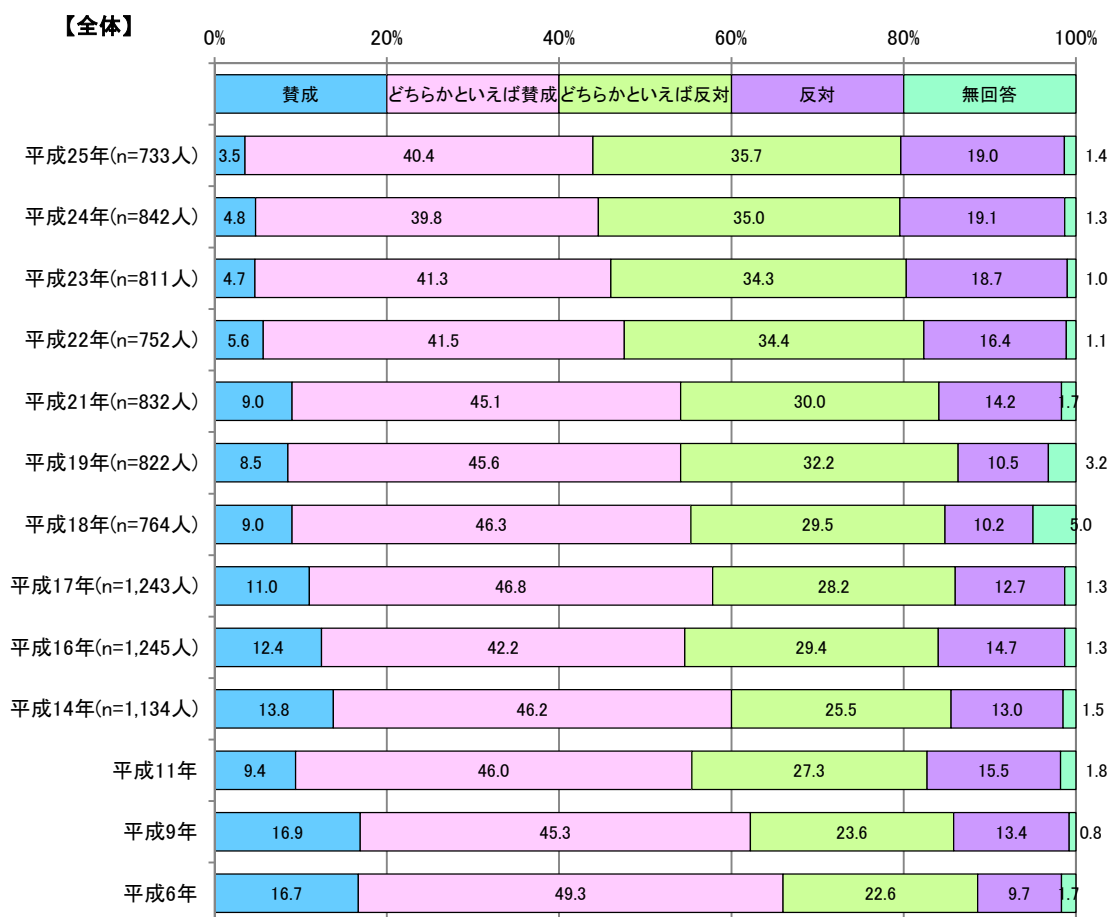
- ・全体では、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会」が約7割（65.4%）で最も多い。次いで、「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」（55.0%）、「男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会」（47.7%）、「法律や制度の上で男女の差がなくなる社会」（41.4%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会」という回答は、男性が50.3%で、女性が58.4%となっており、女性の回答割合が約1割ほど高くなっている。

【性別】

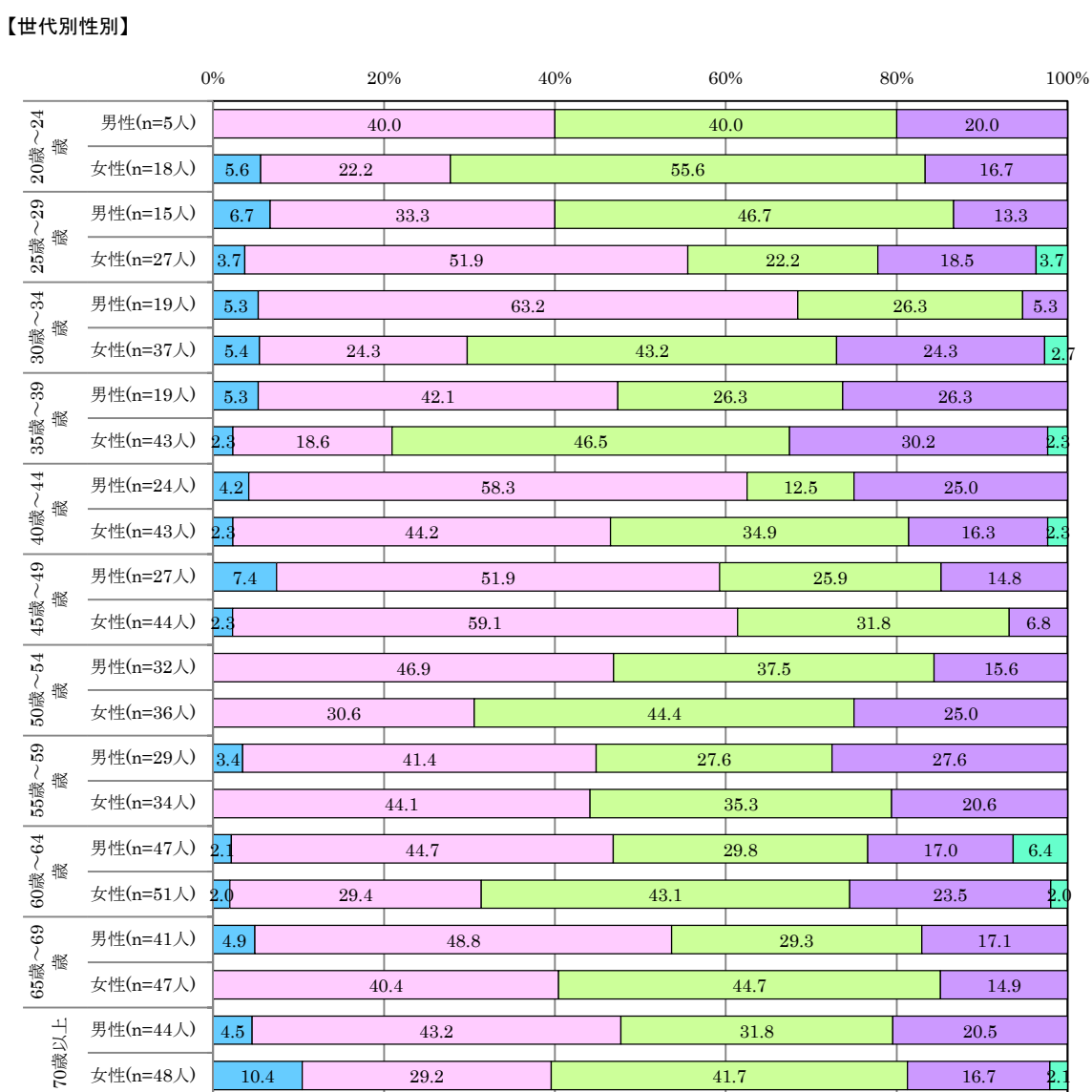
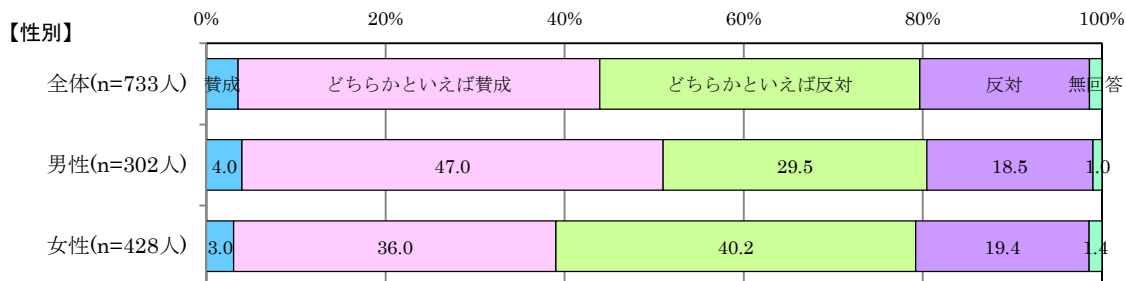


問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

- ・平成25年の調査結果は、「賛成」が3.5%「どちらかといえば賛成」が40.4%、「どちらかといえば反対」が35.7%、「反対」が19.0%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾向にあり、平成25年は平成24年と比べ、0.7ポイント減少となった。



- ・性別でみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答の合計は、男性が49.3%、女性が39.0%となっている。女性より男性の方が、性別によって役割を固定する考え方に肯定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は、20歳代、70歳以上の年代で「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答合計が4割を下回っており、それ以外の年代より回答割合が低くなっている。

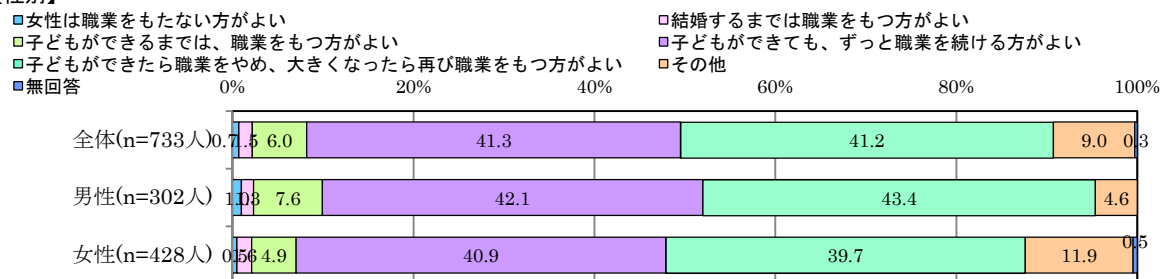


問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。

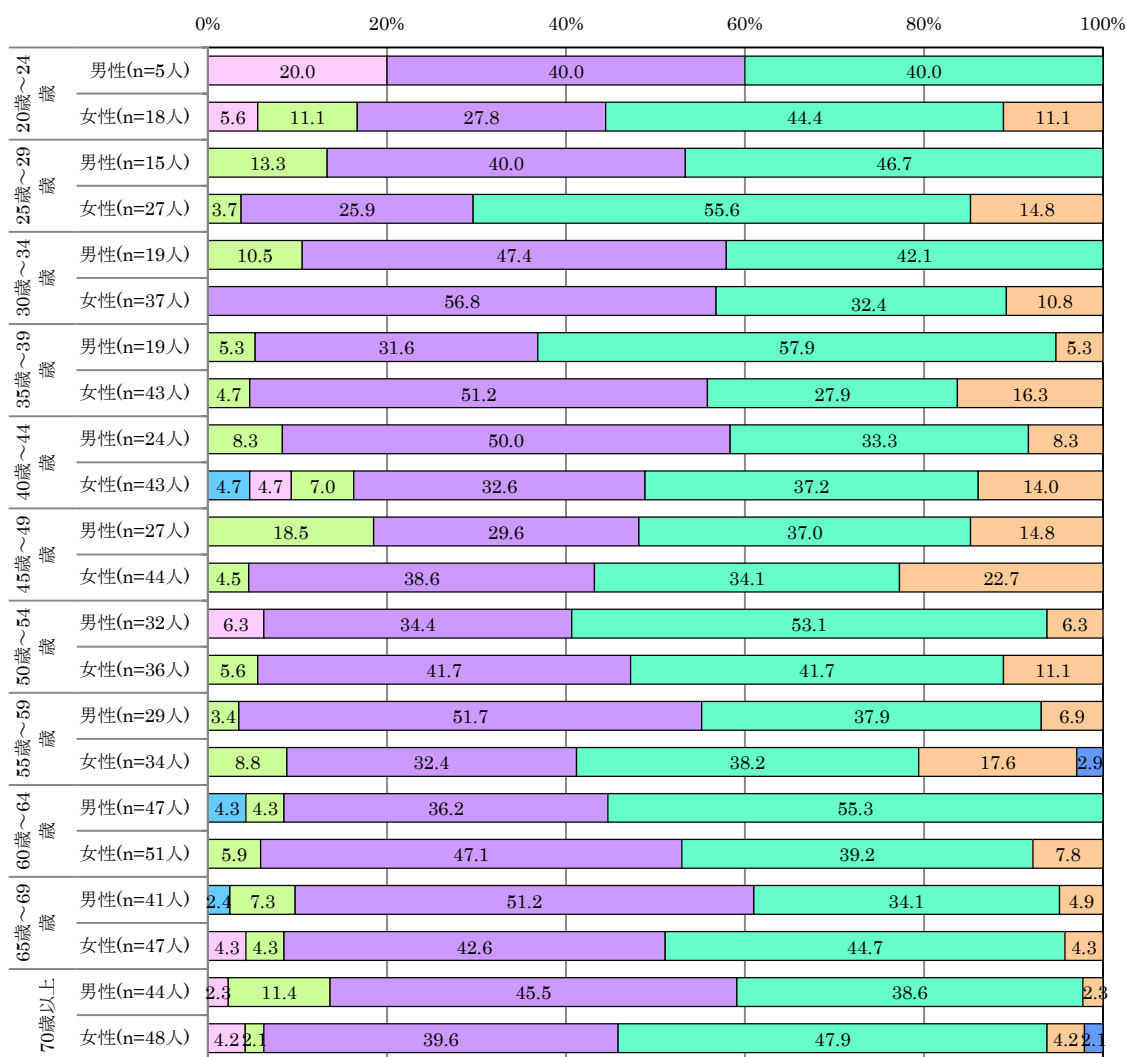
次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男性は、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(43.4%)という回答が最も多く、一方女性は、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(40.9%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別で見ると、男性は55歳～59歳及び65歳～69歳の年代では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が多くなっている。
- ・一方、女性は30歳代の年代で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が多い。

【性別】



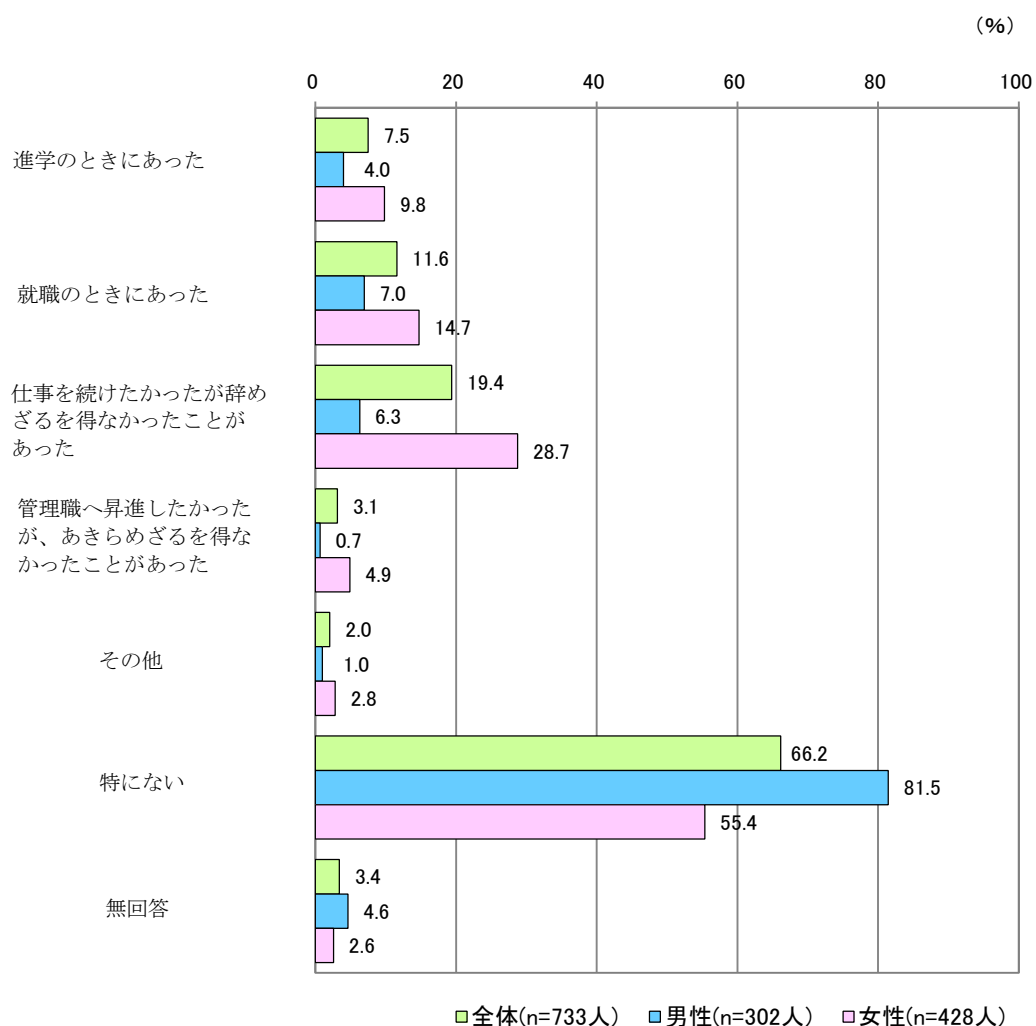
【世代別性別】



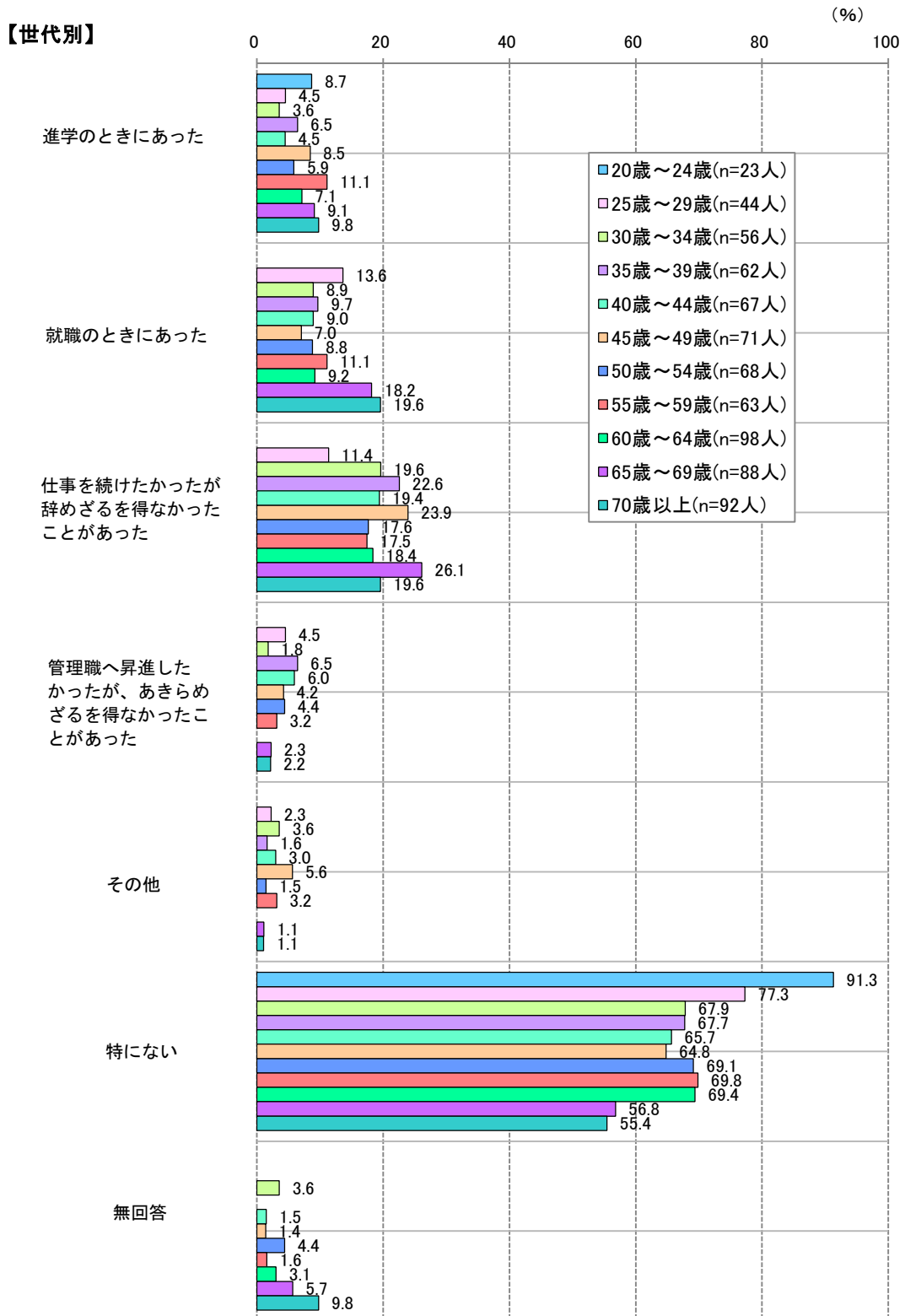
問6 男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をしたことがありますか。
あなたにあてはまるものすべてをお選びください。

- ・全体でみると、「特にない」という回答が約7割（66.2%）で最も多い回答となっている。
- ・次に多い回答は、「仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった」が約2割（19.4%）、「就職のときにあった」が約1割（11.6%）となっている。
- ・性別でみると、「特にない」という回答割合は、男性が約8割（81.5%）を超えている。一方、女性は、約6割（55.4%）と男性に比べ少なくなっている。
- ・いずれの場面においても、女性が男性の回答割合を上回っている。女性においては、「仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった」（28.7%）、「就職のときにあった」（14.7%）、「進学の際にあった」（9.8%）の順で回答割合が多くなっている。

【性別】



- ・世代別でみると、「仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった」という回答は、年齢が高いほど、回答割合も他の選択肢より比較的高い傾向にあるといえる。
- ・「就職のときにあった」は65歳以上で比較的高い回答割合となっている。「進学ของときにあった」は、55歳～59歳以上の年代で約1割（11.1%）と回答割合が高くなっている。

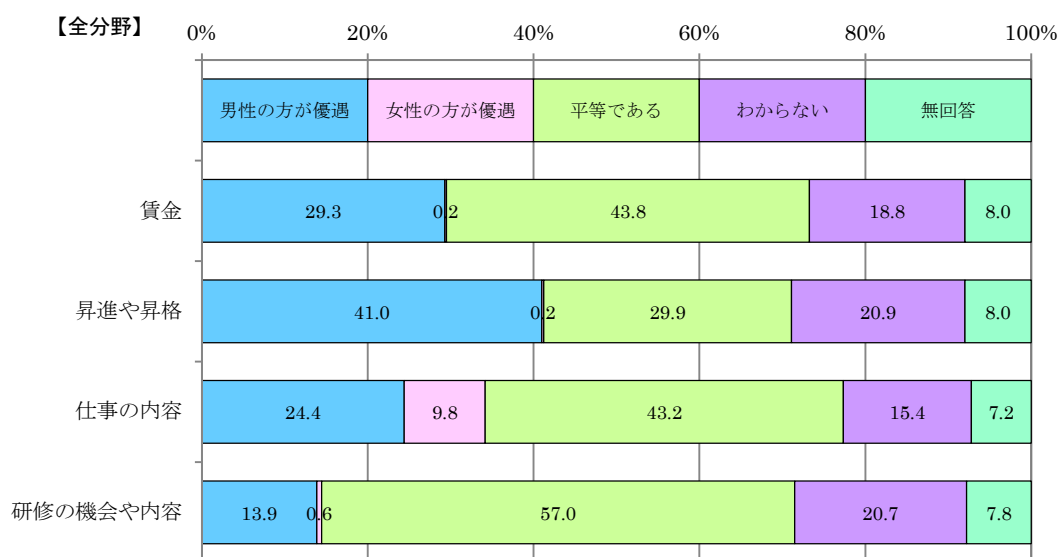


労働に関する問題

問7 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか
 (次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。あてはまる番号を1つ
 ずつお選びください。

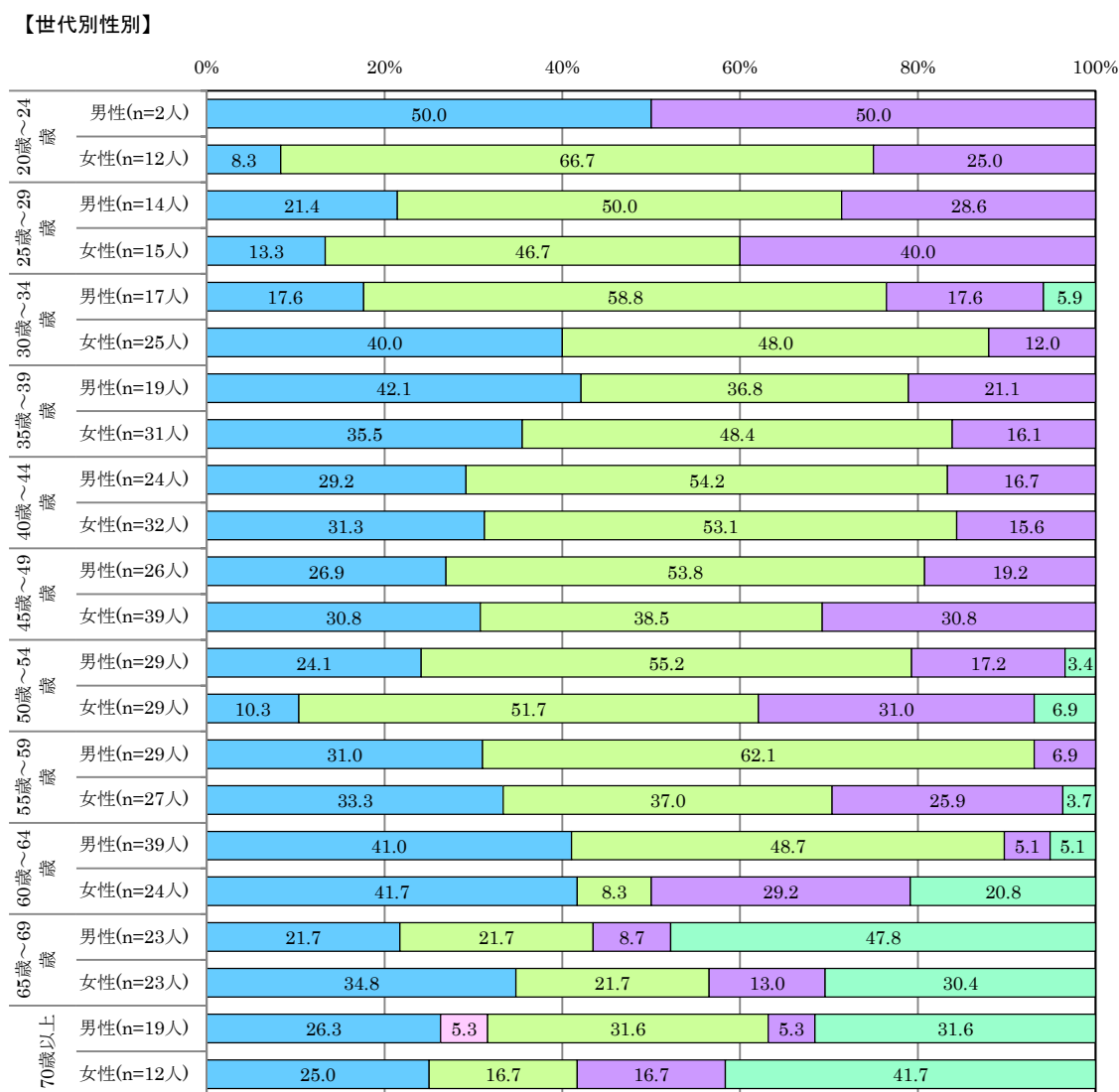
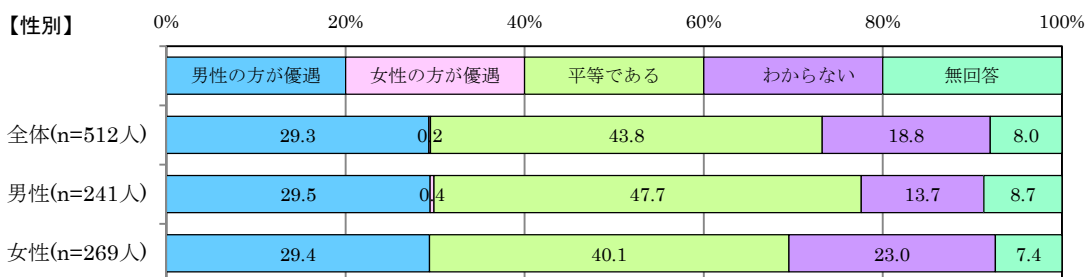
- ・全分野において、「男性の方が優遇されている」という回答でみると、「昇進や昇格」が約4割(41.0%)で、最も多くなっている。次いで、「賃金」が約3割(29.3%)、「仕事の内容」(24.4%)、「研修の機会や内容」(13.9%)の順が続いている。
- ・一方、「女性の方が優遇されている」という回答は、「仕事の内容」について約1割(9.8%)の回答がある。それ以外の分野では、いずれも1%以下となっている。



(全体 n=512人)

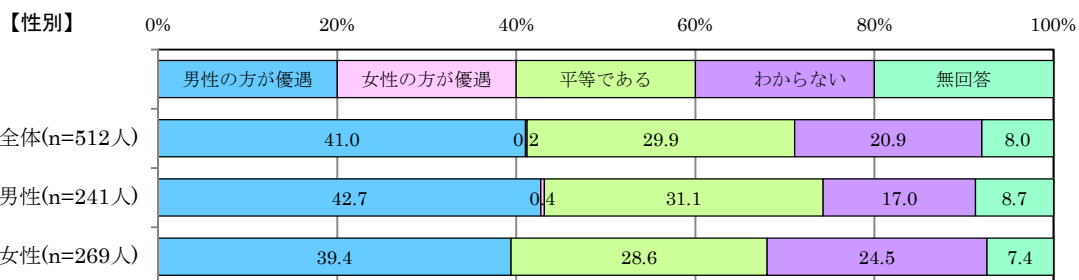
1. 賃金

- 性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、男性は47.7%で、女性は40.1%となっている。
- 世代別性別でみると、「平等である」という回答は、30歳～34歳、55歳～59歳の男性で約6割となっている。
- 「男性の方が優遇されている」という回答は、35歳～39歳の男性と、60歳～64歳の男女で4割以上と、ほかの年代に比べて高くなっている。

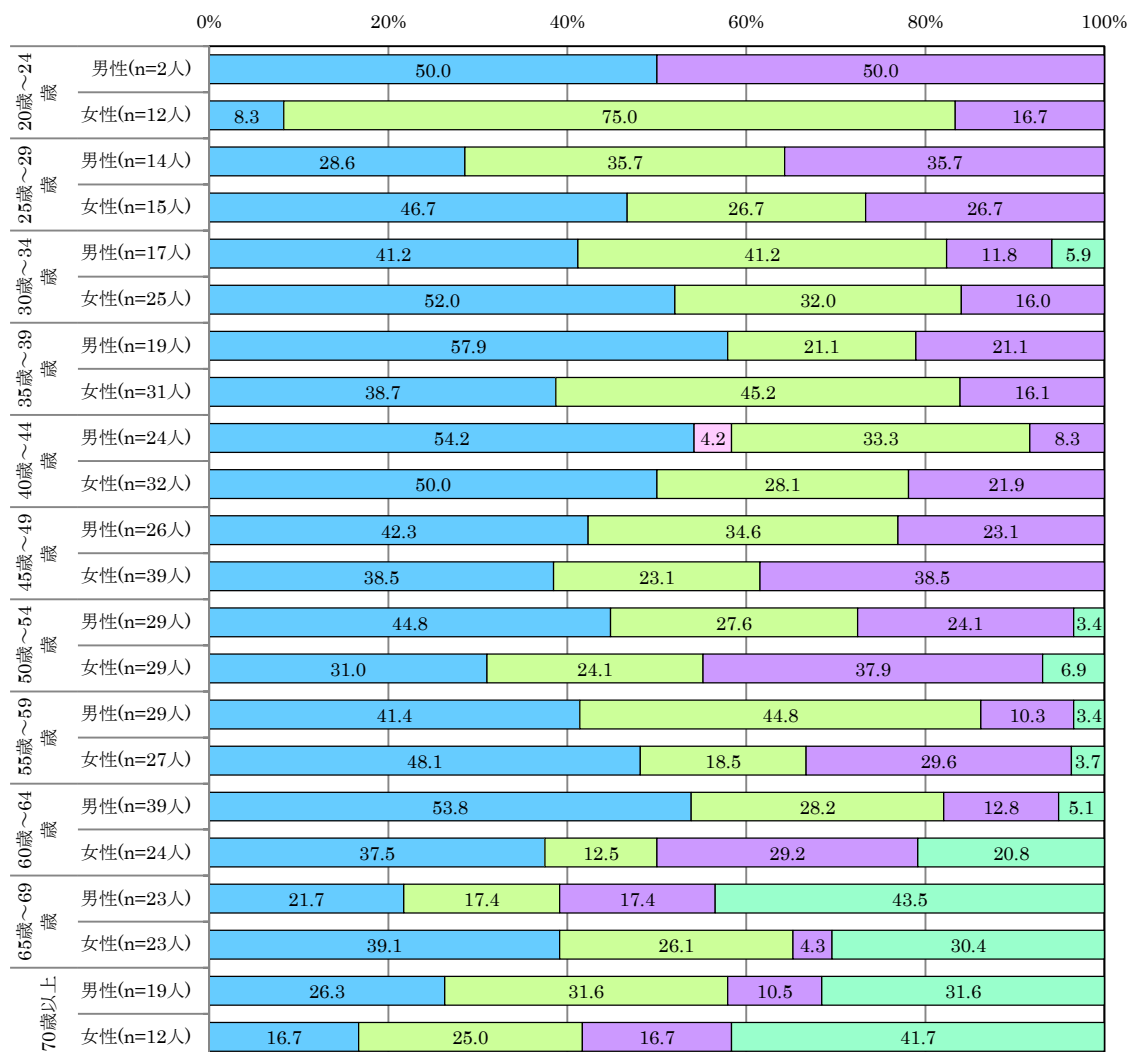


2. 昇進や昇格

- 性別でみると、男女とも「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、どちらも約4割の回答割合となっている。一方、「女性の方が優遇されている」という回答は、男性の方が女性より2%多い回答となっている。
- 「平等である」という回答は、男性が約3割（31.1%）、女性が約3割（28.6%）となり、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。
- 世代別性別でみると、男性は35歳～39歳、40歳～44歳、60歳～64歳の年代で「男性の方が優遇されている」という回答が、「平等である」という回答を上回っている。女性は25歳～29歳、30歳～34歳以外の年代で同様の傾向にある。

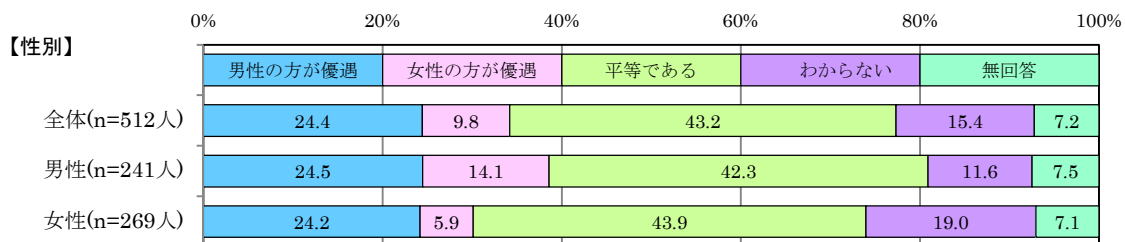


【世代別性別】

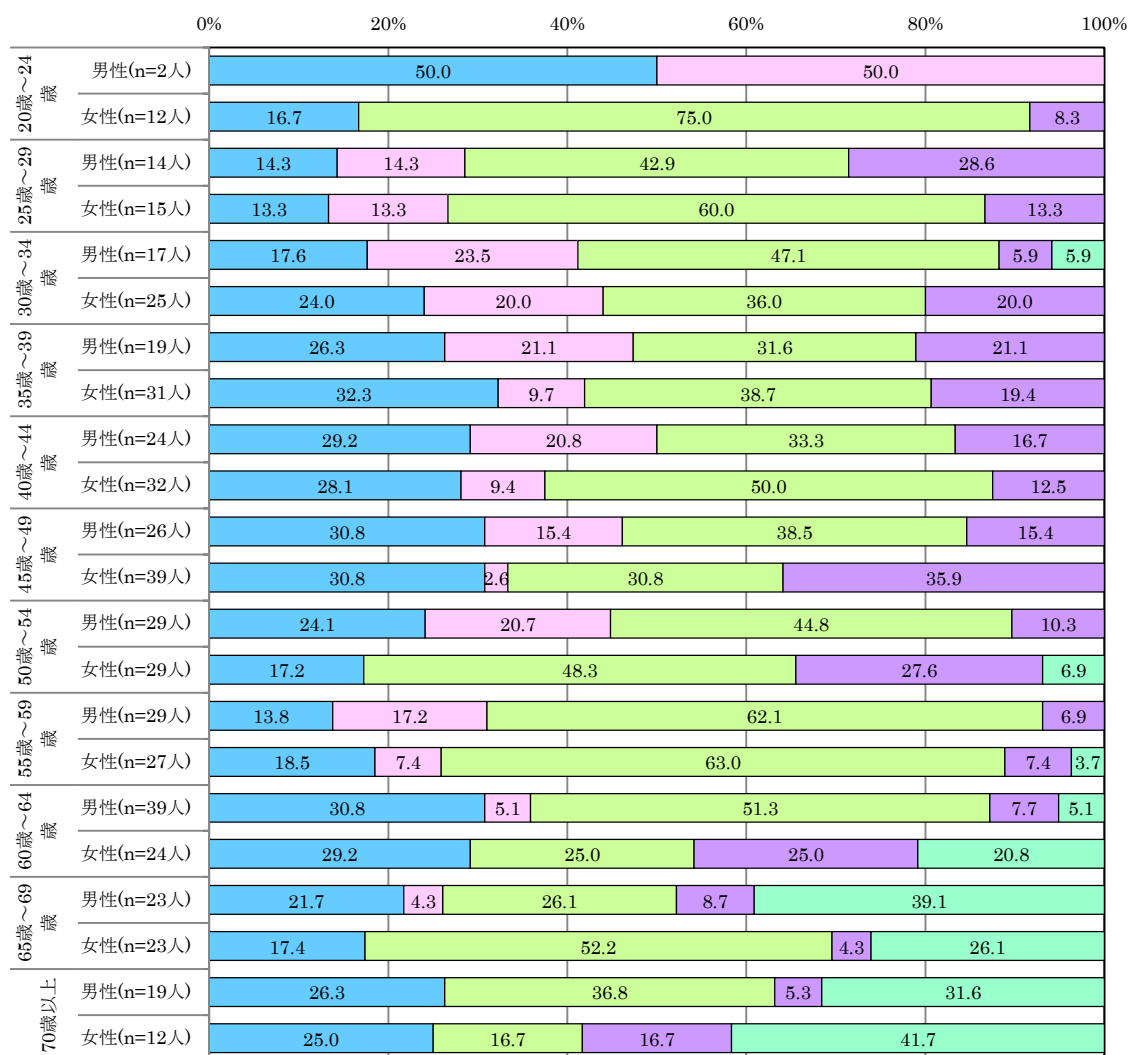


3. 仕事の内容

- ・性別で見ると、男女とも「平等である」という回答が最も多い回答となっている。回答割合は、男性が42.3%、女性が43.9%となり、女性の回答割合が男性より高くなっている。
- ・「女性の方が優遇されている」という回答は、男性が14.1%、女性が5.9%で、男性の回答割合が高く、男女間に差がみられる。
- ・世代別性別では、60歳～64歳、70歳以上の女性においては、「男性の方が優遇されている」という回答が、「平等である」という回答を上回っている。
- ・一方、「女性の方が優遇されている」という回答は、30歳～34歳と55歳～59歳の男性で、「男性の方が優遇されている」を上回っている。

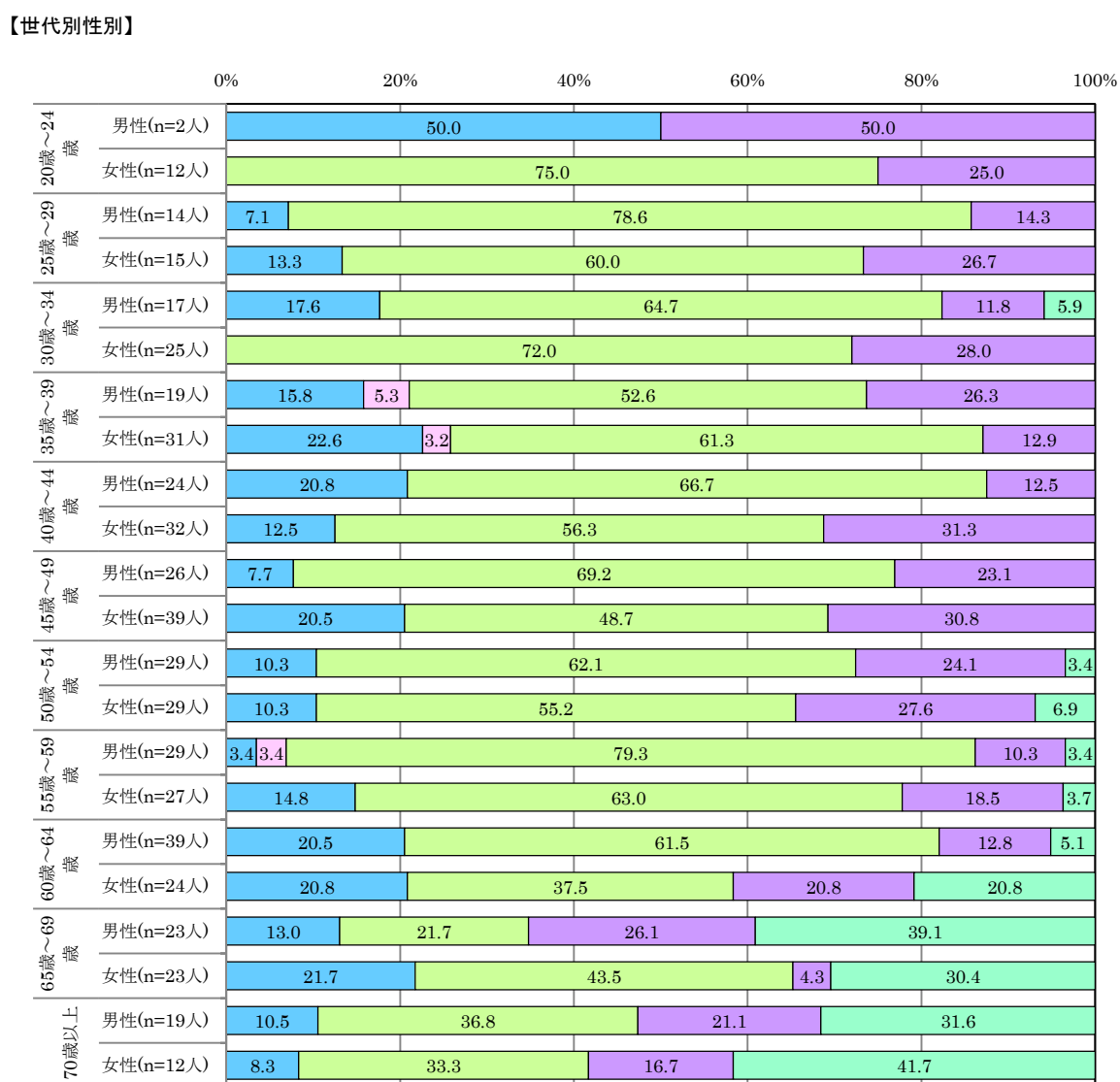
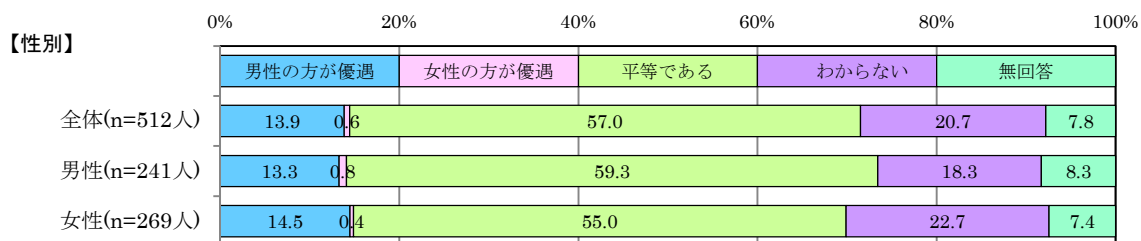


【世代別性別】



4. 研修の機会や内容

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が59.3%、女性が55.0%で約6割となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳、65歳～69歳の男性以外は、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・65歳以上の男女で、「わからない」、「無回答」が多い傾向がみられる。

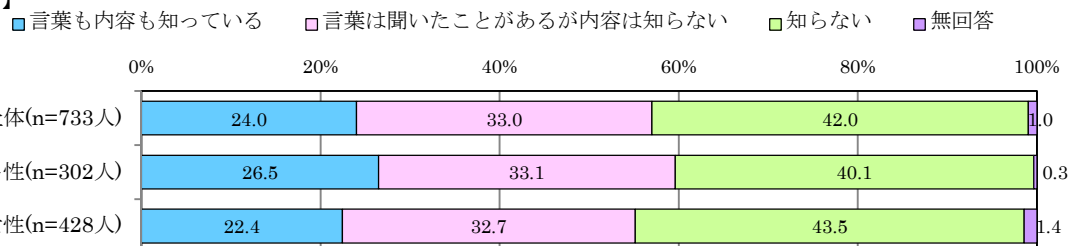


仕事と家庭生活の調和に関する問題

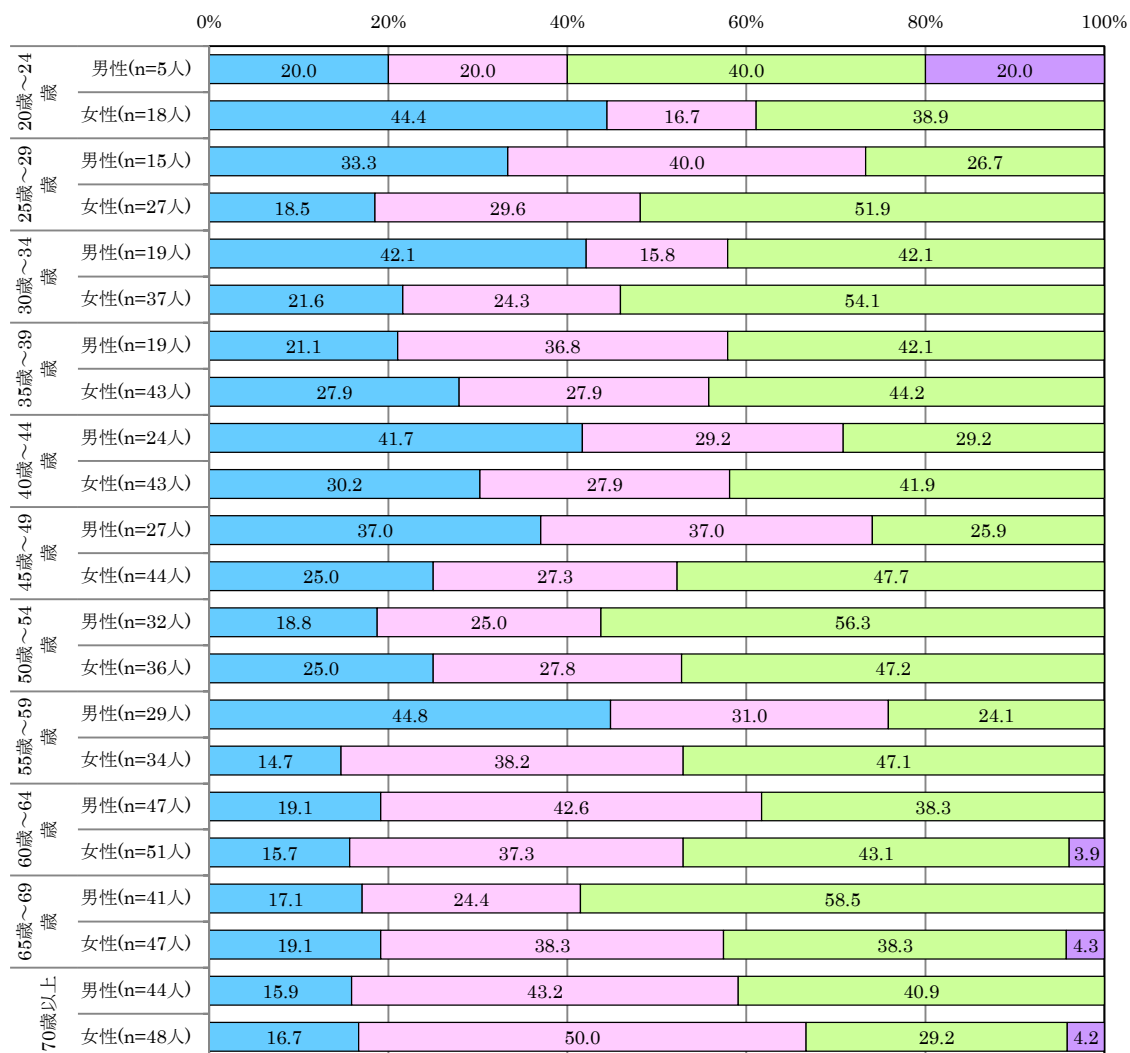
問8 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、どちらも4割を超えている
- ・「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が26.5%、女性が22.4%で、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では65歳～69歳、女性では30歳～34歳の世代の方が、「知らない」という回答割合が高くなっている。

【性別】



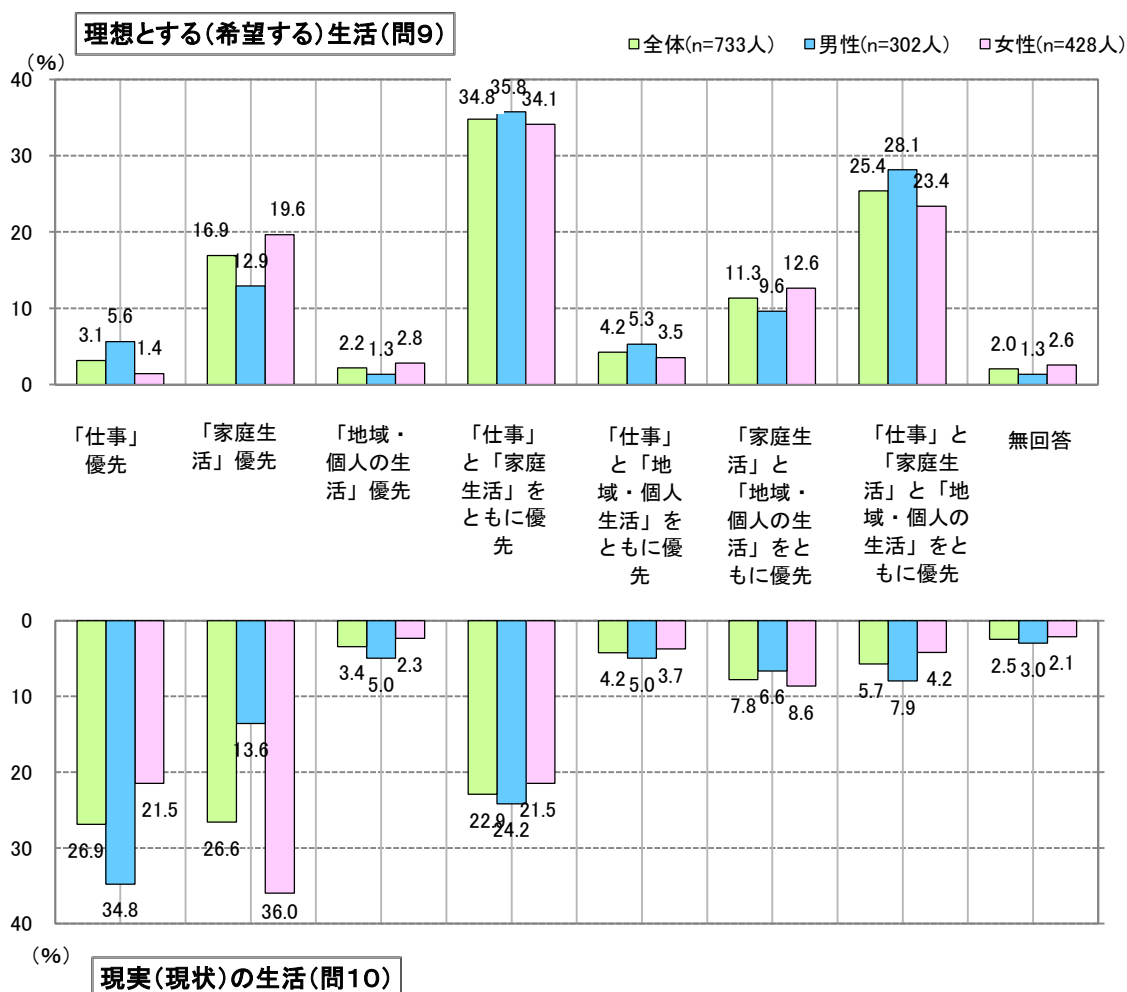
【世代別性別】



問 9 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

問 10 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- ・全体で見ると、問9の理想とする生活については「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が最も多く、約3割（34.8%）となっている。次に、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」（25.4%）、「『家庭生活』優先」（16.9%）の順に続いている。
- ・一方、問10の現実の生活では、「『仕事』優先」という回答が最も多く、約3割（26.9%）となっている。次いで、「『家庭生活』優先」（26.6%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（22.9%）となっている。
- ・理想の生活では6番目であった「『仕事』優先」が、現実の生活では1番目に多い回答となっている。また、理想の生活で2番目に多かった「『仕事』と『家庭生活』、『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、現実の生活では、5番目となっている。
- ・性別で見ると、理想の生活においては男女の回答に大きな差は見られず、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。しかし、現実の生活においては、男性は「『仕事』優先」、女性は「『家庭生活』優先」が最も多い回答となり、理想の生活と現実の生活に差があることがうかがえる。

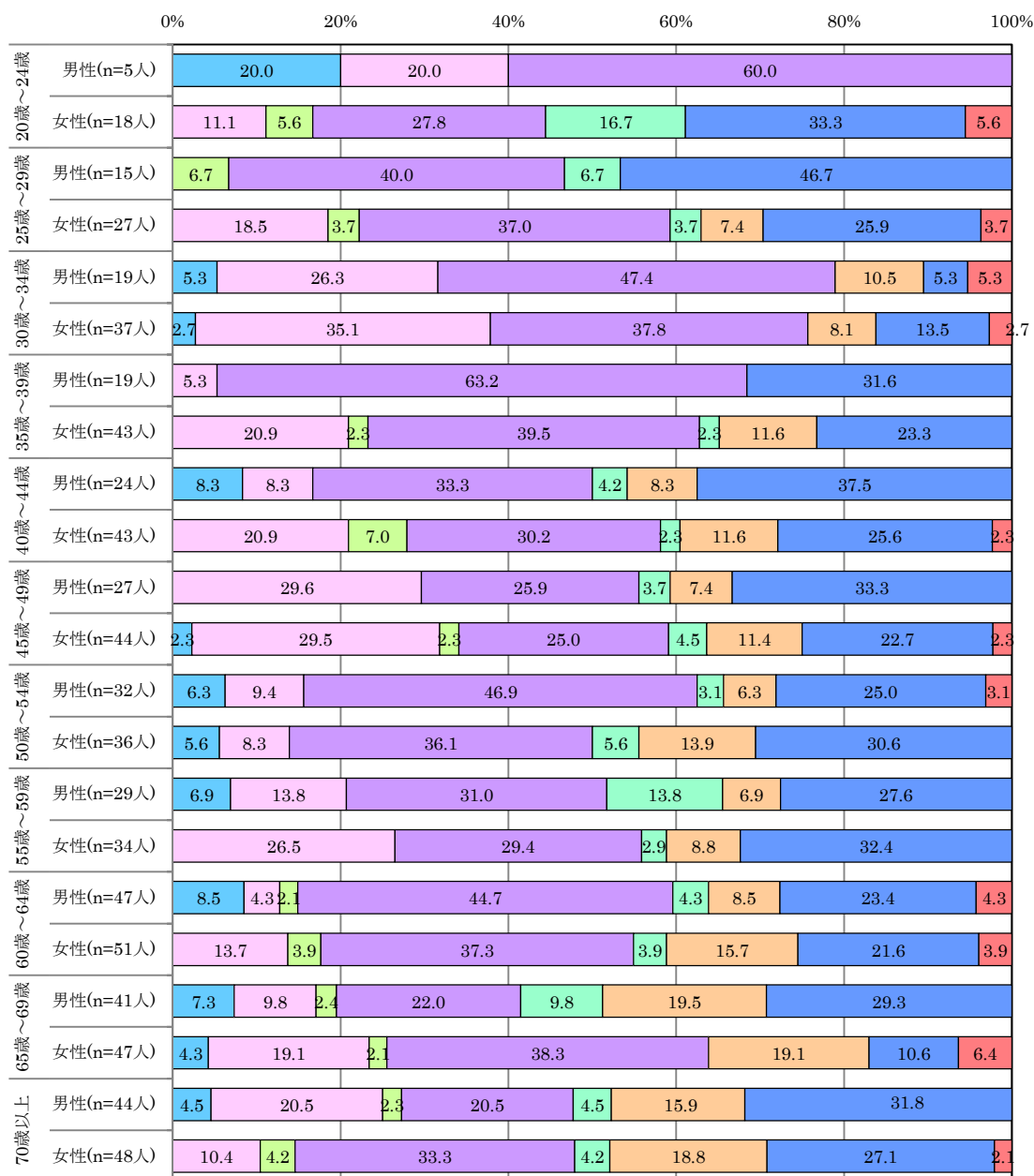


問9 理想とする（希望する）生活 世代別性別

- ・ 世代別性別でみると、35歳～39歳の男性では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が多くなっている。
- ・ 「『家庭生活』優先」という回答は、30歳～35歳までの女性でやや高い傾向がみられる。

【世代別性別】

- 「仕事」優先
- 「家庭生活」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

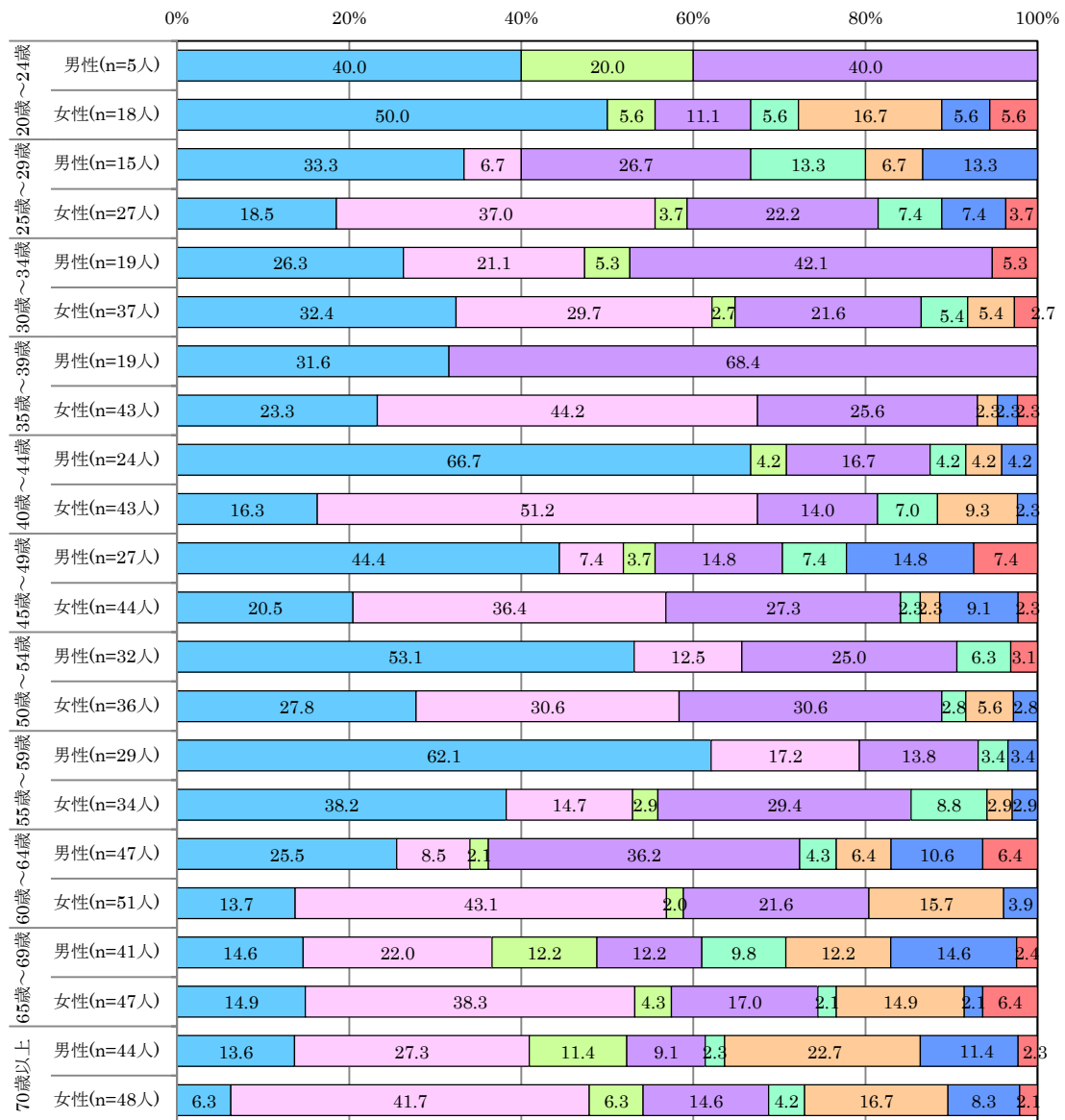


問10 現実（現状）の生活 世代別性別

- ・世代別性別でみると、男性は、40歳～59歳までの年代では、いずれも「『仕事』優先」という回答が最も多くなっている。一方女性も、20歳～24歳、30歳～34歳の年代では「『仕事』優先」という回答が最も多くなっている。
- ・「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、65歳以上で増加している。

【世代別性別】

- 「仕事」優先
- 「家庭生活」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

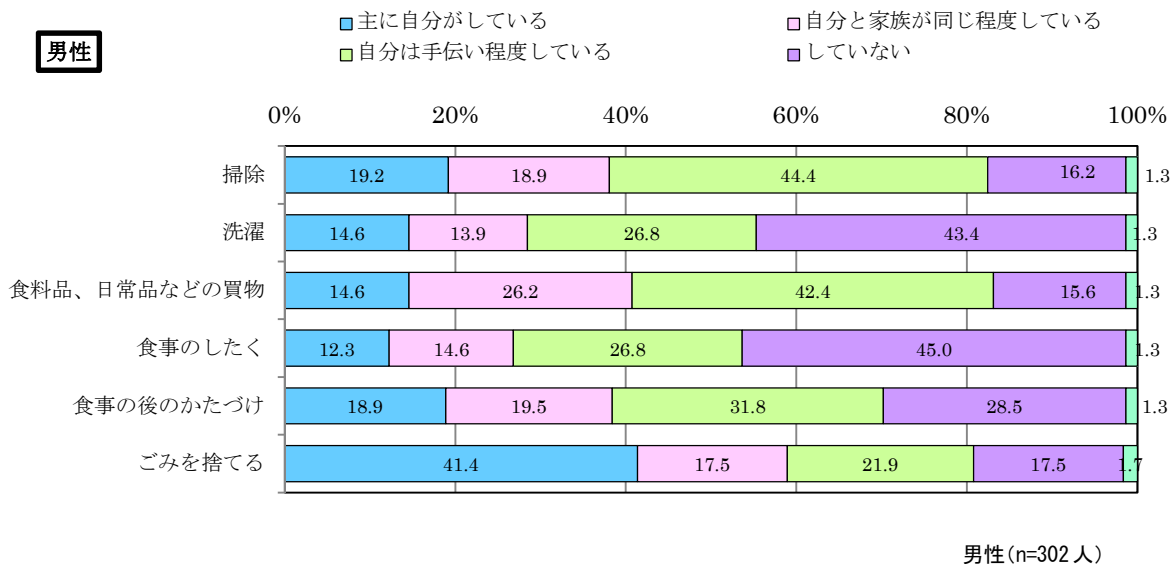


問 1 1 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

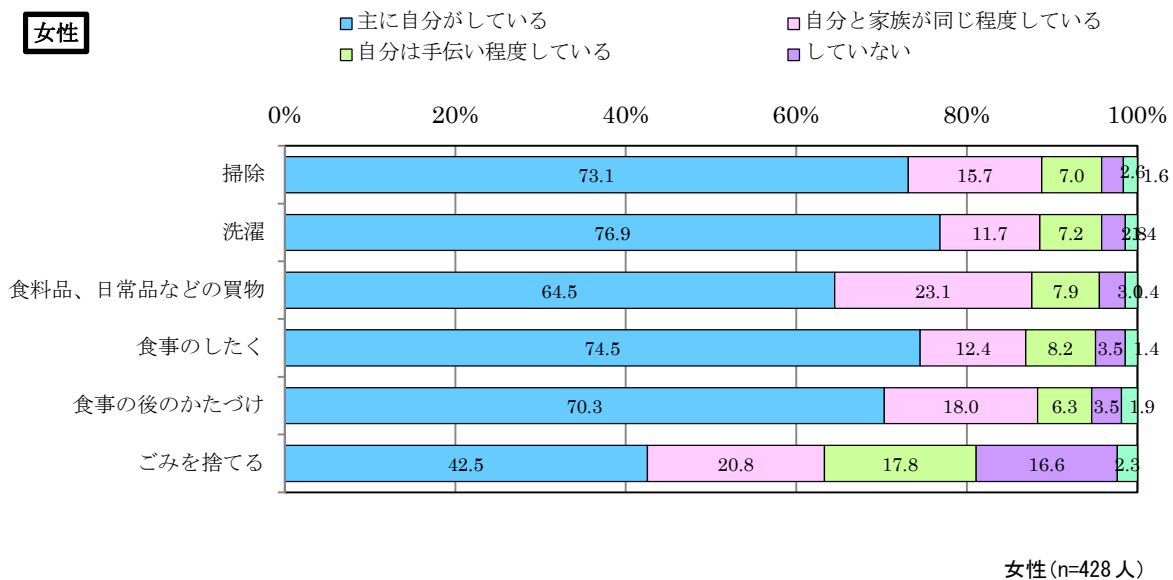
- ・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ごみを捨てる」が最も多く、約4割(41.4%)となっている。次いで、「掃除」(19.2%)、「食事の後のかたづけ」(18.9%)と続いている。
- ・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「洗濯」が最も多く、約8割(76.9%)となっている。次いで、「食事のしたく」(74.5%)、「掃除」(73.1%)となっている。

【性別】

男性



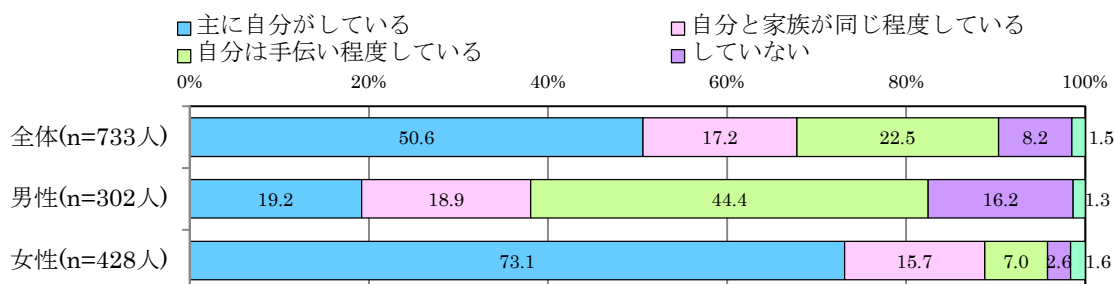
女性



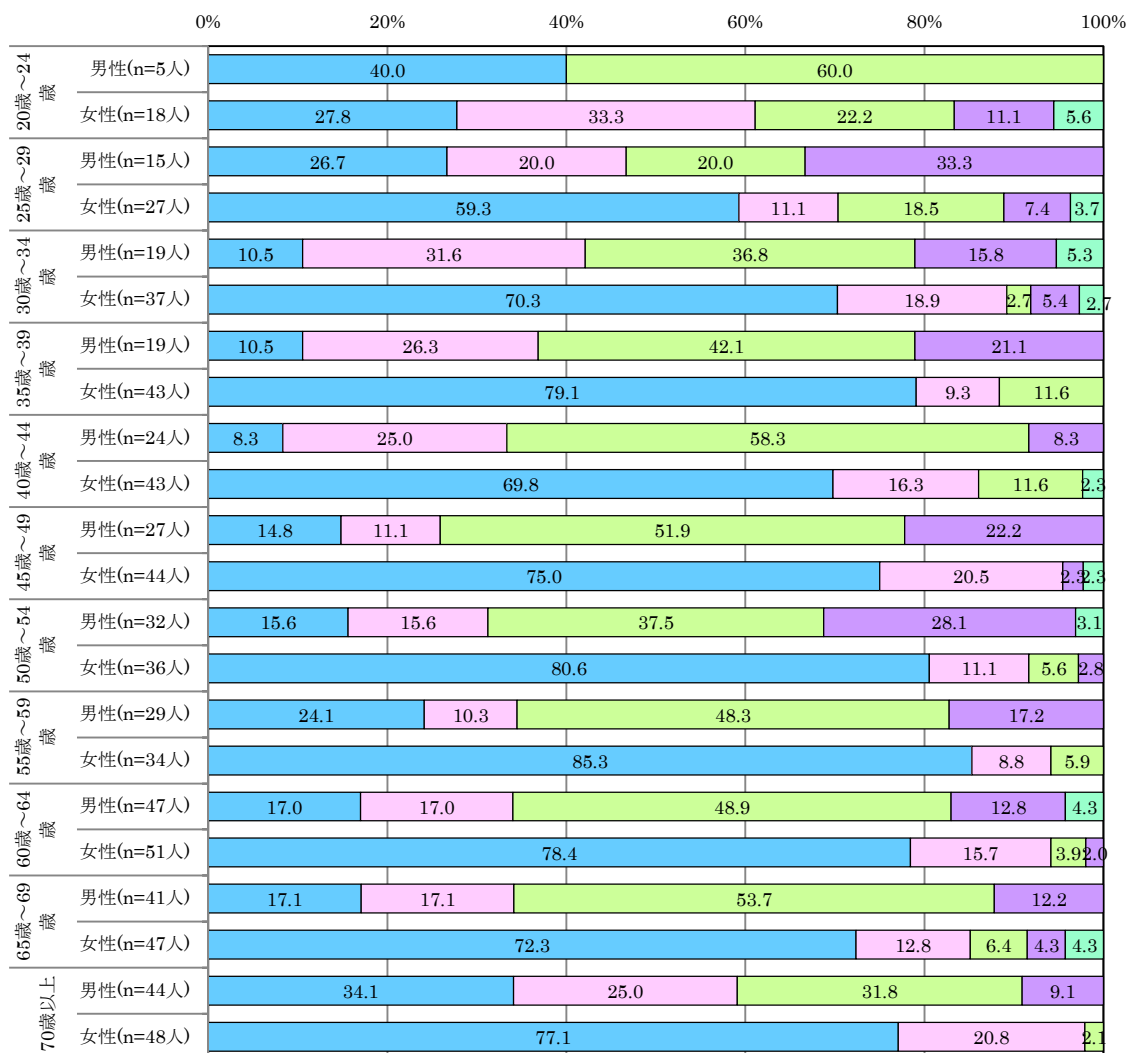
1. 掃除

- 性別でみると、女性は「主に自分がしている」(73.1%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(44.4%)という回答が最も多くなっている。
- 世代別性別でみると、70歳以上の男性、「主に自分がしている」という回答が最も多くなっている。

【性別】

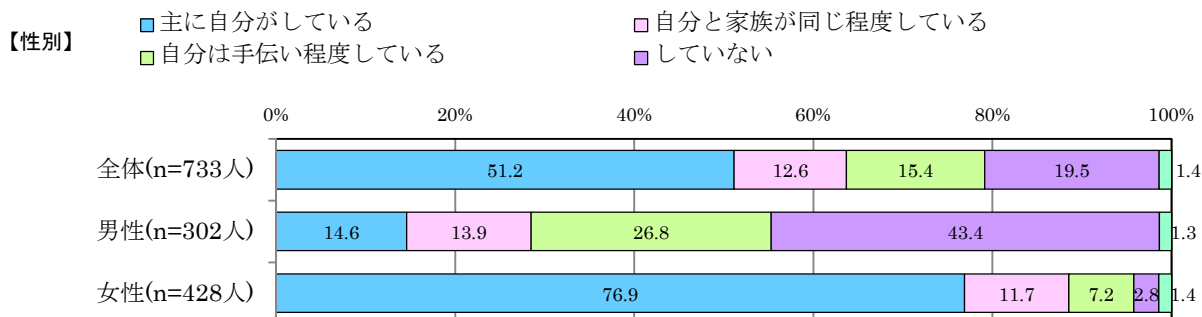


【世代別性別】

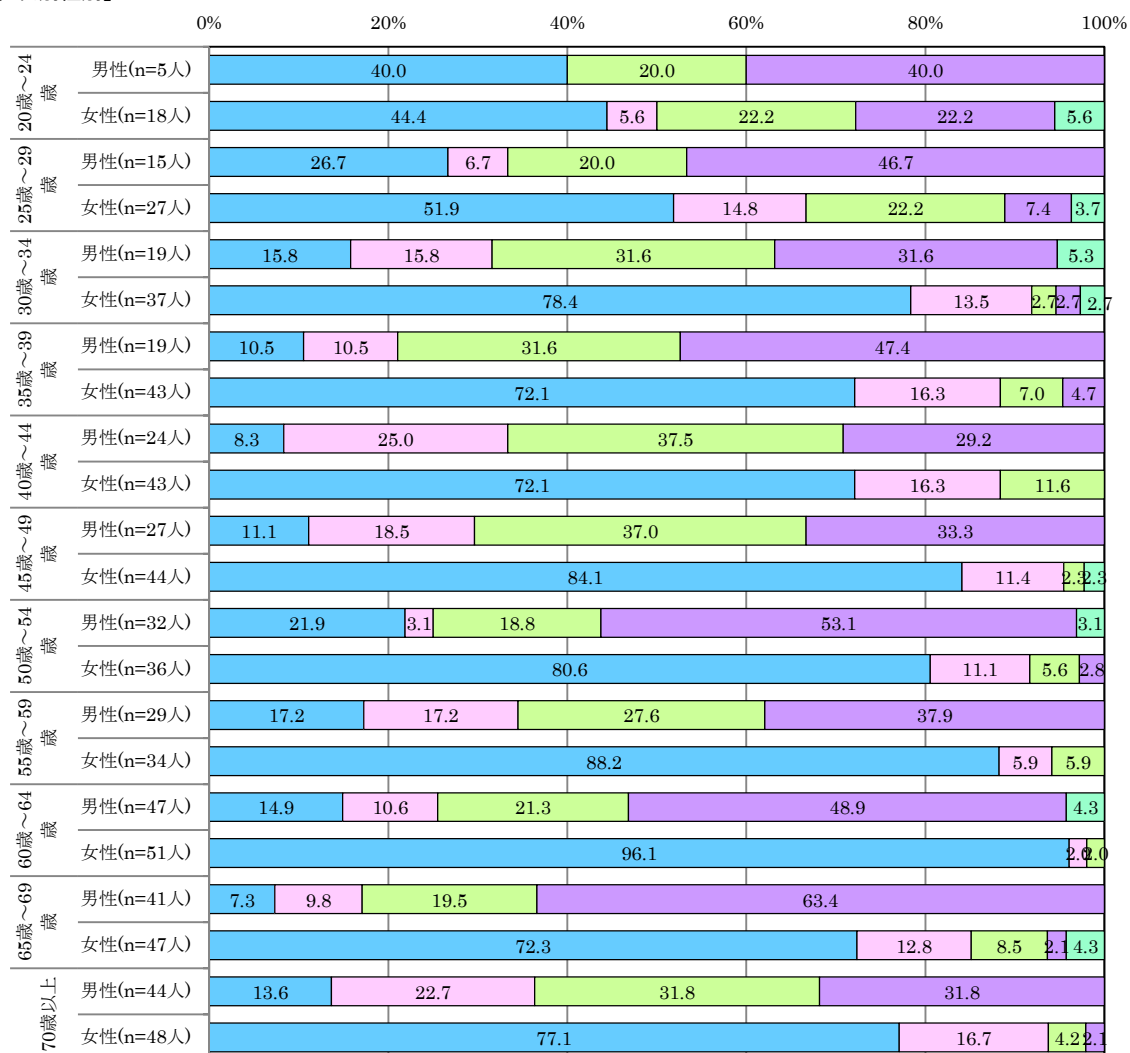


2. 洗濯

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(76.9%)という回答が最も多く、男性は「していない」(43.4%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、65歳～69歳の男性は、6割の方が「していない」という回答割合になっている。

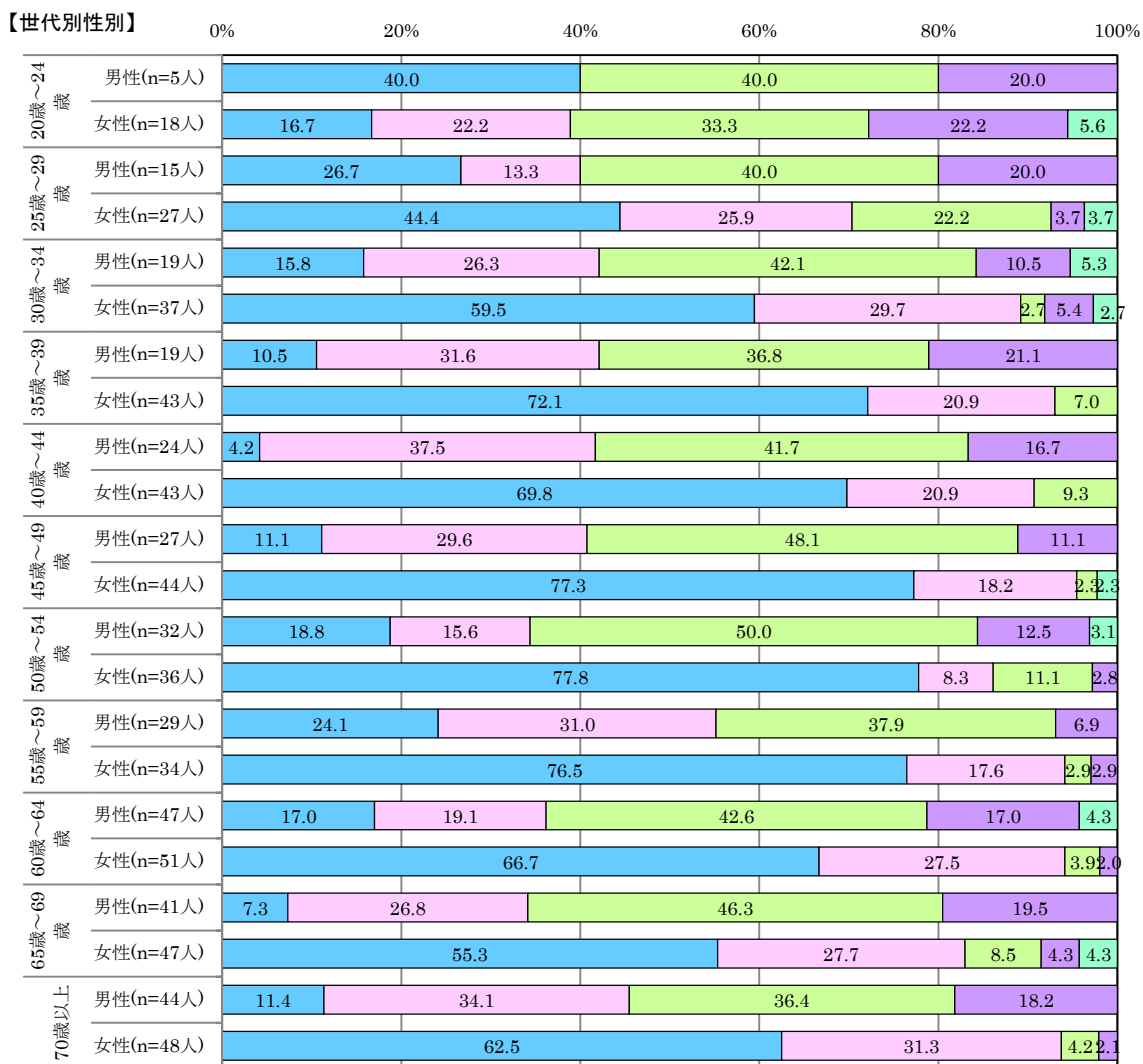
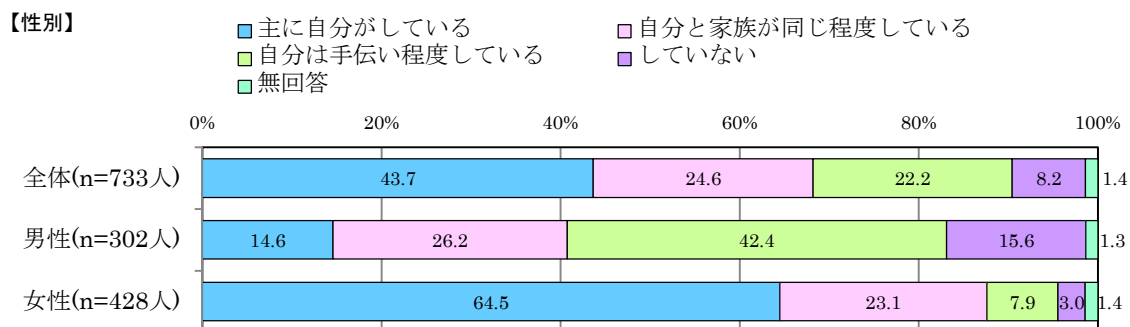


【世代別性別】



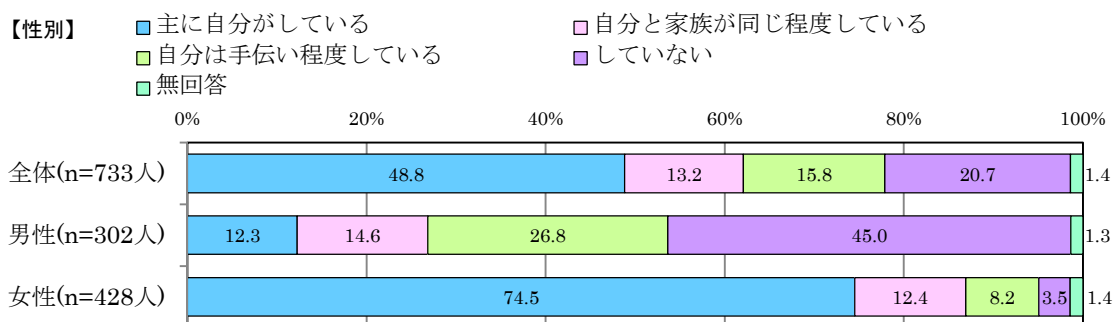
3. 食料品、日用品などの買物

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(64.5%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(42.4%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性はいずれの年代でも、「自分は手伝い程度している」という回答が最も多くなっている。一方、女性は20歳～24歳で、「自分は手伝い程度している」という回答が2割を超えている。

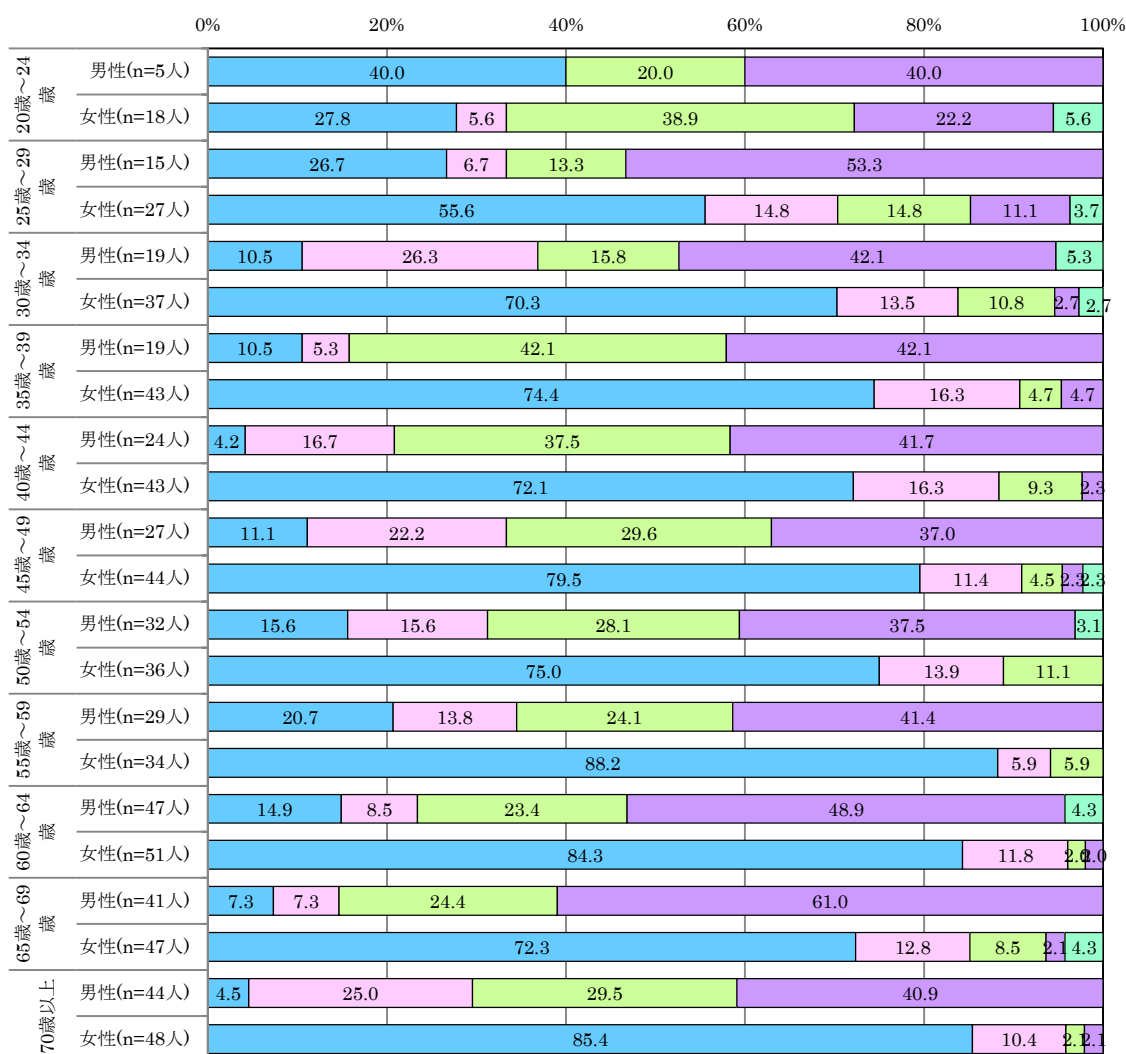


4. 食事のしたく

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(74.5%)という回答が最も多く、男性は「していない」(45.0%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、各年代の中では、男性が約4割以上「していない」という回答割合になっている。



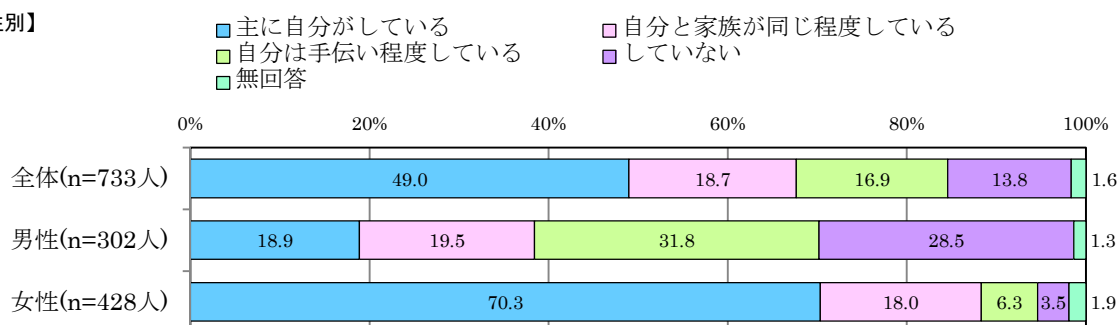
【世代別性別】



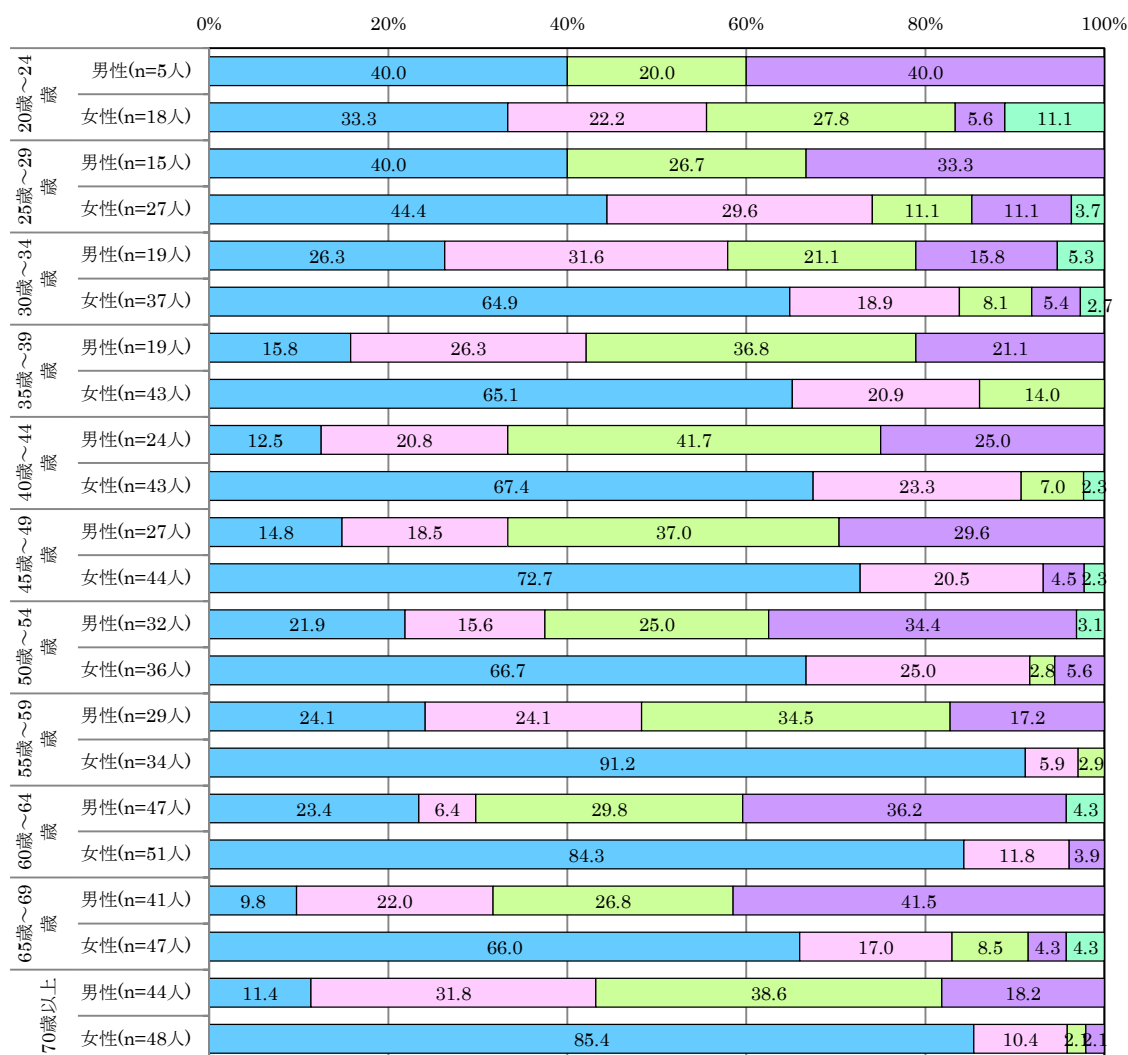
5. 食事の後かたづけ

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(70.3%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(31.8%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、食事の後かたづけについても、男性の中では、20歳代で「主に自分がしている」という回答が最も多く、4割(40.0%)となっている。

【性別】



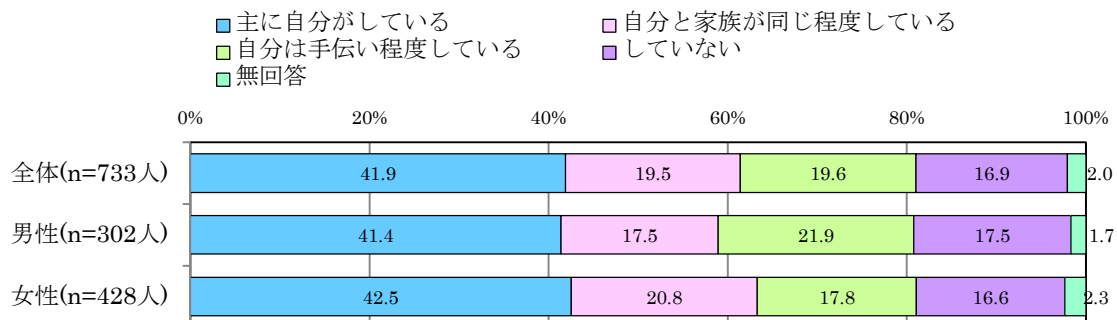
【世代別性別】



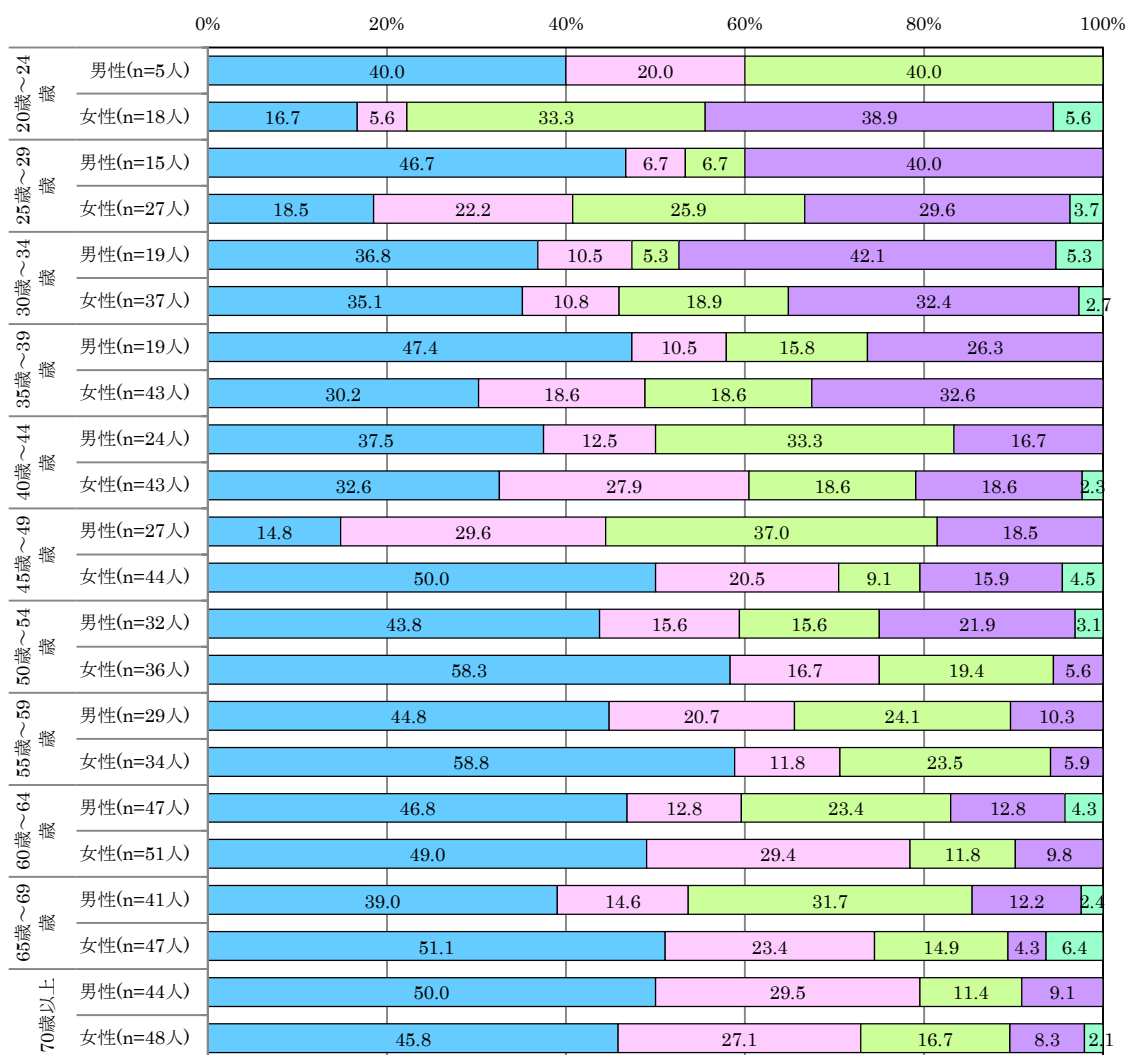
6. ごみを捨てる

- ・性別で見ると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は46.4%、男性は41.4%となっている。
- ・世代別性別で見ると、45歳～49歳の男性を除いては、「主に自分がしている」という回答が約4割～6割の回答となっている。一方、25歳～29歳の男性、20歳～24歳の女性は「していない」が約4割を超えている。

【性別】

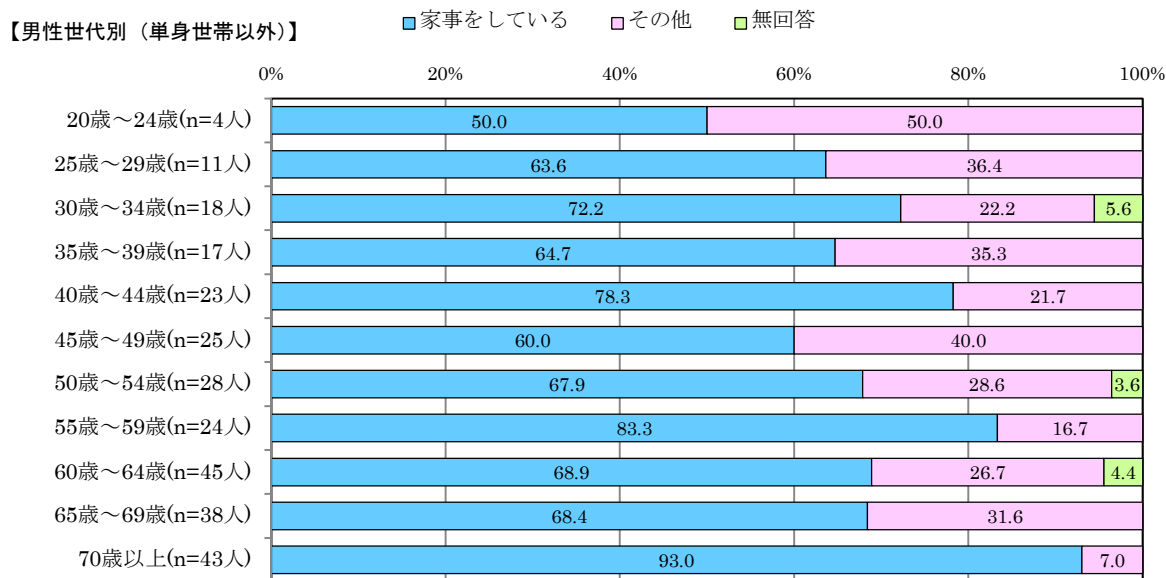
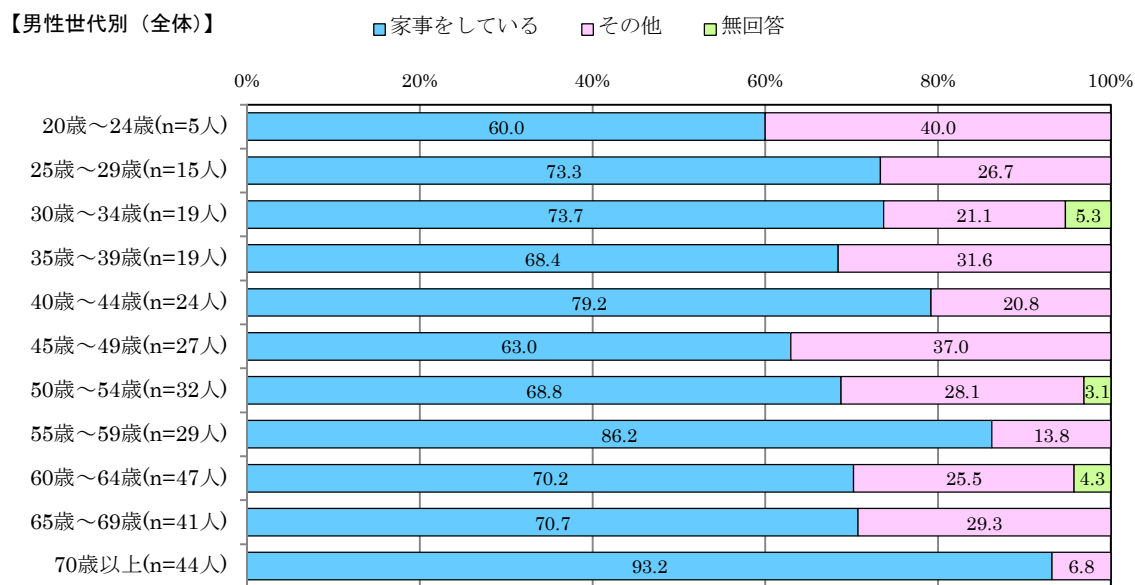
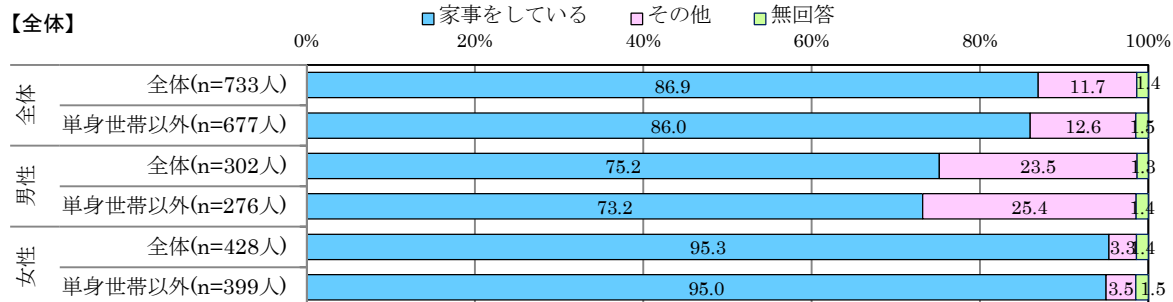


【世代別性別】



<家事への参画度>

- ・問11の1～6の家事について、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」といづれか1つでも回答した方を「家事をしている」とすると、全体の86.9%がいづれかの「家事をしている」となる。「単身世帯以外」でも、86.0%がいづれかの「家事をしている」となっている。



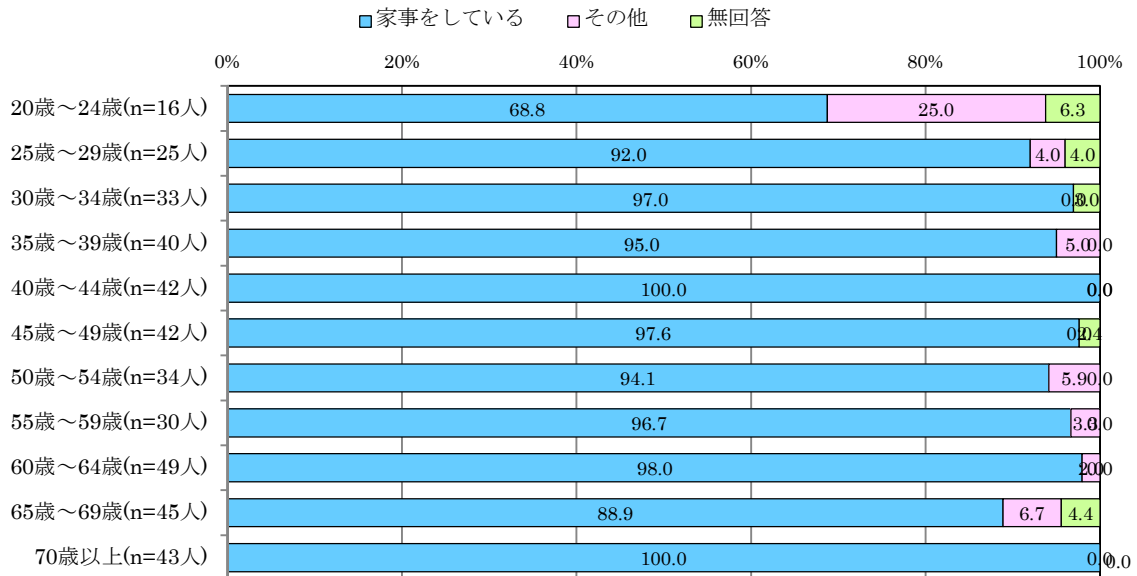
<家事への参画度>

- ・性別でみると、男性では7割、女性は9割の方が「家事をしている」となっている。単身世帯以外でみると、男性は女性よりも「家事をしている」の回答割合が2割低くなっている。

【女性世代別（全体）】



【女性世代別（単身世帯以外）】

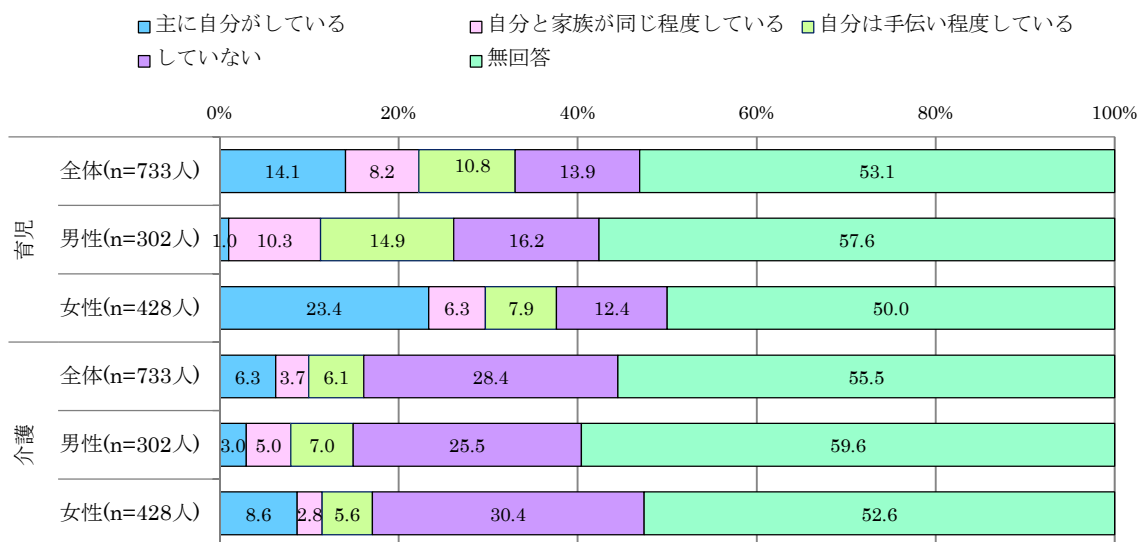


問12 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなた育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・育児、介護については、どちらも「していない」という回答が最も多い。回答割合は、育児が約5割（53.1%）、介護は約6割（55.5%）となっている。（育児、介護が必要な家族がいない回答者も含まれているため）。

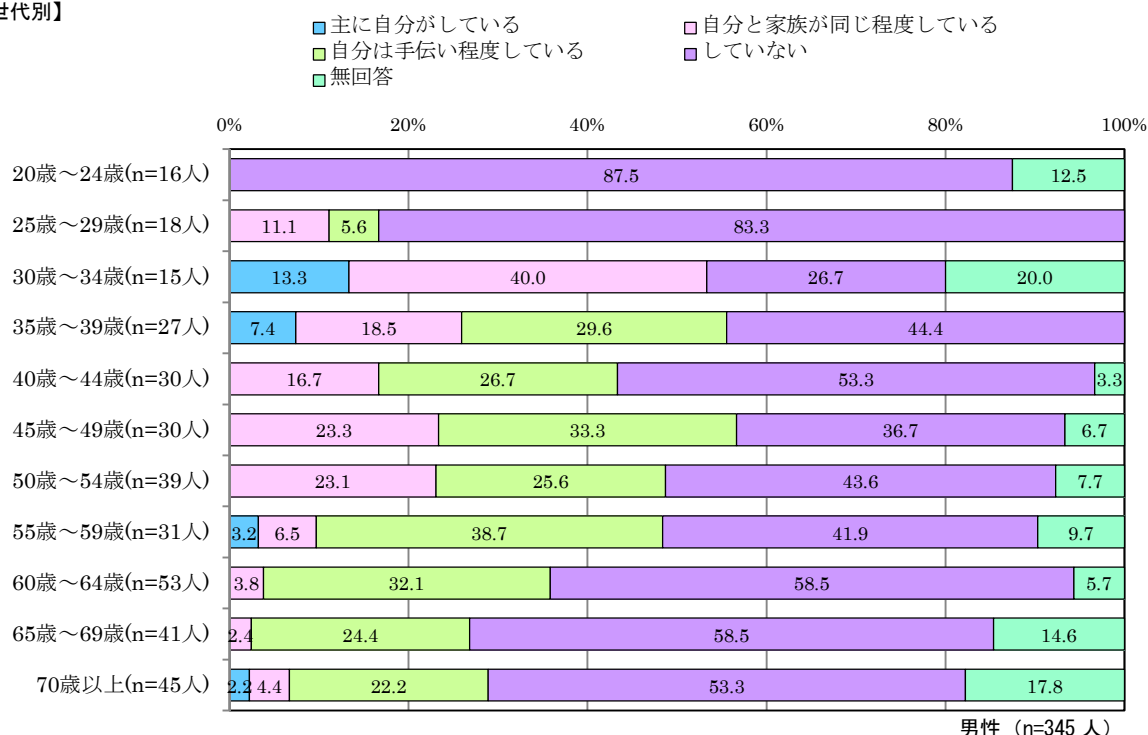
【全分野】



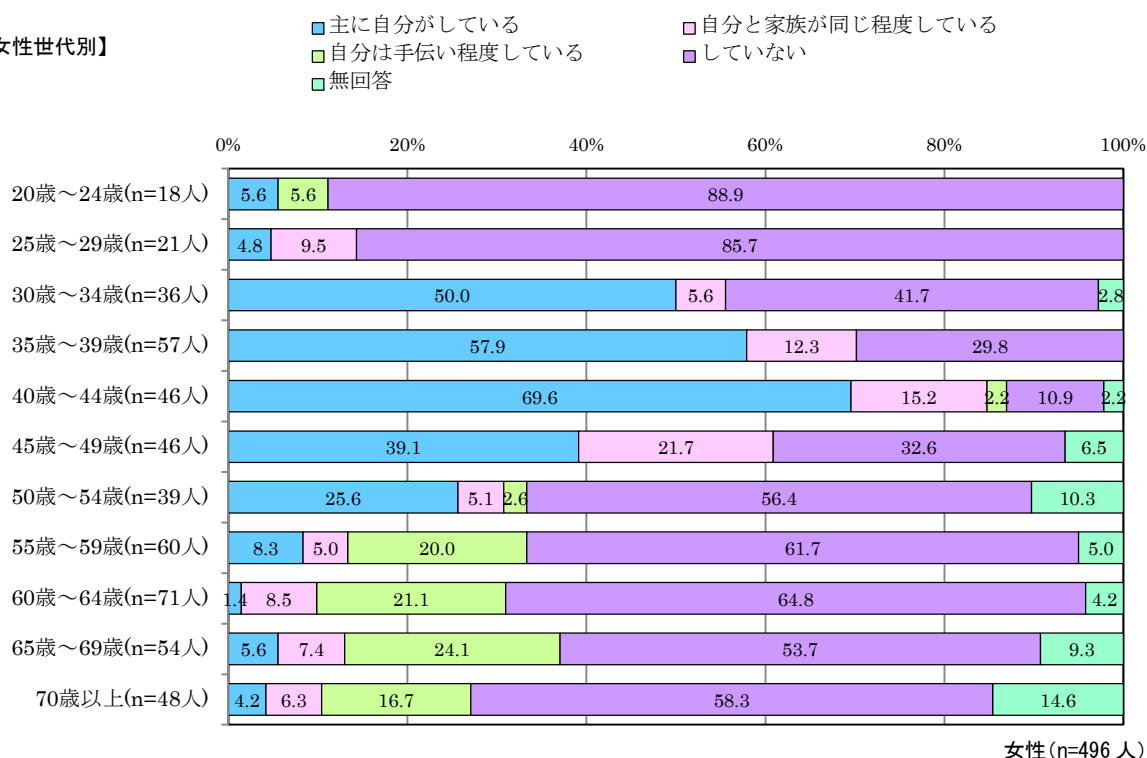
1. 育児

- ・男性の世代別でみると、30歳～34歳以外の年代ではいずれも「していない」という回答が最も多くなっている。まだ育児の機会が少ないであろう20代では「していない」という回答がほとんどとなっている。また、30歳～34歳では、「自分と家族が同じ程度している」という回答が最も多くなっている。
- ・「主に自分がしている」という回答はどの年代においてもごく僅かであるが、「自分と家族が同じ程度している」という回答も、年齢が高くなるにつれ減少傾向にあるといえる。

【男性世代別】



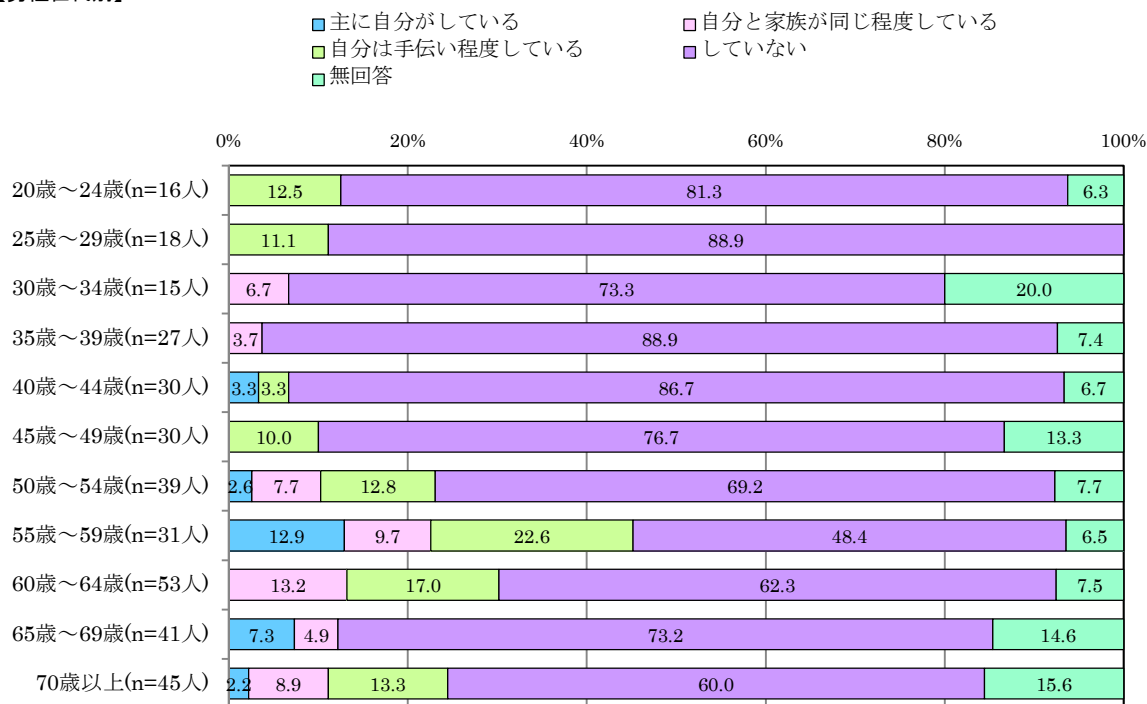
【女性世代別】



2. 介護

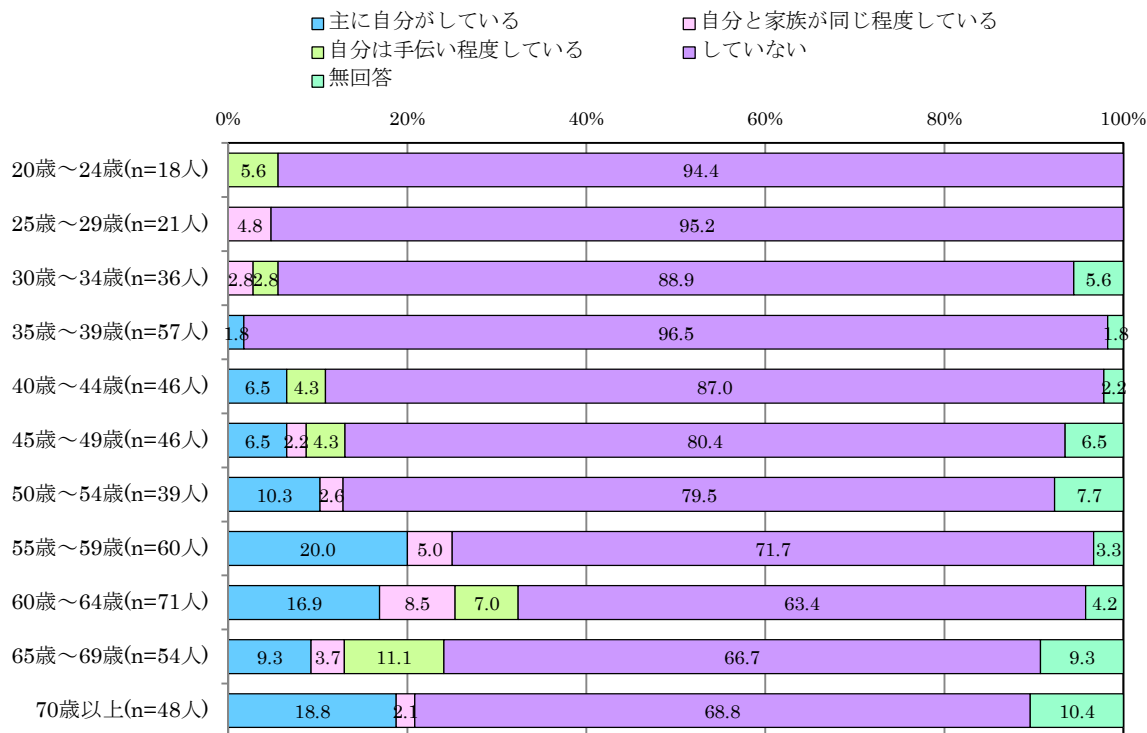
- ・男性の世代別でみると、どの年代においても「していない」が最も多い回答となっている。
- ・「主に自分がしている」という回答があるのは、40歳以上の年代となっている。

【男性世代別】



男性 (n=345人)

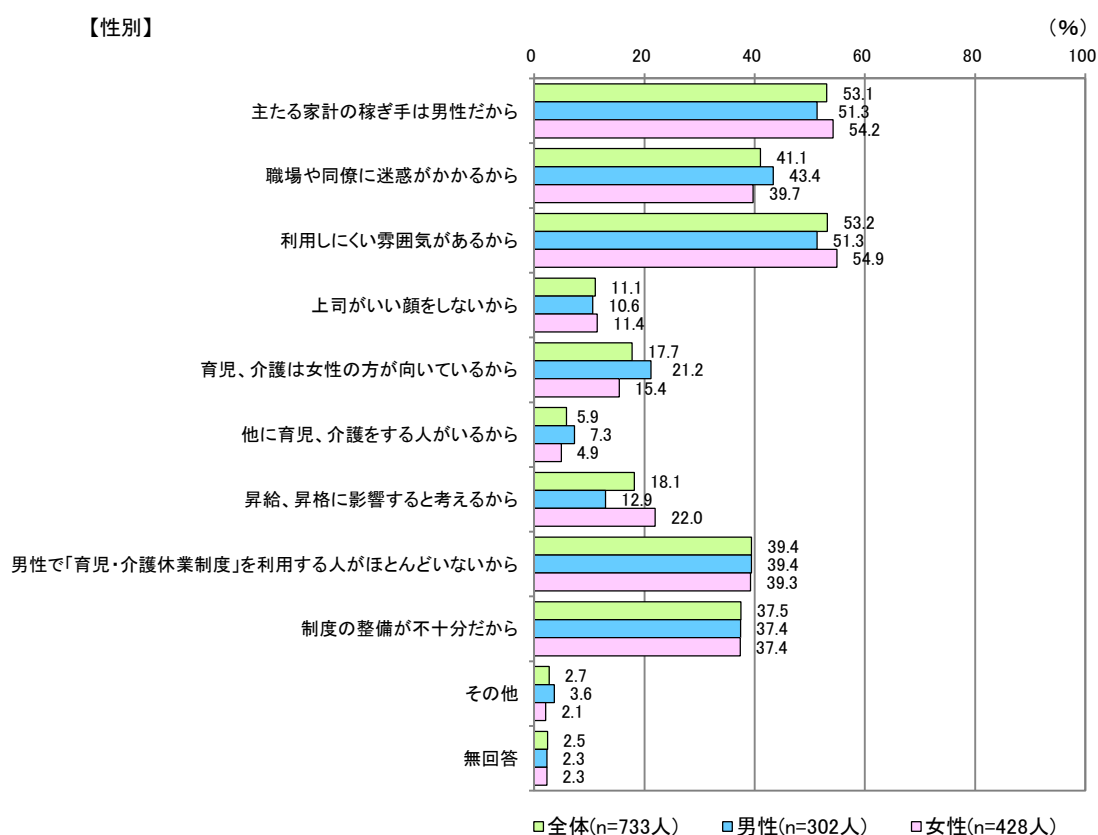
【女性世代別】



女性 (n=496人)

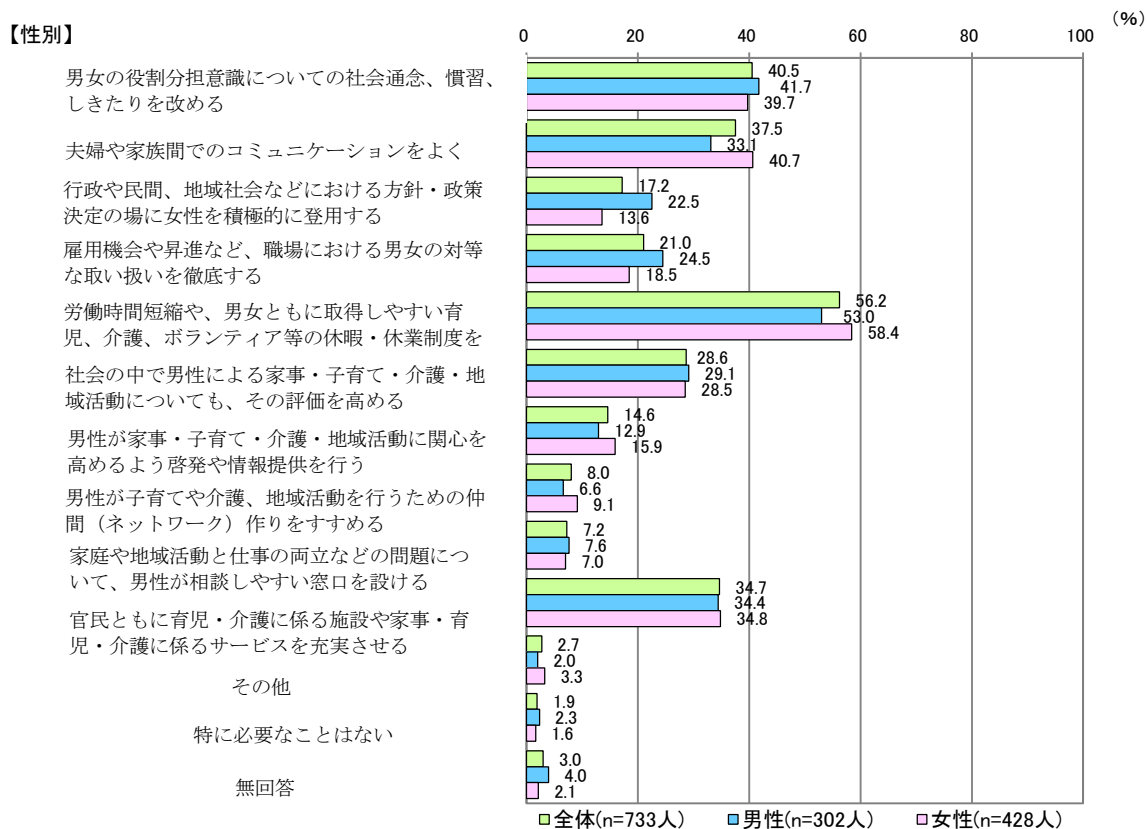
問13 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- ・全体でみると、最も回答割合が多いのは、「利用しにくい雰囲気があるから」(53.2%)で、5割を超えている。次いで、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(53.1%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(41.1%)、「男性で『育児・介護休業制度』を利用する人がほとんどいないから」(39.4%)、「制度の整備が不十分だから」(37.5%)の順となっている。
- ・性別でみると、男性では、「利用しにくい雰囲気があるから」(51.3%)と「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(51.3%)で多くなっている。次に、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(43.4%)がほぼ同じ回答割合で続いている。
- ・女性では、男性同様「利用しにくい雰囲気があるから」(54.9%)が最も多くなっている。次いで、2番目に「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(54.2%)、3番目に「職場や同僚に迷惑がかかるから」(39.7%)の順となる。



問14 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思えますか。次の中から3つまでお選びください。

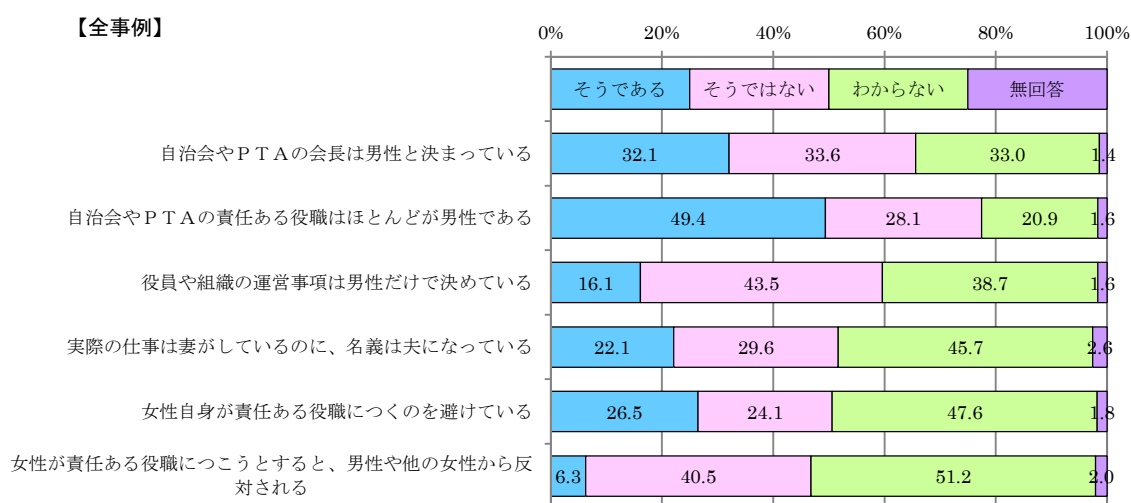
- ・全体では、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(56.2%)が最も多く、約6割となっている。次に、「男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改める」(40.5%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかる」(37.5%)、「官民ともに育児・介護に係る施設や家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(34.7%)、の順で続いている。
- ・性別で見ると、男性は、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(53.0%)が最も多く、5割を超えている。次いで、「男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改める」(41.7%)、「官民ともに育児・介護に係る施設や家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(34.4%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかる」(33.1%)、の順となる。
- ・女性も、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(58.4%)という回答が最も多い。次に、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかる」(40.7%)、「男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改める」(39.7%)の順となっている。



地域社会に関する問題

問15 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」が最も多く、約5割（49.4%）となっている。次に、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（32.1%）、「女性自身が責任ある役職につくのを避けている」（26.5%）と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」（43.5%）が最も多く、約4割となっている。次いで、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」（40.5%）、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（33.6%）と続いている。

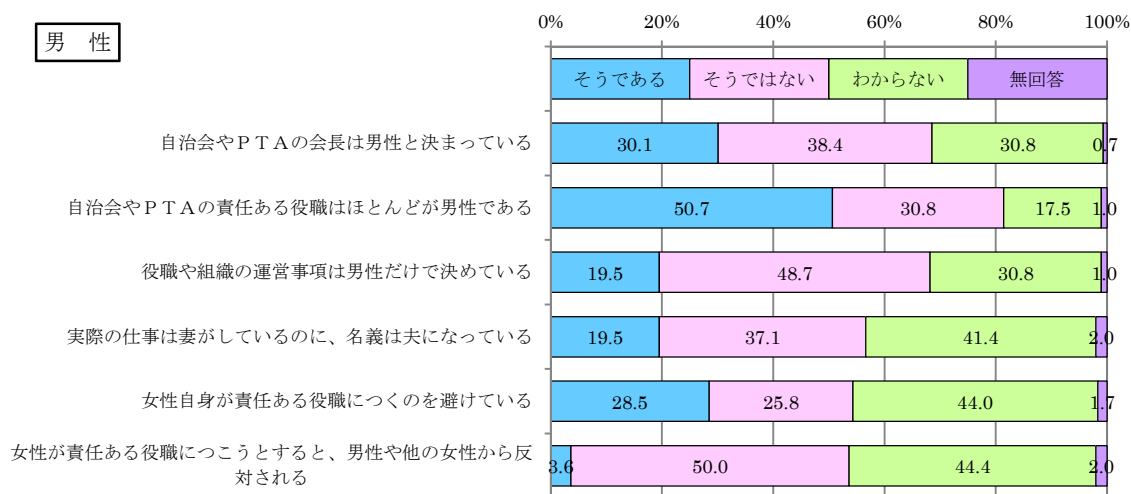


全体 (n=733 人)

- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

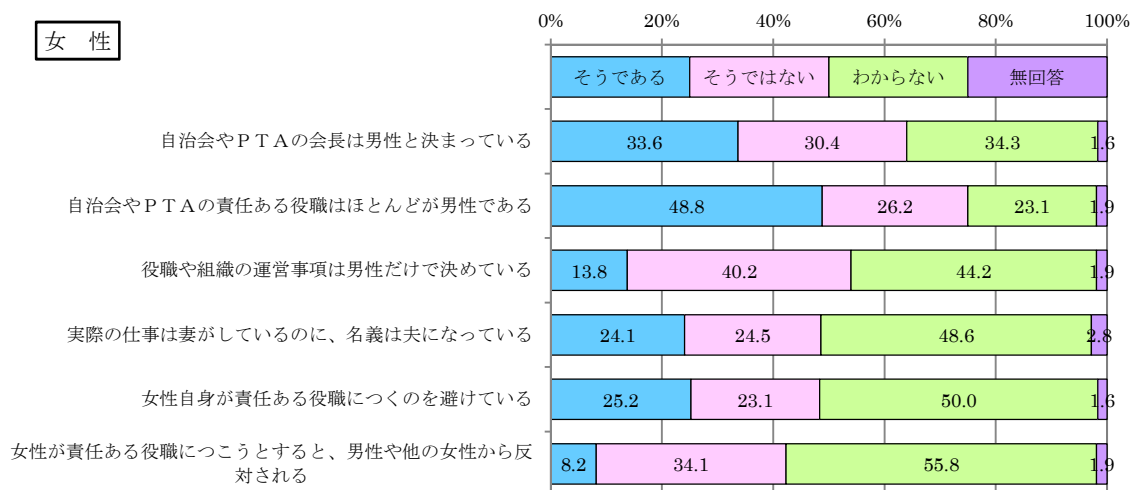
【性別】

男性



男性 (n=345 人)

女性

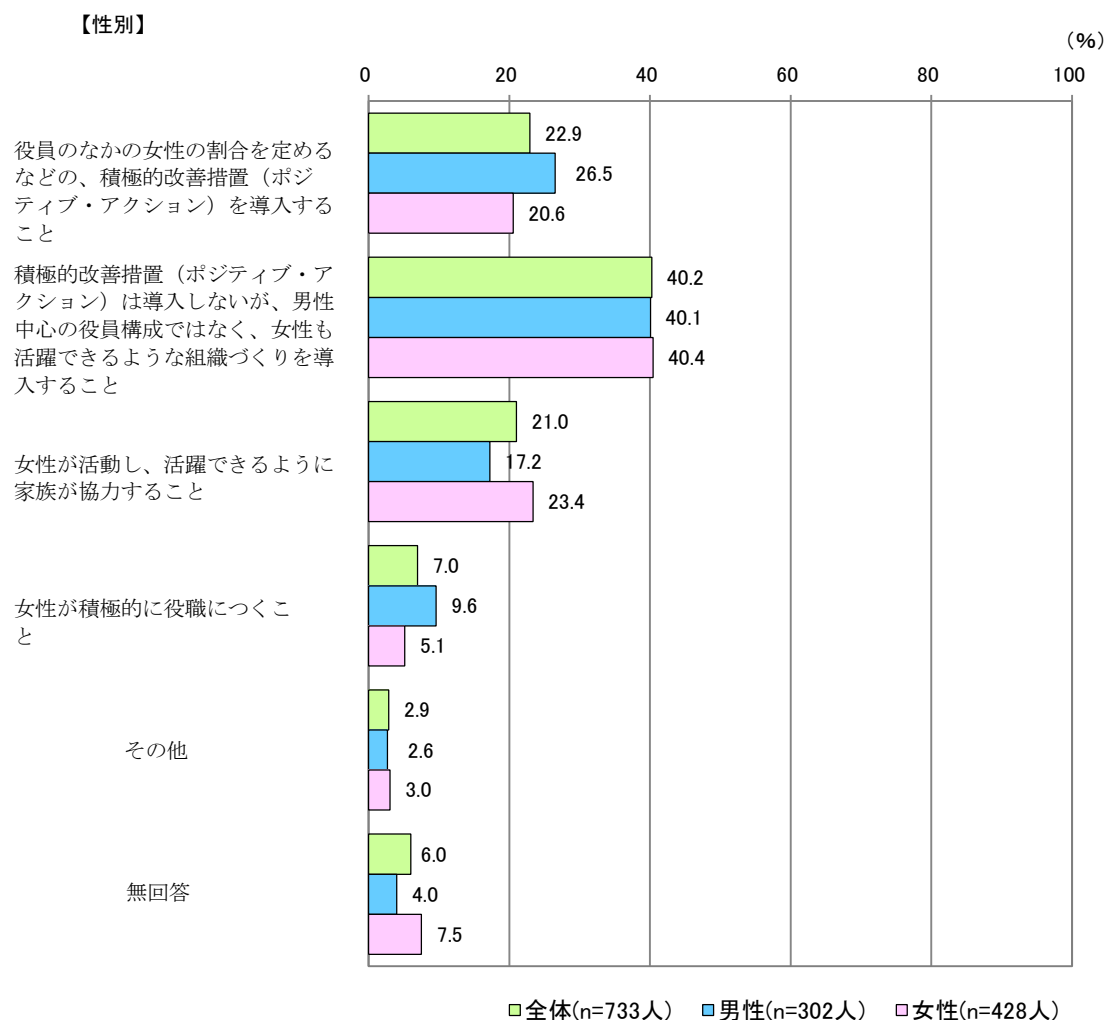


女性 (n=496 人)

問16 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。

あなたは、どうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多く、4割（40.2%）を超えている。次に、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（22.9%）と「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」（21.0%）がほぼ同じ回答割合で続いている。
- ・性別でみると、男女どちらも「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」という回答が最も多く、約4割となっている。次に、男性は、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」が続き、一方女性は、「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」が2番目となる。

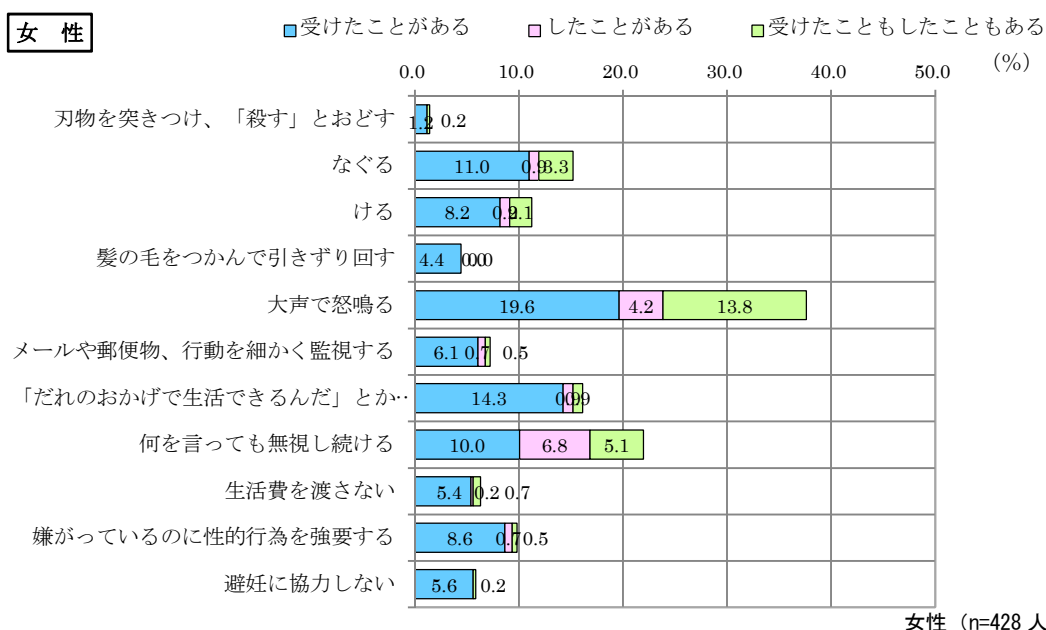
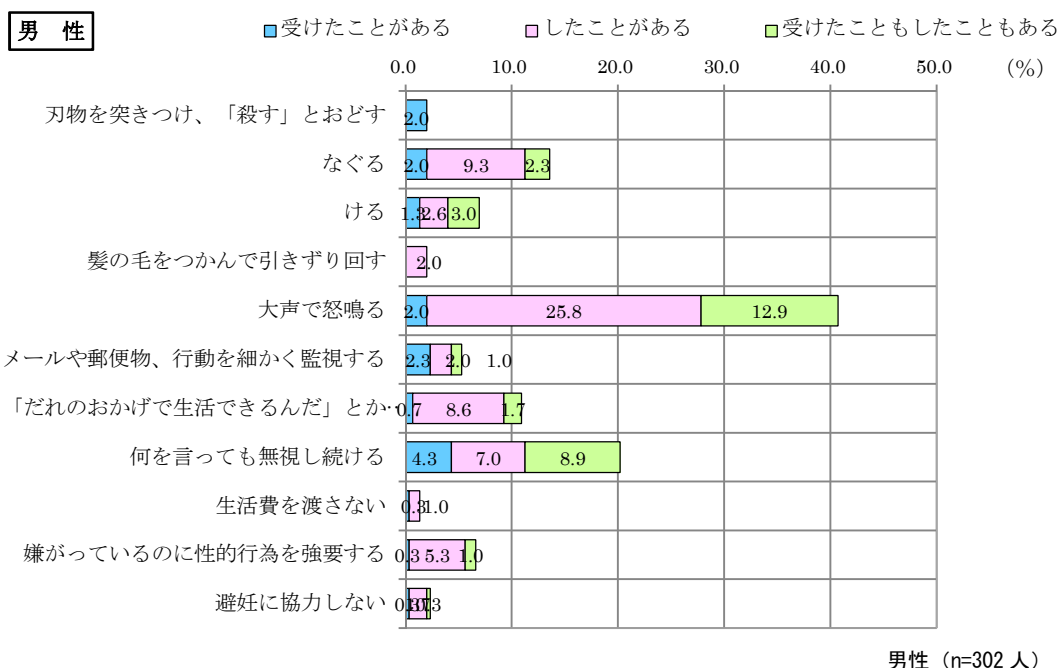


男女の人権に関する問題

問17 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・性別で見ると、「受けたこともしたこともない」という回答がどの行為においても大多数となっている。
- ・「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。「大声で怒鳴る」、「何を言っても無視し続ける」については、回答の傾向が、男性、女性ともほぼ同じとなっている。

【性別】



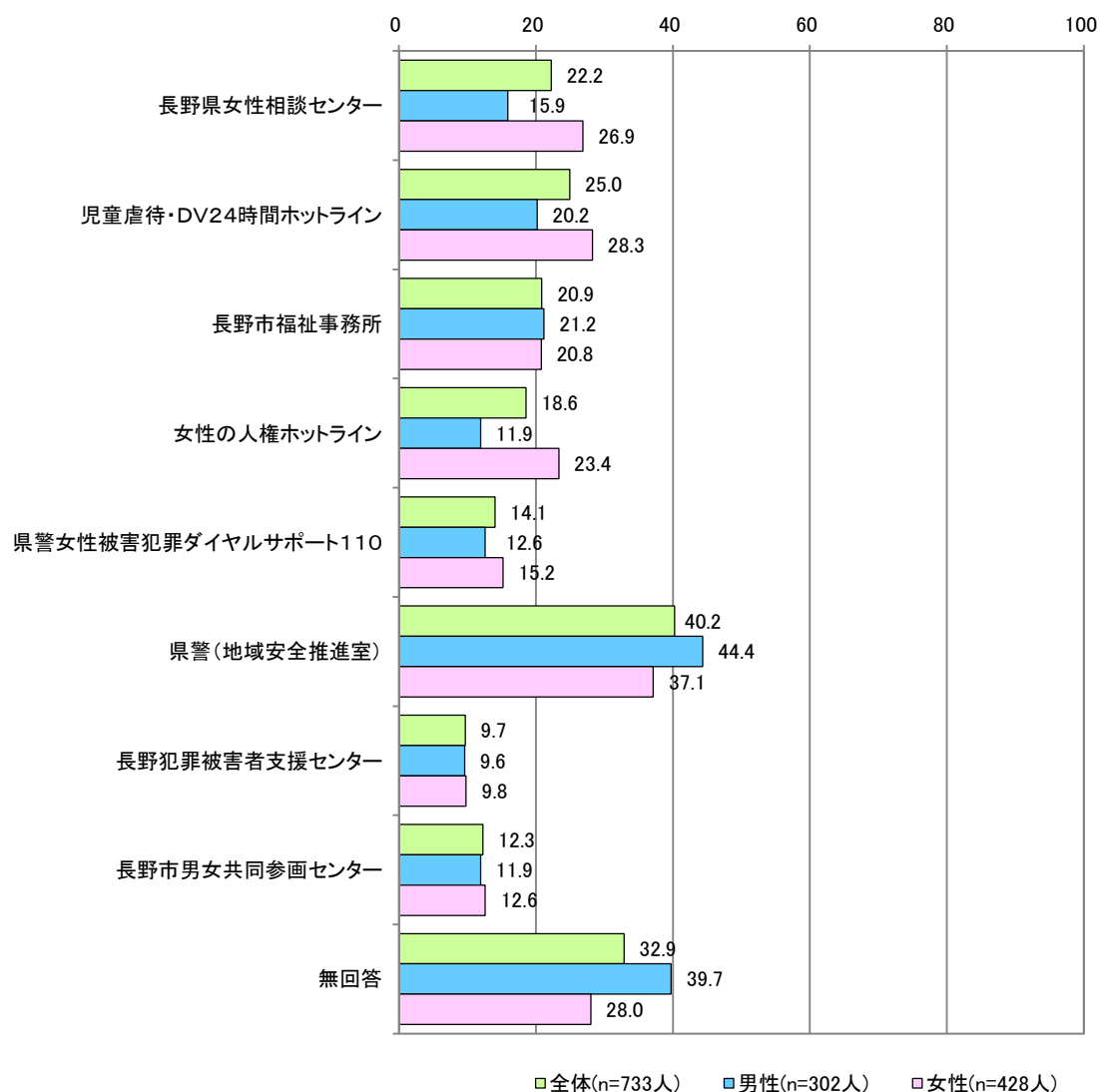
※無回答は男性で4.0%~5.0%、女性で4.2%~4.7%で、残りの回答は「受けたこともしたこともない」

問18 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- ・全体でみると、最も回答が多かったのは「県警（地域安全推進室）」（40.2%）で、4割となっている。次いで、「児童虐待・DV24時間ホットライン」（25.0%）、「長野県女性相談センター」（22.2%）、「長野市福祉事務所」（20.9%）と続いている。
- ・性別でみると、男性においては、「県警（地域安全推進室）」（44.4%）が約4割で最も多くなっている。次に、「長野市福祉事務所」（21.2%）、「児童虐待・DV24時間ホットライン」（20.2%）の順となる。
- ・一方、女性においては、「県警（地域安全推進室）」（37.1%）と「児童虐待・DV24時間ホットライン」（28.3%）と続いている。女性の3番目に多い回答は、「長野県女性相談センター」（26.9%）となっており、男性の回答とは認知度に差がある。

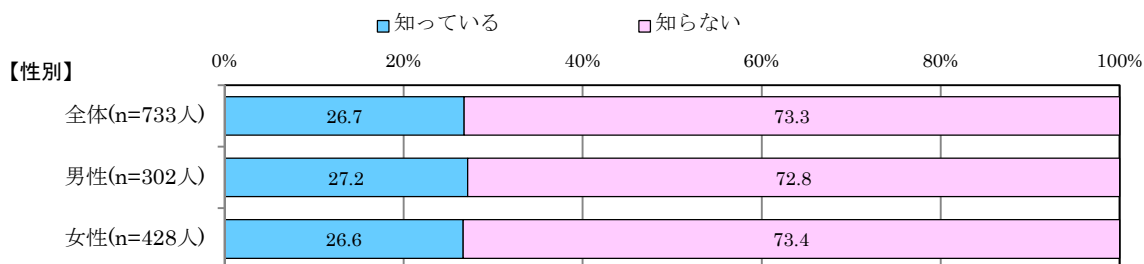
【性別】

(%)



<DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

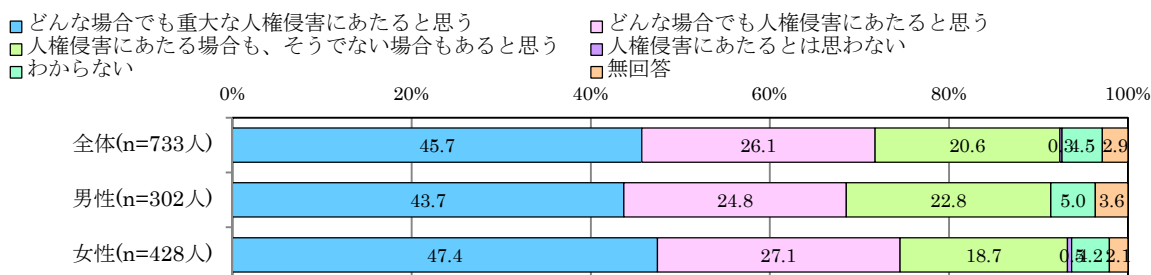
- ・問18において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」割合は、約3割（26.7%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」割合は、「男性」の方が「女性」よりやや多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、55歳～59歳、70歳以上の年代において約4割の認知度となっている。65歳～69歳以外の年代で年齢が高くなるにつれ認知度も高くなっていく傾向があるといえる。一方、女性は70歳以上で最も認知度が高くなっている。20歳代、30歳代、40歳代はやや低くなっているが、そこから年齢が高くなるにつれ徐々に認知度も上がっていく傾向があるといえる。



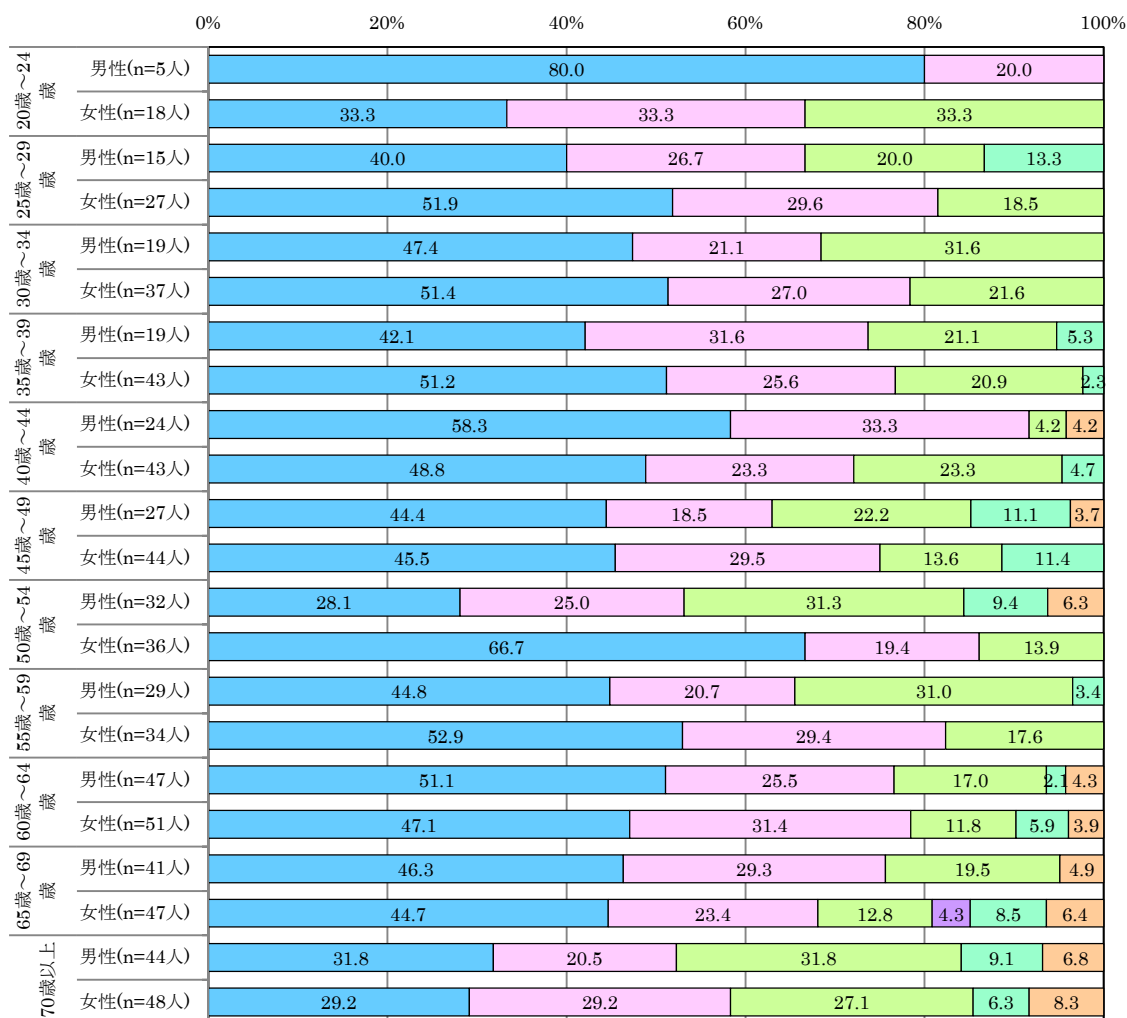
問19 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えにもっとも近いのは
 どれですか。次の中から1つお選びください。

- ・全体で見ると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」（45.7%）が最も多い回答となっており、約5割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（26.1%）と「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（20.6%）がほぼ同じ回答割合で続いている。
- ・性別で見ると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」という回答で、次に「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答となっている。
- ・世代別性別で見ると、50歳～54歳の男性、70歳以上の男女で、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答割合多くなっている。

【性別】



【世代別性別】

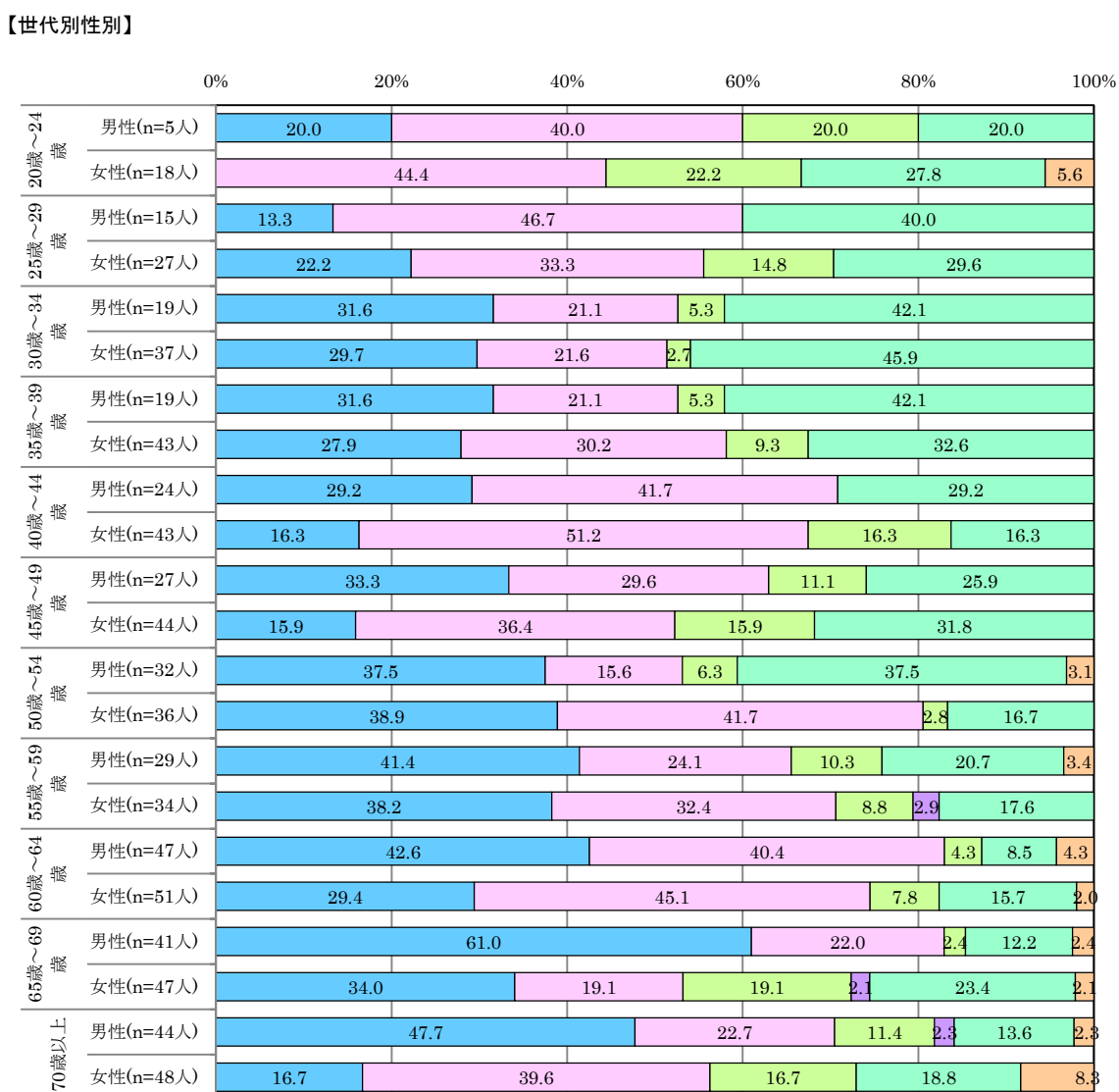
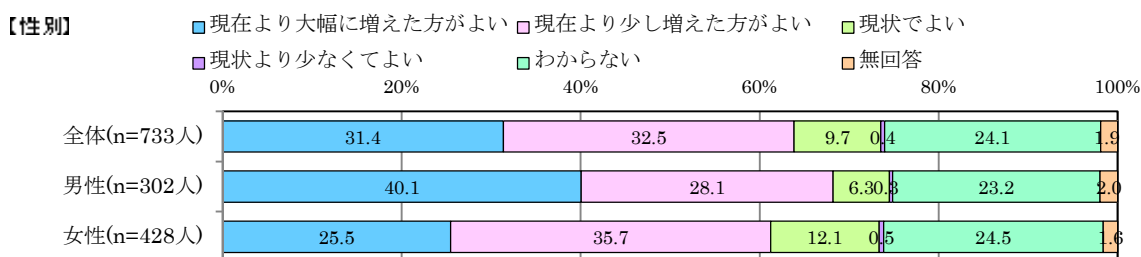


男女共同参画施策に関する問題

問20 平成25年7月1日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数と割合は、6人(15.8%)、平成24年7月1日現在の住民自治協議会における女性役員の数と割合は517人(18.0%)となっています。

このことについて、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

- ・全体で見ると、「現在より大幅に増えた方がよい」(31.4%)及び「現在より少し増えた方がよい」(32.5%)という回答割合の合計は、約6割(63.9%)となっている。
- ・性別では、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計は男性68.2%、女性61.2%で、男性の方がやや多い。
- ・世代別性別で見ると、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計は、20歳～24歳、30歳～34歳、50歳～54歳の女性でやや低くなっている。

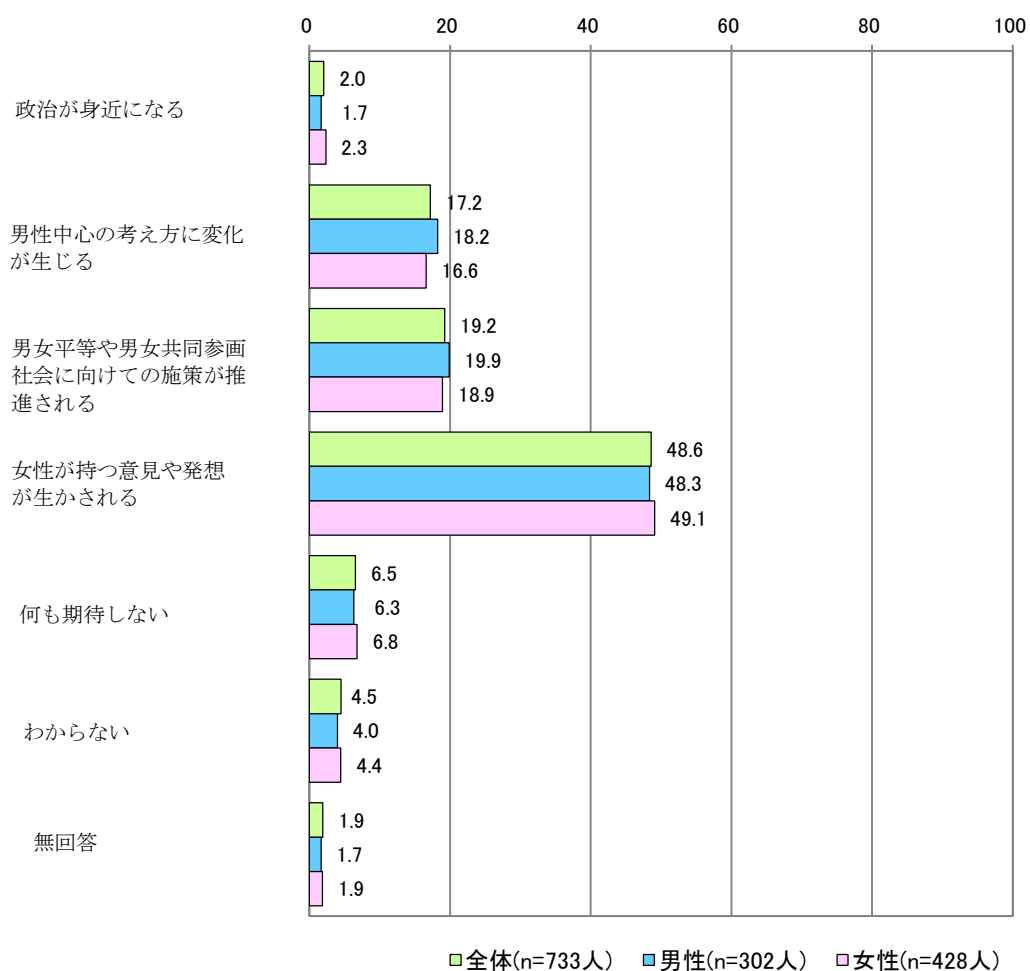


問2 1 あなたは、政策決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。
次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

- ・全体でみると、「女性が持つ意見や発想が活かされる」(48.6%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される」(19.2%)、「男性中心の考え方に変化が生じる」(17.2%)と続いている。
- ・性別でみると、男女による大きな差は見られないが、「男性中心の考え方に変化が生じる」、「男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される」という回答以外では、女性の回答割合が、男性よりもやや高くなっている。

【性別】

(%)

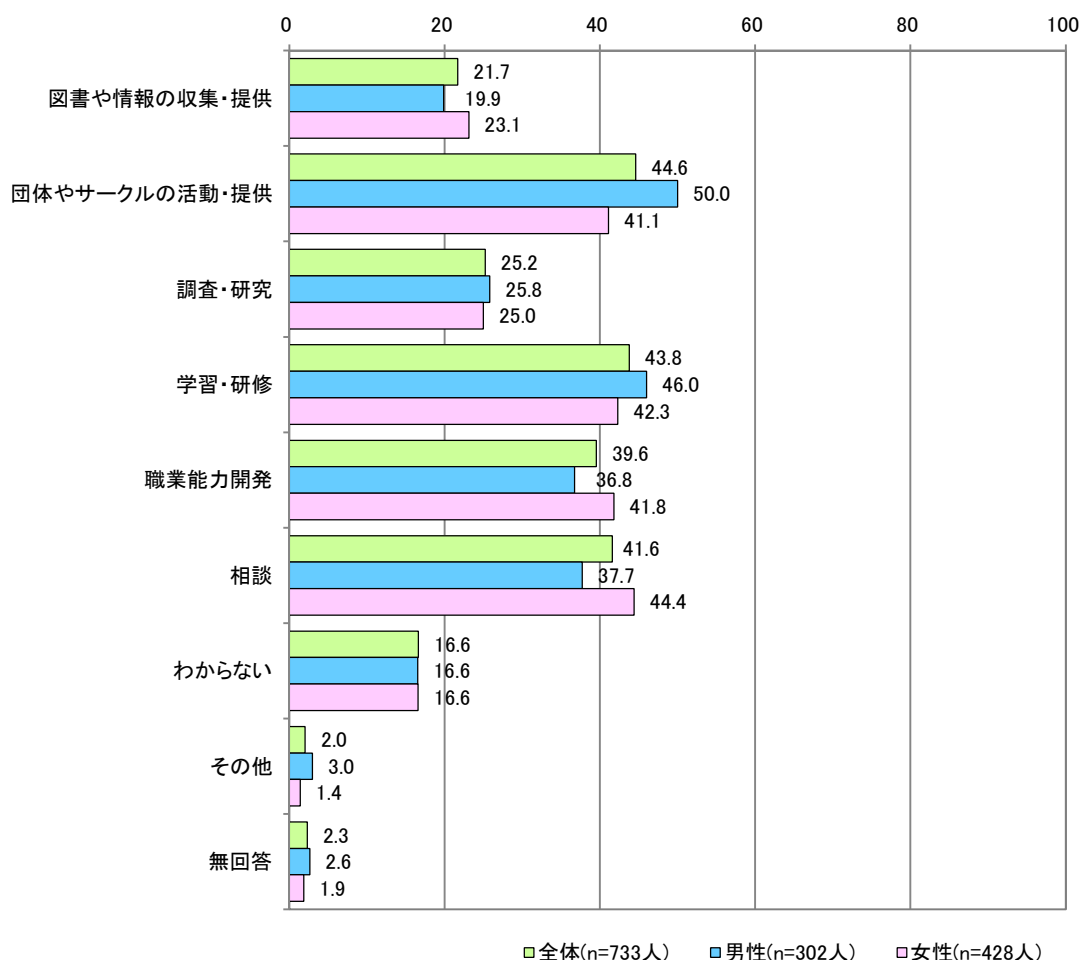


問2 2 男女共同参画社会を実現するための拠点施設（長野市男女共同参画センター）の役割としてあなたは何を望みますか。次の中から、3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「団体やサークルの活動・提供」（44.6%）が最も多い回答となっている。次いで、「学習・研修」（43.8%）、「相談」（41.6%）の順が続いている。
- ・性別でみると、男性は「団体やサークルの活動・提供」（50.0%）、「学習・研修」（46.0%）、「相談」（37.7%）の順となっている。
- ・一方、女性は「相談」（44.4%）、「学習・研修」（42.3%）、「職業能力開発」（41.8%）の順となる。「相談」、「職業能力開発」については、男性より女性が多くなっている。

(%)

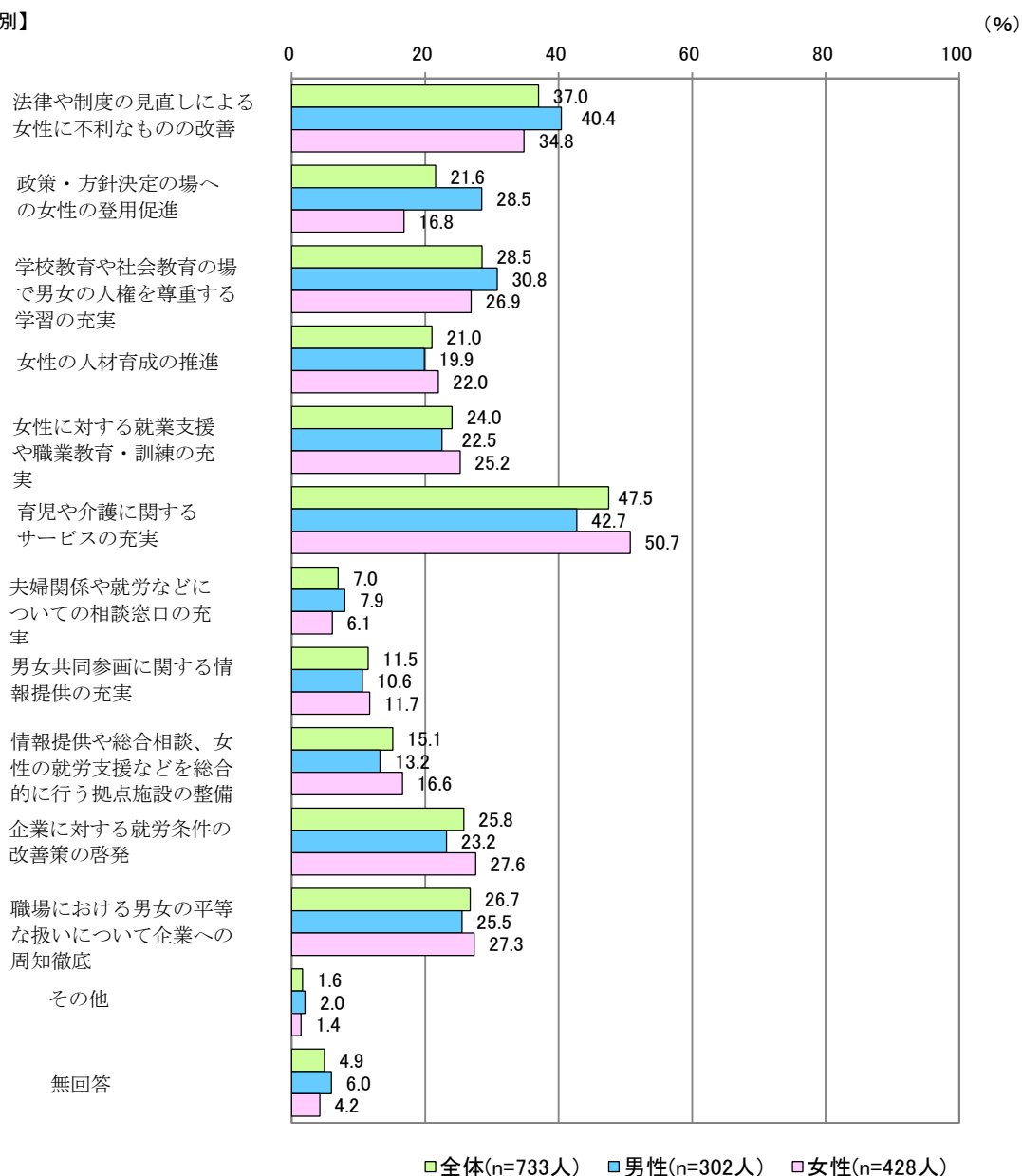
【性別】



問23 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「育児や介護に関するサービスの充実」(47.5%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(37.0%)、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」(28.5%)の順が続いている。
- ・性別でみると、男性では、「育児や介護に関するサービスの充実」(42.7%)が最も多い回答となる。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(40.4%)、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」(30.8%)となる。
- ・一方、女性も、「育児や介護に関するサービスの充実」(50.7%)が最も多くなっているが、男性よりも回答割合が高くなっている。次に、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(34.8%)、「企業に対する就労条件の改善策の啓発」(27.6%)の順となる。

【性別】



資 料

単純集計

『男女共同参画に関する市民意識と実態調査』

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	733	36.7%

A. あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①男性	302	41.2%
②女性	428	58.4%
無回答	3	0.4%
合計	733	100.0%

B. あなたの年齢について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①20歳～24歳	23	3.1%
②25歳～29歳	44	6.0%
③30歳～34歳	56	7.6%
④35歳～39歳	62	8.5%
⑤40歳～44歳	67	9.1%
⑥45歳～49歳	71	9.7%
⑦50歳～54歳	68	9.3%
⑧55歳～59歳	63	8.6%
⑨60歳～64歳	98	13.4%
⑩65歳～69歳	88	12.0%
⑪70歳以上	92	12.6%
無回答	1	0.1%
合計	733	100.0%

C. あなたの職業を教えてください。

選択肢	回答数	回収率
①農林漁業の自営業主・家族従業者	42	5.7%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	29	4.0%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	15	2.0%
④会社役員・経営者	28	3.8%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	214	29.2%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	184	25.1%
⑦家事専業者	113	15.4%
⑧学生	9	1.2%
⑨無職	91	12.4%
⑩その他	7	1.0%
無回答	1	0.1%
合計	733	100.0%

D. あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯(含単身赴任)	51	7.0%
②一世帯世帯(夫婦のみ)	177	24.1%
③二世帯世帯(親と子)	369	50.3%
④三世帯世帯(親と子と孫)	112	15.3%
⑤その他	19	2.6%
無回答	5	0.7%
合計	733	100.0%

E. あなたは現在、結婚していますか。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	558	76.1%
②結婚していない	105	14.3%
③結婚していないがパートナーがいる	10	1.4%
④配偶者と離・死別した	58	7.9%
無回答	2	0.3%
合計	733	100.0%

F. Eで「1 結婚している」「3 結婚していないがパートナーがいる」と答えた方のみお答えください。
あなたの配偶者又はパートナーの職業を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	31	5.5%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	25	4.4%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	11	1.9%
④会社役員・経営者	30	5.3%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	200	35.2%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	91	16.0%
⑦家事専業者	51	9.0%
⑧学生	0	0.0%
⑨無職	110	19.4%
⑩その他	1	0.2%
無回答	18	3.2%
合計	568	100.0%

G. あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる	552	75.3%
②いない	169	23.1%
無回答	12	1.6%
合計	733	100.0%

一般的なことでおたずねします。

問1. あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

1 家庭では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	251	34.2%
②女性が優位	99	13.5%
③平等である	321	43.8%
④わからない	54	7.4%
無回答	8	1.1%
合計	733	100.0%

2 学校教育の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	101	13.8%
②女性が優位	34	4.6%
③平等である	382	52.1%
④わからない	199	27.1%
無回答	17	2.3%
合計	733	100.0%

3 地域社会では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	487	66.4%
②女性が優位	15	2.0%
③平等である	139	19.0%
④わからない	83	11.3%
無回答	9	1.2%
合計	733	100.0%

4 職場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	436	59.5%
②女性が優位	18	2.5%
③平等である	175	23.9%
④わからない	88	12.0%
無回答	16	2.2%
合計	733	100.0%

5 法律や制度の上では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	277	37.8%
②女性が優位	26	3.5%
③平等である	280	38.2%
④わからない	137	18.7%
無回答	13	1.8%
合計	733	100.0%

6 慣習・しきたりでは

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	572	78.0%
②女性が優位	8	1.1%
③平等である	68	9.3%
④わからない	73	10.0%
無回答	12	1.6%
合計	733	100.0%

7 政治の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	533	72.7%
②女性が優位	4	0.5%
③平等である	105	14.3%
④わからない	81	11.1%
無回答	10	1.4%
合計	733	100.0%

8 社会全体では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	526	71.8%
②女性が優位	14	1.9%
③平等である	88	12.0%
④わからない	96	13.1%
無回答	9	1.2%
合計	733	100.0%

問2. 次の言葉やことごとらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

1 男女共同参画社会

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	302	41.2%
②聞いたことがある	265	36.2%
③知らない	159	21.7%
無回答	7	1.0%
合計	733	100.0%

2 ジェンダー(社会的性別)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	185	25.2%
②聞いたことがある	178	24.3%
③知らない	360	49.1%
無回答	10	1.4%
合計	733	100.0%

3 女子差別撤廃条約

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	120	16.4%
②聞いたことがある	214	29.2%
③知らない	391	53.3%
無回答	8	1.1%
合計	733	100.0%

4 男女雇用機会均等法

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	529	72.2%
②聞いたことがある	143	19.5%
③知らない	49	6.7%
無回答	12	1.6%
合計	733	100.0%

5 長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	85	11.6%
②聞いたことがある	223	30.4%
③知らない	416	56.8%
無回答	9	1.2%
合計	733	100.0%

6 長野市男女共同参画センター

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	90	12.3%
②聞いたことがある	195	26.6%
③知らない	439	59.9%
無回答	9	1.2%
合計	733	100.0%

問3. あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の上で男女の差がなくなる社会	349	47.6%
②政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会	166	22.6%
③男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会	463	63.2%
④新たな発想や多様な価値観が活かされる社会	123	16.8%
⑤男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会	551	75.2%
⑥男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会	402	54.8%
⑦その他	13	1.8%
無回答	18	2.5%
対象数	733	-

問4. 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	26	3.5%
②どちらかといえば賛成	296	40.4%
③どちらかといえば反対	262	35.7%
④反対	139	19.0%
無回答	10	1.4%
合計	733	100.0%

問5. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性は職業をもたない方がよい	5	0.7%
②結婚するまでは職業をもつ方がよい	11	1.5%
③子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	44	6.0%
④子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	303	41.3%
⑤子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	302	41.2%
⑥その他	66	9.0%
無回答	2	0.3%
合計	733	100.0%

問6. 男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をしたことがありますか。
あなたにあてはまるものすべてをお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①進学のときにあった	55	7.5%
②就職のときにあった	85	11.6%
③仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった	142	19.4%
④管理職へ昇進したかったが、あきらめざるを得なかったことがあった	23	3.1%
⑤その他	15	2.0%
⑥特にない	485	66.2%
無回答	25	3.4%
対象数	733	-

「労働」に関することでおたずねします。

問7. 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか
(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1. 賃金

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	150	29.3%
女性の方が優遇されている	1	0.2%
平等である	224	43.8%
わからない	96	18.8%
無回答	41	8.0%
合計	512	100.0%

2. 昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	210	41.0%
女性の方が優遇されている	1	0.2%
平等である	153	29.9%
わからない	107	20.9%
無回答	41	8.0%
合計	512	100.0%

3. 仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	125	24.4%
女性の方が優遇されている	50	9.8%
平等である	221	43.2%
わからない	79	15.4%
無回答	37	7.2%
合計	512	100.0%

4. 研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	71	13.9%
女性の方が優遇されている	3	0.6%
平等である	292	57.0%
わからない	106	20.7%
無回答	40	7.8%
合計	512	100.0%

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。

問8. あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。

次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	176	24.0%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	242	33.0%
③知らない	308	42.0%
無回答	7	1.0%
合計	733	100.0%

問9. 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について、あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	23	3.1%
②「家庭生活」優先	124	16.9%
③「地域活動・個人の生活」優先	16	2.2%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	255	34.8%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	31	4.2%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	83	11.3%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	186	25.4%
無回答	15	2.0%
合計	733	100.0%

問10. 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの現実(現状)の生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	197	26.9%
②「家庭生活」優先	195	26.6%
③「地域活動・個人の生活」優先	25	3.4%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	168	22.9%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	31	4.2%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	57	7.8%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	42	5.7%
無回答	18	2.5%
合計	733	100.0%

問11. あなたは次にあげる家事をしていますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1. 掃除

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	371	50.6%
自分と家族が同じ程度している	126	17.2%
自分は手伝い程度している	165	22.5%
していない	60	8.2%
無回答	11	1.5%
合計	733	100.0%

2. 洗濯

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	375	51.2%
自分と家族が同じ程度している	92	12.6%
自分は手伝い程度している	113	15.4%
していない	143	19.5%
無回答	10	1.4%
合計	733	100.0%

3. 食料品、日用品などの買物

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	320	43.7%
自分と家族が同じ程度している	180	24.6%
自分は手伝い程度している	163	22.2%
していない	60	8.2%
無回答	10	1.4%
合計	733	100.0%

4. 食事のしたく

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	358	48.8%
自分と家族が同じ程度している	97	13.2%
自分は手伝い程度している	116	15.8%
していない	152	20.7%
無回答	10	1.4%
合計	733	100.0%

5. 食事の後かたづけ

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	359	49.0%
自分と家族が同じ程度している	137	18.7%
自分は手伝い程度している	124	16.9%
していない	101	13.8%
無回答	12	1.6%
合計	733	100.0%

6. ごみを捨てる

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	307	41.9%
自分と家族が同じ程度している	143	19.5%
自分は手伝い程度している	144	19.6%
していない	124	16.9%
無回答	15	2.0%
合計	733	100.0%

問12. 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1. 育児(お孫さんを含む)

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	103	14.1%
自分と家族が同じ程度している	60	8.2%
自分は手伝い程度している	79	10.8%
していない	102	13.9%
無回答	389	53.1%
合計	733	100.0%

2. 介護

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	46	6.3%
自分と家族が同じ程度している	27	3.7%
自分は手伝い程度している	45	6.1%
していない	208	28.4%
無回答	407	55.5%
合計	733	100.0%

問13. 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。
 主な理由を次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	389	53.1%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	301	41.1%
③利用しにくい雰囲気があるから	390	53.2%
④上司がいい顔をしないから	81	11.1%
⑤育児、介護は女性の方が向いているから	130	17.7%
⑥他に育児、介護をする人がいるから	43	5.9%
⑦昇給、昇格に影響すると考えるから	133	18.1%
⑧男性で「育児・介護休業制度」を利用する人がほとんどいないから	289	39.4%
⑨制度の整備が不十分だから	275	37.5%
⑩その他	20	2.7%
無回答	18	2.5%
対象数	733	-

問14. 今後女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、
 どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改める	297	40.5%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかる	275	37.5%
③行政や民間、地域社会などにおける方針・政策決定の場に女性を積極的に採用する	126	17.2%
④雇用機会や昇進など、職場における男女の対等な取り扱いを徹底する	154	21.0%
⑤労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	412	56.2%
⑥社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についても、その評価を高める	210	28.6%
⑦男性が家事・子育て・介護・地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	107	14.6%
⑧男性が子育てや・介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)作りをすすめる	59	8.0%
⑨家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	53	7.2%
⑩官民ともに育児・介護に係る施設や家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	254	34.7%
⑪その他	20	2.7%
⑫特に必要なことはない	14	1.9%
無回答	22	3.0%
対象数	733	-

地域社会に関することでおたずねします。

問15. あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において
 次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	235	32.1%
②そうではない	246	33.6%
③わからない	242	33.0%
無回答	10	1.4%
合計	733	100.0%

2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	362	49.4%
②そうではない	206	28.1%
③わからない	153	20.9%
無回答	12	1.6%
合計	733	100.0%

3 役職や組織の運営事項は男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	118	16.1%
②そうではない	319	43.5%
③わからない	284	38.7%
無回答	12	1.6%
合計	733	100.0%

4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	162	22.1%
②そうではない	217	29.6%
③わからない	335	45.7%
無回答	19	2.6%
合計	733	100.0%

5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	194	26.5%
②そうではない	177	24.1%
③わからない	349	47.6%
無回答	13	1.8%
合計	733	100.0%

6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	46	6.3%
②そうではない	297	40.5%
③わからない	375	51.2%
無回答	15	2.0%
合計	733	100.0%

問16. 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。
あなたはどうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①役員の中の女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること	168	22.9%
②積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	295	40.2%
③女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	154	21.0%
④女性が積極的に役職につくこと	51	7.0%
⑤その他	21	2.9%
無回答	44	6.0%
合計	733	100.0%

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問17. 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として問題になっています。次にあげる行為は、DVIに当たる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	11	1.5%
②したことがある	0	0.0%
③受けたこともしたこともある	1	0.1%
④受けたこともしたこともない	691	94.3%
無回答	30	4.1%
合計	733	100.0%

2 ながる

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	53	7.2%
②したことがある	32	4.4%
③受けたこともしたこともある	22	3.0%
④受けたこともしたこともない	596	81.3%
無回答	30	4.1%
合計	733	100.0%

3 ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	39	5.3%
②したことがある	12	1.6%
③受けたこともしたこともある	19	2.6%
④受けたこともしたこともない	632	86.2%
無回答	31	4.2%
合計	733	100.0%

4 髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	19	2.6%
②したことがある	6	0.8%
③受けたこともしたこともある	0	0.0%
④受けたこともしたこともない	676	92.2%
無回答	32	4.4%
合計	733	100.0%

5 大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	90	12.3%
②したことがある	96	13.1%
③受けたこともしたこともある	99	13.5%
④受けたこともしたこともない	417	56.9%
無回答	31	4.2%
合計	733	100.0%

6 メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	33	4.5%
②したことがある	9	1.2%
③受けたこともしたこともある	5	0.7%
④受けたこともしたこともない	655	89.4%
無回答	31	4.2%
合計	733	100.0%

7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出ていけ」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	63	8.6%
②したことがある	30	4.1%
③受けたこともしたこともある	9	1.2%
④受けたこともしたこともない	601	82.0%
無回答	30	4.1%
合計	733	100.0%

8 何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	56	7.6%
②したことがある	50	6.8%
③受けたこともしたこともある	49	6.7%
④受けたこともしたこともない	544	74.2%
無回答	34	4.6%
合計	733	100.0%

9 生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	24	3.3%
②したことがある	4	0.5%
③受けたこともしたこともある	3	0.4%
④受けたこともしたこともない	670	91.4%
無回答	32	4.4%
合計	733	100.0%

10 嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	38	5.2%
②したことがある	19	2.6%
③受けたこともしたこともある	5	0.7%
④受けたこともしたこともない	637	86.9%
無回答	34	4.6%
合計	733	100.0%

11 避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	25	3.4%
②したことがある	5	0.7%
③受けたこともしたこともある	3	0.4%
④受けたこともしたこともない	664	90.6%
無回答	36	4.9%
合計	733	100.0%

問18. あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。
知っている相談窓口すべてをお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①長野県女性相談センター	163	22.3%
②児童虐待・DV24時間ホットライン	183	25.0%
③長野市福祉事務所(長野市役所保育家庭支援課内、篠ノ井支所)	153	20.9%
④女性の人権ホットライン	135	18.4%
⑤県警女性被害犯罪ダイヤルサポート110	103	14.1%
⑥県警(地域安全推進室)	295	40.3%
⑦長野犯罪被害者支援センター	71	9.7%
⑧長野市男女共同参画センター	90	12.3%
無回答	241	32.9%
対象数	732	-

問19. DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えにもっとも近いのはどれですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	335	45.7%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	191	26.1%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	151	20.6%
④人権侵害にあたるとは思わない	2	0.3%
⑤わからない	33	4.5%
無回答	21	2.9%
合計	733	100.0%

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問20. 平成25年7月1日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数と割合は、6人(15.8%)、
平成24年7月1日現在の住民自治協議会における女性役員の数と割合は517人(18.0%)となっています。
このことについて、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①現在より大幅に増えた方がよい	230	31.4%
②現在より少し増えた方がよい	238	32.5%
③現状でよい	71	9.7%
④現状より少なくてよい	3	0.4%
⑤わからない	177	24.1%
無回答	14	1.9%
合計	733	100.0%

問21. あなたは、政策決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。
次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①政治が身近になる	15	2.0%
②男性中心の考え方に変化が生じる	126	17.2%
③男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される	141	19.2%
④女性が持つ意見や発想が活かされる	356	48.6%
⑤何も期待しない	48	6.5%
⑥わからない	33	4.5%
無回答	14	1.9%
合計	733	100.0%

問22. 男女共同参画社会を実現するための拠点施設(長野市男女共同参画センター)の役割としてあなたは何を望みますか。次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①図書や情報の収集・提供	159	21.7%
②団体やサークルの活動・提供	327	44.6%
③調査・研究	185	25.2%
④学習・研修	321	43.8%
⑤職業能力開発	290	39.6%
⑥相談	305	41.6%
⑦わからない	122	16.6%
⑧その他	15	2.0%
無回答	17	2.3%
対象数	733	-

問23. 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善	271	37.0%
②政策・方針決定の場への女性の登用促進	158	21.6%
③学校教育や社会社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実	209	28.5%
④女性の人材育成の推進	154	21.0%
⑤女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実	176	24.0%
⑥育児や介護に関するサービスの充実	348	47.5%
⑦夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実	51	7.0%
⑧男女共同参画に関する情報提供の充実	84	11.5%
⑨情報提供や総合相談、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の整備	111	15.1%
⑩企業に対する就労条件の改善策の啓発	189	25.8%
⑪職場における男女の平等な扱いについて企業への周知徹底	196	26.7%
⑫その他	12	1.6%
無回答	36	4.9%
対象数	733	-

問24. 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
文章回答あり	152	20.7%
文章回答無し	581	79.3%
合計	733	100.0%

自由意見

問24 「男女共同参画」についての自由意見

性別	年齢	職業	記入内容
男性	20歳～24歳	学生	設問が理解しづらい。
女性	20歳～24歳	正規雇用者	女性を大切にしようとする目先は大切だと思いますが、男女ともに尊重するのなら、「女性だから」大切にしようという考え方も差別だと思います。
女性	20歳～24歳	学生	男女の役割分担というのは完全に変えられないと思います。男性は力仕事がむいているし、女性は家事や育児が得意であるし・・・。ただそれにとらわれない意識改革は必要だと思います。向き不向きがあるにせよ、個々のやりたいことをやれる環境作りが重要です。男性が育児に専念したいと言うのなら、育児休暇がスムーズにとれるようにした方が良いでしょう。
男性	25歳～29歳	非正規雇用者	男性と女性の差を無くすのではなく、お互いがフォローしあえる様な施策をしていって欲しいです。男は女の代わりは出来ないし、その逆もまた無理です。どちらか一方の権利を拡大し、相手を貶めたのでは新しい差別を産み出すだけです。
男性	25歳～29歳	無職	調査を行うからには、しっかり実生活で感じることができるよう、実行・実現してほしい。
女性	25歳～29歳	正規雇用者	「育児介護休業法」は長野市だけでなく、県内全域に定着して欲しいです。私の職場では、産休・育休後、短時間勤務で正社員の人がおらず、皆パートです。法的には定められているので、どう職場とやりとりを行っていけば良いのか、相談できる、又は個人や企業に指導して頂く機関が充実すると良いと思います。
女性	25歳～29歳	正規雇用者	社会（特に政治）への女性進出は、女性自身の気後れが大きな原因の一つだと思います。女性が本当に前に出てよい社会なのか、今の現状では自信が持てません。私達女性が自分の意見を発信できるよう、職場・家庭・育児・・・様々な方面からのサポートをお待ちしております。
女性	25歳～29歳	家事専業者	夫婦共働きでしたが、妊娠を機に退職し、専業主婦となりました。産休が1年間取れるとのことでしたが、その間に夫の市外への転勤も考えられたので退職という選択をしました。夫だけの収入では家計が厳しいことが分かり、改めて共働きの必要性を感じています。女性の職場復帰のしやすい制度や環境の改善、就業支援の充実、また子育てと仕事の両立が実現できる職場が増えてほしいと思いました。
女性	25歳～29歳	家事専業者	初めて聞いた言葉でよく分かりません。家事も育児も男女関係ない世の中になってほしい。今は女も働くのが普通だと思う。
女性	25歳～29歳	家事専業者	育児休業制度がもうちょっと利用しやすくなれば、主婦の方も助かると思います。男性も何日か休みがとるのが当たり前になればいいです。出産した後、病院に何日かいますがその後、里帰りする人もいれば、自宅へ帰る人もいます。実際私の母は持病があり、なかなか面倒をみてもらう事は難しく、里帰りはせず、主人に家事等を協力してもらいました。その時に感じたのがアメリカの方ではあるみたいですが、日本もそういう方々が産後1ヶ月入っていられる（生活できる）センターみたいな所があればいいなと思いました。実際なかなか大変ですよ、・・・。お金はかかってもそういう所があれば助かります。
無回答	25歳～29歳	正規雇用者	男女を平等な扱いにするのは難しいと思いますが、女性が社会へ出て、働く事はとても日本の為にもプラスになる事なのでがんばってもらいたいです。ただその為には、10年後、20年後の長いビジョンで学校教育から進めていくべきだと思います。今現在やる事としては、子どもを預ける為の保育園や小学校の時間（児童館）を夜の9時頃まで延長する事や、保育料の減額などがお願いしたい事です。会社側からの考えとしても女性を採用しても、結婚して退職するというようなことが多くなると困るので、まず生活の基盤となる仕事と家庭を先に述べたような体制を整えてくれると、辞めずに続けられると思う。
男性	30歳～34歳	正規雇用者	男女の性差を認め、定年の延長など、制度の根本からの改革が必要。小手先の対処では不十分。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	30歳～34歳	正規雇用者	アンケート調査票の作り方として、良くない。設問の文章が意見をある一定方向に向かわせようとしていることが分かる。意識と実態調査という名目であるが、このアンケートでは、市民の意見ではなく、行政の期待する結果が出てしまうことが、懸念される。
男性	30歳～34歳	正規雇用者	男女共同参画が何かよく知らないのですが、...
男性	30歳～34歳	正規雇用者	12年間、東京、埼玉の方へ出ていたのですが、3年前に長野市に戻り、思った事が、女性（長野県）が、仕事に対する意欲と向上心が低く感じられました。また、若い女性の喫煙率も非常に高く思います。この事を深く考え、その結果を課題に改善策をとっていくべきなのかと思いました。
男性	30歳～34歳	正規雇用者	昔の人ほど、受入れるのは難しいと思う。又、職場も推進しているとはいえ、雰囲気的にも浸透しているとはいえない状況。本当に男女平等にするのであれば、法律的にも大々的に打ち出し、誰も文句が言えないようにすべき。あと、金銭的な問題は必ず出てくるので、その辺りも何か具体的な案を検討した方が良いと思う。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	男性が不利になっているコトにももっと目を向けるべきだと思います。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	性別にとらわれている社会の現状もありますが、1人1人性別にとらわれず、個々の持っている能力が十分に発揮でき、その能力が社会の中で、活用できていけばいいと考えます。“皆違って皆いい”、違いを認め合え、それを活かしていける社会を期待したいです。自分自身でもまずできる家庭の中での、個々の存在を認め合い、かけがえのない存在を大切にしていくことを続けていきたいです。男女共同参画推進課の方々もこのアンケートからよい情報が集められるといいですね。がんばってお仕事して下さい。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	男女平等とはいっても、必ずしも全てが平等であつたらいいというわけでもなく、...。何となく男女それぞれの役割があるので、それをまっさらにして平等にするのではなく、よくないところは修正するというように、暮らしやすい世の中になつたらいいと思います。安易な意見ですみません。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	男性・女性の生まれもった得意・不得意分野や役割がある。枠組だけ変えて全て一緒にするのは気持ち悪い。（女性の人権が・・・とかいうのは恐いです。初めから対等です）。一方で男性でも育児をしたい、家事が得意という人がいれば女性でも社会へ出て働きたい人もいます。時代が変われば考え方も変わってくる。それに合わせて多様化していくのは良いと思う。そういったことの足かせになっているのは戦後の高度成長期の考え方ではないか？精神的な豊かさを（自然との関わりや芸術、趣味など）を犠牲にして利益を優先してきた。物質的な豊かさがそろった。東日本大震災の痛手は大きく不況だが、戦後のような貧しさはないので今後は精神的な豊かさをもち、参画していくべき。家事や仕事でみんな忙しいので、もう少し年代間・性別間で配分を考えていきたい。一番弱い子どもが犠牲にならないようにと思っている。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	子どもを保育園にあずけて仕事をしています。現在時短で働いていますが、子どもが3才になると、仕事はフルタイムで18時までになります。保育園を卒園しても、小学3年生までは学童保育を利用して、仕事の後すぐに小学校に迎えに行つて、仕事を続けようと思つていますが、4年生～6年生まではこれと言つた預け先もなく、ニュース等で子どもがねらわれる事件も耳にしますので、大人の目の届かないところで子どもだけに留守をまかせたり、遊ばせるのが不安です。中学生にもなれば、部活動等で子どもも忙しくさみしいこともないだろうと考え、4～6年生の3年間のために安定した職を離れて難しい再就職を目指すのも・・・と考えてしまいます。家庭と仕事の両立も、慣れ親しんだ職場で安心して働けてこそと思います、この4～6年生の3年間、学童保育のようなサービスを利用出来ればと思っています。
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	言葉が難しすぎて、答えるのに苦労した。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	長野では男女平等はムリだと思う。特に仕事で。給料少なすぎ、退職金のケタが違いすぎる。この先、年金も少ない計算なので県職の人とかうらやましすぎます。政治家、県知事、年収もらいすぎ。女性の名前もなかった。正社員でも200万でした。何が平等だと。そんな人達に分かるはずは一生ないと思いますよ。
女性	30歳～34歳	家事専業者	仕事をしていて、自分は男に生まれてくれば良かったと思った。収入や管理職は男が優位になることから、はげみだった仕事をあきらめる事があった。でしたら、はじめから女性は働かない社会にしまえば、女性は女らしく（出産）生きていくのにと、社会全体の制度をにくんでいます！！
男性	35歳～39歳	自由業	まずは意識改革。男性だけが悪いわけじゃない。女性にやさしい、制度もある。それに依存しない。完全な平等をめざした方がいい。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	男女共同参画に限らず、家族の問題について、どこに相談してよいか分からないので（+相談しにくい）。家族の問題に相談出来る窓口を総合的なものと、“地域”ではかえって相談しにくいこともあるので、地域の人間関係とは、関係なく相談できる窓口など、沢山つくってほしい。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	自治会やPTAの役員や会長に男性というルールは不要だと思います。逆に男性女性が半々というルールも不要だと思います。男性じゃないとできないこと（向いていること）や、女性じゃないとできないこと（向いていること）は、性を意識すればよいし、そうじゃないことは、性を意識しなくてよいと思います。女性が育児をしながらでも働ける環境づくりや、育児後に再就職できる環境づくりが大切だと思います。やっぱり子育ての間は、子育てに集中でき、その後は社会に戻って働けるのが、理想だと思います。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	企業に対して、条例でも何でも義務付け、させていかなければいつまで経っても変わらないと思う。但し、一度決めたら終わりではなく、時代に合った改正を常に行えるような制度も作るべき。企業に対しては、補助金を出す等、バックアップする仕組みも同時にやるべき。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	男女共同参画をもっと身近なものとするための取り組み。成功事例の紹介、公職に就いている女性を紹介など、がんばれば出来ることを広く知ってもらうことが重要だと思います。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	男性が仕事や地域活動で忙しすぎます。男性の仕事にゆとりができれば自然に女性の社会進出が進み、男女共同参画社会になると考えます。（男性が忙しいから、男は仕事、女は家事となってしまいます）。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	私が生活する場の、子どもの園・小学校・育成会は女性（母親）の参加・役員が圧倒的に多く、あまり今回の質問にピンとくるイメージが湧きませんでした。会社は人数が少なく、まだまだ自治会への参加もありません。年齢・生活の場によって様々だとは思いますが、子どもが成人する頃には、もっと男女共同参画社会が当たり前＝普通の時代となるのか、又それを求める必要があるかどうか？ちょっと難しいテーマだなと、今回のアンケートで考える機会となりました。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	現在、男性中心の職場で勤務しており、差別を感じていたので、今回の調査をうれしく思います。女性は結婚し、子どもを育てるものという風潮があり、社内でも女性は、ほとんど非正規社員です。役職にも就けません。勉強会も女性は無く、スキルは一切あがりません。雑用ばかりさせられています。ある程度の年数勤務すると、結婚は？子どもは？とパワハラが入ってきます。就職活動していた時も、女性だからという理由で落とされてしまった事がありました。男性も、女性が社会進出する事に対して、ウェルカムでない気がします。こんな世の中が変化しているのに、昔のままで良いのかと思います。是非、この様なテーマは興味があるので、構成員など集まって話し合いなどしてみたいです。これから、新しい時代がやってきます。是非、活動に参加させて下さい。男性優位な社会を変えてゆきたいです。長野が好きなので、長野から全国への気持ちでいっぱいです！女性のパワーを活用すべきです。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	男性がやっていることを、女性がやっていない。女性がやっていることを男性がやっていない。それが差別や偏見に基づいて決められているのであれば、直していく必要があると思うが、自分でそれをやりたい、と思ってそうやっていっている事に関しては、人が口を出すことではないと思う。家庭内では、お互いに意見を話し合っていて決めているので、お互いの得意分野をやっている。男だから、女だからではない。政治分野では、女性の意見をくむことが少ないと思うので、女性の進出があると良いと思うが、自分だったら、今、子どもの面倒を見ることよりもそれをとるか、と言われたら、否と答えると思う。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	私は正社員でしたが、近くに両親がいなかった為、子どもを産んでからは、会社をやめざるを得ませんでした。再度、正社員で働きたくても、小さな子どもがいるという事は大きなマイナス要素となってしまう事が残念です。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	男女それぞれの良さを生かして、お互いに無理無く、その人らしく生活できることを希望します。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	男性の育児・介護休暇がもっと取りやすい社会になって欲しい。また、育児世代の男性は、企業や会社にとっては働き盛りの世代のため、残業も多く、育児に参加したい気持ちがあっても、できていない（できない）のが現状。特に民間企業！！そのため結果として、育児をしている女性に全ての負担がかかり、仕事をしたくてもできない現実がある。未来のためにも育児しやすい、育児の面で男女平等となる社会になっていって欲しい。他の先進国にはできて、なぜ日本にできないのか？
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	出産にあたり必ず女性は仕事を休まないといけない。その延長で育児も女性がするものと思っている人が多い。休んだ後仕事に出ていくと、「出てきたんだから」、「休みをあげたんだから」と結構上司や周囲から言われて、悲しい思いをする。また慣れた仕事でなく、別の部署で復帰することが多く、仕事ができずストレスもたまる。育児と家事と仕事と両立することは非常に大変で、短時間勤務や仕事を変更するしかない。給与も下がり、保育園代は高く、生活は苦しくなる。お金がほしくて働くのに、保育園代が高くてやっていけない。なんとかしてもらいたい。お願いします。小学校に入ると、それはそれで休みがあって大変。どうしたらいいかわからない。
女性	35歳～39歳	家事専業者	二度とこのような調査のお手紙を送ってこないでください。迷惑です。
女性	35歳～39歳	家事専業者	女性の社会への係を追救する前に、子ども達も守ることから考えてもらいたいです。病気になった時の預り場所の提供（なるべく格安料金で）親も子ども安心できる環境作りが先だと思います。また、長期の休みや学校閉鎖等の預り施設の充実、金額が高すぎると、なんの為に働いているのか理由もみえてこないのです。補助を出すとかしてもらえたら、女性の社会進出する方も多くなると思います。
女性	35歳～39歳	家事専業者	男女が平等になってきているとはいうものの、まだ女性が就労できづらいという現状がある。個人的に平等の考えを持っていても、社会全体で考えを変えていかなければ何も変わらないと思う。
女性	35歳～39歳	家事専業者	女性としてあらゆる所で活躍したり、女性としてというより人間として、道を極めたいと思っても、子どもを妊娠する事により、あきらめなくてはならないときがあります。悲しい時もありますが、女性としてしか出来ないことと納得したり、喜びもあります。そんな面などで、全てにおいて、根本的男女は、差があるのは仕方のないという事も、頭にあります。それを男性にも分かってもらえれば、少しは男女共同参画の一步にもなればいいなあ。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	35歳～39歳	家事専業者	女性の全てが仕事をバリバリやり社会へ出ていきたいと思っているわけではない。若い時は、キャリアを積みたと思うだろうが、家庭を持ち、子どもを育てると気持ちは変わる。家の中のことや子どもに手をかけたいと思うが、自分が働かなければ生活ができないからという人が多いのではないかと。女性が働きやすい→働け働けと言われてるように感じる時もある。体力的にも女性が仕事を持ちつづけていくのはそう簡単ではないと思う。男が働き女が家庭を守るというラインは必要で、家事・育児に対する感謝や大変なことという認識が大切かなど。
女性	35歳～39歳	家事専業者	そもそも、男女平等ということが果たして男女がすべて同じことをするというのではないけれど、何が何でもおなじであれとうたっているような部分があるのではないのでしょうか。就労についていえば、やはり女性には女性の役割がある（出産のこと）のだから、その役割は全う出来るように産休がとれるように全ての企業がすべきだし、育休は男女共にとる権利があることが望ましい。子育てを経験して、マイナスになることは絶対はないのだから、むしろ進んで育休をとるんだという方向が男女共にあってほしいと思う。その際手助けとなるのが行政であり民間であり、子育てについてのセミナーや子ども同士のかかわる場、母父同士が話せる場、またその際の託児などの充実、すべては子どものために男女が共に自分の個性を出し合えるような社会がすばらしいと思う。そして子育てとは楽しいんだという社会の雰囲気これからもずっと必要だと思う。
女性	35歳～39歳	学生	私は基本的に家事や子育ては女性が中心にするものだと思います。職場で平等になるということは負担もそれだけ大きくなるのではないかと思います。女性であることを尊重してその上で男女の差別をなくせば良いと思います。まずは尊敬し合うことが男女共同参画の第一歩だと思います。
女性	35歳～39歳	その他	私の母が育児をしてきた時代と比べれば、女性の立場が改善されてきた様に思います。ただ、職場における男女平等な扱いに関しては、平等などとは程遠い状況だと思います。男女共同参画社会の実現を切に願っています。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	基本的で良いことであると思います。ただし、男性も問題（考え方等）があると思いますが、女性も仕事への責任感等を更に強くする必要があると思います。そしてその根幹は職場を中心としたその環境にあると思われ、その環境づくりのためにも、そちらの活動に期待します。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	男女共同参画についてはありませんが、このアンケートは回答欄が用紙の右側に設けられており、左利きの私にとっては、回答しにくいものであります。これを解消するためには、回答欄を設問の下側に設けるか、別紙とするという、ちょっとした配慮で足ります。右利き優位の社会を是正することも、男性優位社会の是正を使命とする貴課において実行してください。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	このアンケートの回収率はどのくらいなのでしょう。義務ではないアンケートに協力を求めるに於いては、設問数が多過ぎるような気がします。面倒くさくて、放り出す人も多いのではないのでしょうか。これだけの設問に協力する人は、比較的「男女共同参画」にも理解のある人だろうと想像できます。そういう人たちのアンケート結果をもって、現在の市民の意識の総意を“総括”するのは、大げさに言えば乱暴だと思います。このアンケートは何の為にやっているのかを再認識していただき、もっと有効なものにすべきだと思います。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	まだまだ知らない点が多々あると思います。これからもいろいろな情報を発信して下さい。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	男性が育児・介護休業制度を利用しやすくなる社会になって欲しいです。DVIは、全く自分にはピンとこない話なので、個人差はすごくある問題だと思います。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	40歳～44歳	正規雇用者	男女は平等かという、少しいろいろな面から見ると疑問に思う部分があります。「子どもは女性しか産めない」のなら、それは女性の役割であって、男性はなにをすればいいのか？法律や制度で平等といくらいつても、平等とは違うと思ってしまう。ただ「男女平等」を逆に、女性に男性と同じように、転勤や仕事を強制的に言うのは、おかしいと思う。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	単に女性の数(問20、21)を増やすという考えではなく、どんなキャリアを持った女性に役職に就いてもらうかが大切だと思います。結婚・子育て・PTA・地域の仕事の経験のある人ならば、同じような生活をしている女性の気持ちが分かると思います。外で働くより、家庭でしっかり子育てをする母親を私は尊敬する。そういう母親たちが、肩身の狭い思いを抱かないような社会作りを期待している。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	お年寄りの考えを変えるのは、無理があると思います。小さい頃からの教育が必要だと思います。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	男、女それぞれに向いている役割があると思う。生活が大変だという事はわかるが、現状は子どものことを理解していない、「放任主義」という言葉で片付ける親が多いと感じる。外で働くより、家庭でしっかり子育てをする母親を私は尊敬する。そういう母親たちが、肩身の狭い思いを抱かないような社会作りを期待している。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	母子家庭で生活が苦しいです。長野市全体の、もう少し給料(時給)を上げるなど、生活のフォローをお願いしたいです。生活できなくて困っています。上げて欲しい。子ども手当、母子手当は下がる一方、給料も上がらず、支払いも変わらず、支出は変わらず、収入は減るばかりです。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	アンケートを頂くまで知りませんでした。広報等ではなく、違う方法で推進しても良いのではないのでしょうか？子育て、転勤等で一度仕事を離れてしまうと、なかなか社会復帰ができません。多くの女性の方々の切実の声を聞いて欲しいと思います。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	あまり細かく法律などで規制すると、逆に法律他の規制以外＝何もしてもいい、という意識になってしまうかもしれないので、相手にも自分にも思いやりと敬意を持って言動する、ということが普通であたり前である、という意識がまじめな長野市民(あまり変化を求めない?)に広がればいいと思います。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	各企業(中小も含む)のワークライフバランスへの積極的な推進ができるよう、行政でも今よりもっと関与していただきたい。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	男性の得意なこと、女性が得意なことはあると思います。多くのことを考えた上で住み良い社会。子育て介護を多くの人達で支え合える社会になると良いと思います。子どもの発達障害に対する理解、特に教育者の方々にはちゃんとした知識を持って頂きたいと思います。教師の一言でイジメがはじまる事も考えてもらえると偏見のない社会を願います。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	私は、育児休業制度や時短制度を利用して仕事と子育ての両立を目指してがんばりましたが、最終的には正規職員を辞めました。私の様子をみていた後輩たちは誰も時短制度を、その後取っていないそうです。やはり制度は制度。現実がちがいます。しかし、利用しなければなんのための誰のための制度、とも思います。そして1回正規雇用をはなれると、なかなか正規での再就職は難しいですね。ますます政治とか選挙なんかで言っているきれいごとが、自分の生活とはかけはなれて見えます。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	男女平等を望まれますが、いざ職場に出ると授業参観や学校行事で休みをとるといって、難しい職場もあり、主婦なのだからそうゆう件では休みをとらせろ！！と言ってみたり、かと思えば男女平等で仕事をさせろ！！と、矛盾してしまうところもあるような気がします。そうならない為にも、もう少し休みについて男女共にとり易い社会になったらと思います。
女性	40歳～44歳	家事専業者	女性自身が、男性中心の社会のあり方に依存している限り、自分を磨く意識を女性が持つ事は難しいと思う。女性のみのお話し合いに出ると、「個別性」と「社会性」をバランス良く、「社会化」していくことが幸せにつながる事だと理解している人は半分。「社会化」のプロセスを「個別的に持っている問題」にかまけて、丸投げにする傾向もあり、閉口。システム化する努力をしない女性が多いと思います。まずは、「男女共同参画」の目標を明確に掲げて頂き、そこで、「男女共同参画」の目標になかなか達せないような、社会的問題を抱えた人材を雇用してみるの、いかがでしょうか。「男女共同参画」組織自体、「社会的なバリアー」が存在していないかも知れ、絵に描いた餅にならないよう、問題の明確化をしっかりとって頂きたいです。全ては税金を使って行っている事業。責任を持ち、結論を出して下さい。
女性	40歳～44歳	その他	女性が働き続けにくい理由は、子育ての負担にあると思います。男女共に、労働時間の短縮（又は、フリータイム制など）を考え、子育てや家事がそれぞれ分担でき、共に支え合う事ができれば真に平等になれるのではと思います。
男性	45歳～49歳	自由業	「男女共同参画」、「女性の就業」等は「あたりまえ」だし、そうなるものと思いますが、出産・育児、特に女性の高齢出産とそれに関連する諸問題につながっていかないようにならないといけない。女性の年齢による生理的なバランスについて、もっと研究が必要であり、それに基づいた方向を探ってほしいと思います。政治、行政の人は真剣にバランスも考えてやってほしい。
男性	45歳～49歳	自由業	基本的に私の周りの女性は強く、皆自由に、自分を発揮している方々が多いので、このアンケートが何の目的でどの様な答えが欲しいのか？良くわかりません。腕力等に頼らなければ、コミュニケーション力は女性の方が優れていると思いますし。各人を尊重すれば良いのではないですか？システムより道徳、とこの方が長い目で見れば早いと思いますが、．．（苦笑）。
男性	45歳～49歳	会社役員・経営者	学校の役員を父親だけ集まって決める、又は母親だけ集まって決めるのは、まさしく人権侵害であり、憲法違反だと思う。市立小学校でこの様な慣例、ルールがあるのは市政に問題があり、直ちに改善すべきと思われる。女性のPTA会長がいないのはおかしい。家庭内で男女平等は当たり前であるが、仕事、家事の分担は個々の問題である。DVは論外。育児は男は女性には勝てない部分がある。「男女共同参画」という言葉でひとくくりに出来ない事もある。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	問20、21でも記述しましたが、良く女性の割合を〇〇%にするなどと、目標を掲げることがありますが、一番ナンセンスである。あくまでも、自然体での取組みの結果、男女、フィフティーフィフティーになることが、一番望ましいことではないでしょうか。逆に、男女割合が、男：女、1：9になっても、それは自然のなりゆきであり、問題視することはないでしょう。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	女性の考え方が伴わないといけないと思います。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	アンケート結果の統計で「市民が望んでいない」、「重要だと思っていない」と出ようとも、行政の義務として男女の不平等の実態を是正してください。
男性	45歳～49歳	非正規雇用者	市議会議員の半分を女性にしろ！市の幹部職員の半分を女性にする。市が見本をみせろ。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	45歳～49歳	その他	女性の正社員としての地位の確立が絶対的に必要です。女性の収入UPが生活力、地域力、教育力全てにおいて社会に力強さが生まれます。ただし、その様な社会になるためには、男性の意識改革が必要と考えます。男尊女卑は、教育的にはありえない話ですが、地域社会、職場など表面ではなく、人々の心の中にはあると思います。だからこそ、力づくやDV、差別的な言葉や言動が”イザ”と云う時に出てしまいます。男性の意識改革を進め、女性の地位向上（特に経済力のUP）が、今の社会に求められています。それには、老若男女問わず、皆が平等感を持つ事が出来れば、男女平等に限らず、イジメ、差別、格差の壁が多少なりとも低くなり、我々が声を出す事によって、未来へのつながりが途絶える事もなく続いて行くと考えます。
女性	45歳～49歳	自営業（農・林・漁業以外）	私は結婚しておらず、しかも予定もないからかもしれません、仕事でもプライベートでも、男女の差を感じたことは一度もありません。実際、今まで働いてきた会社では、男性よりも女性の方が「よく働く」、「能力が高い」という印象を持っています。（たまたまかもしれませんが・・・）個人的には、女性の地位向上とかといったことを言っている段階です。現代社会では、男女関係なく、表立った仕事をめんどろに思う風潮にあり、地域の仕事や政治に参加したいけど、女性だからという理由で参加できない人は実際のところどのぐらいいるのでしょうか・・・。%の数字だけの問題ではないと思います。個々の理由や意見によって、仕事でも家庭でも地域社会でも参加スタイルは変わると思うので、女性だからという理由で、男女共同参画の考え方をおしつけられるのはどうかと思います。
女性	45歳～49歳	正規雇用者	永遠のテーマ、地道に啓発を続ける。女性自身の自覚も必要。まずは家庭から、パートナーであること。子どもは生活から学ぶ。仕事は能力ある男女に均等なチャンスを、仕事・家庭・地域、忙しすぎる、バランスよく思いやれることが、共同参画につながると思う。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	「男女共同参画」についてはありませんが、よく一方的に、今回もふくめ、無作為に選んだとしても、納得がいきません。やりたくない人もいるのに、これこそ人権無視しているのではないですか。こうゆうあり方、やり方に納得いかないです。本当にアンケートとしてまとめるなら、全市民に配って、その中でちゃんとやってくれる人の意見をまとめた方がいいのではないのでしょうか。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	男女平等である必要がない。男性にしか出来ない事、女性にしか出来ない事が有ると思う。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	まず家庭の中で男女平等であるべきだと思います。共働きなら、男性が食事を作って待っている日があっても良いと思います。それが出来ないのなら、毎日朝から晩まで家政婦の様に家族の為に時間を費やしている女性に感謝する気持ちを男性は持つべきです。保護者は、なぜ父親の名前なのでしょう？母親の名前を書くと、母子家庭だと思われてしまいます。子どもの事は（学校の事など）、全て母親に任せきりなのに・・・なぜ？小さな事かもしれませんが、家庭の中にはこの様な理不尽なことがたくさんあります。一番小さな社会（家庭）が、変わらないと、本当の大きな社会は、いつになっても変わらないと思います。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	今でも男性優位の社会であり、どこまで続くのか？と思う場面が多いと思います。参画の意味するところがよく分からずにいます（分かりづらい）。会社経営の方々の方がよりよく働ける場所にしていただけるかということもあるのではと考えます。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	幼少の頃から、思いやりの心が育つよう、教育機関、保育施設、そして何より家庭の親が見本、手本になるとよいと思います。私は、仕事と家庭の両立が苦手だったので、子育てを優先しました。子育てに終わりはなく、社会に復帰するタイミングも難しかったです。社会復帰した時の受け皿が時給の少ない不安定なものしかなくなってしまうのではなく、もっと、幅広い仕事があると良いと思います。これからの大人、精神も安定し、社会で活躍出来る、次世代の子たちを、もっと、親の愛いっぱい育てることも、少し見直してみしてほしいです。子ども達は結構荒れています。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	男女が平等に働け、社会に参加できるのは、とてもいい事だと思います。でもその為には、子どもを育てやすい、安心して育てられる環境・社会も大切だと思います。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	女性の社会進出は独身女性にとっては非常に意義があると思う反面、子どもを持つ子育て世代の女性にとっては、子育て中は、しっかりと子どもと向き合い、子どもを育てる事が一番大切だと思う。出産からせめて小学校に入学するまで離職、入学後、職場復帰できる体制があるなら、有難い。但し、少子化、放置児童、虐待等の問題を考えると、女性にとって、社会進出よりもまず、子を産み、育てる事が大切だと思う。田嶋陽子のようなウーマンリブの偏狂な考えの人が独身女性に多く、そういう人程、ジェンダーフリーとか、女性の社会進出だとか言い、議員になったりするが、いい迷惑である。女性全てが本当に社会進出を望んでいるかといえば専業主婦になれるならなりたいたい人もいる。そのどこがいけないのか？女性の社会進出というのならば、せめて、安心して出産・子育て・社会復帰ができる社会基盤を整えてから議論して欲しい。だんなの稼ぎだけで十分に生活していけるのならば、私はずっと主婦でいたい。差別ではなく、女性にしかできない事、男性にしかできない事もあるのだから。その辺もよく考えて欲しい。
女性	45歳～49歳	家事専業者	子どもが2人いますが、下の子が小学校に上がる時、ずっと続けていた正規雇用の仕事をやめました。おかげでPTAや育成会など、積極的に関わることができました。仕事も家庭も優先させることは本当に努力が必要だと思います。労働時間の短縮等は、一番ありがたい制度ではないかと思います。
男性	50歳～54歳	会社役員・経営者	世の中一般的に、いまは 女性保護や優位が多いと感じる。昇進等は別にして、就職自体は女性の方が優位だし、女性保護が多い。男性の方が生きるのが大変だと思う。
男性	50歳～54歳	会社役員・経営者	育児の女性に対するフォローと改善を望みます。
男性	50歳～54歳	会社役員・経営者	政治家（議員）に女性が少なすぎると思います。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	まず本アンケートの分量は多すぎるのでは一回回答率下がるのでは。生活のために共働きせざるをえないことは好ましいこととは思えません。男女のそれぞれの個性とはどのようなことをなんでしょうか？リーフレットを読んだ感想。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	何でも男女平等にする必要はないと思います。男女それぞれが持つ能力を活用していければ良いと思います。
男性	50歳～54歳	非正規雇用者	なにかと男だ女だと分けて考えて、区別だ差別だと言うが、1番は本人次第の能力が大事だと思う。
女性	50歳～54歳	自営業（農・林・漁業）	男女共同参画について、よくわかりませんが、男性だから女性だからと言うより、ひとりひとりがそれぞれの場所で個性を発揮出来たら、本当にすてきだと思います。共働き世帯が多くなってきて、女性も社会参加しやすくなったのは良いことだと思いますが、乳幼児の扱いがわからない母が多くなったのも事実だと思います。それに気づきながらも適切なアドバイスをできない保育施設もあるようで・・・子育てしながら親も育つそれが豊かな社会にもつながると思います。
女性	50歳～54歳	正規雇用者	男性ばかりではなく、女性の意識も変えないと、実現はむずかしい。男性にやってもらってれば楽なので、女性自身が自分から前に出ようとしないう傾向があると思う。私は、子育てや介護をしながら、フルタイムで働いてきているが（共働きをして）、いろいろな面で困難さを感じてきた。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	私は結婚もしていないし子どもも居ません。なので家庭内の男女共同等の事はよくわかりません。今、単身の家庭が増えていると思いますが、そういう状況での男女共同とはどのように考えたらいいのでしょうか。家庭は夫婦だけではないと思います。このアンケートは私にとってあまり意義のあるものではありません。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	すべて平等にというのには、無理があるかなと思います。男女が協力し合って、お互いが気持ちよく毎日生活していける事が一番と思います。
男性	55歳～59歳	自営業（農・林・漁業）	女性が不利という前提での質問項目になっているように思うが、あくまで男女平等の立場で質問すべき。
男性	55歳～59歳	自営業（農・林・漁業以外）	本当に実現するつもりですか。あまりに無策、消極的。育児・介護から女性を解放し、女性の力を社会に活かして下さい。これからの日本は女性の力が不可欠です。
男性	55歳～59歳	会社役員・経営者	男女共同参画の理想のあり方とは何かということについては、個人ごとに別々なものであると考える。表面的な形式で片付く問題ではない。お互いを思いやる心をどう養成するかに全てはかかっていると考えている。家庭においても、学校又は地域社会においても、知識・技能の教育と共に、道徳教育をもっと重視した施策が必要だと考える。
男性	55歳～59歳	会社役員・経営者	今、現在共同では有ると思う、身の廻りにおいては。活動が目立たない。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	お役所の方は机上でアンケートをまとめて満足でしょうが、現実の社会はこんな甘いものではないのです。中小企業で10人位の職員しかいないのに、産休・育休を1年も取られて（3回目）は、その分を他の職員がカバーしなければならないという理不尽な現状で、何が男女平等などとくだらないお題目を唱えているアンケートは気分が悪い。
男性	55歳～59歳	非正規雇用者	男女がもつ身体的特性に配慮しつつ進めるべきです。例えば、深夜勤務・長時間労働・重労働・ストレス度など全てが平等という訳にはいかないと思う。近年の不妊者の増加など母体に与える影響を調査研究し、思いやりのある政策を推進していくことを望みます。
女性	55歳～59歳	自営業（農・林・漁業）	男女平等とは言え、男性には男性にしか出来ないことが、女性には女性にしか出来ない事が有る様に思います。全てを平等とするのでは無く、無理なくそれぞれの役割を果たせる様、配慮されます事を切に願いたく存じます。
女性	55歳～59歳	正規雇用者	男女共同参画がいわゆるようになってから、かなりの年数がたっています。以前に比べると、女性の社会への参加がふえてきていると思いますが、「男女共同参画」この意味する社会には、ほど遠い現在の各個人、社会が気づかずに、昔ながらの固定的な考え方が元になった言動や行動が多いと感じます。子どもたちへの教育と、大人たちへの意識改革と、社会のバックアップのシステムづくりが、まだまだ必要だと思います。
女性	55歳～59歳	正規雇用者	DVについての相談できるところがこんなに多数あるとは、知りませんでした。私が夫からDVを受けたのは、30年前ですが、「知っていたら」と思いました。もっと多数の方法で、県民、市民の女性の方に、テレビ、ラジオなど使用し、周知していくべきだと思います。それと男女共同参画という言葉はわかりやすく、もっといいネーミングを求めます。嫌な事を思い出して、残念ですが、協力したことで、何か一歩でも改善されることを祈ります。
女性	55歳～59歳	正規雇用者	男・女と性別で考えなくなる時代がくるのは、あり得ないことなのではないでしょうか？出産&育児という大きな役割が女性にある限り、真っ白に平等とはならないとは思いますが、その分の社会的参画でのマイナスは、男性全ての何らかの形でのマイナスと同じ比重ではないかしら。男女差ではなく、個人差、能力差で動く社会になりますように！
女性	55歳～59歳	無職	私が家庭を持っていた時、DVを精神的に受けており、現在のように相談する所があればと思いました。そんな時代だったので今の若い方々にはお互いに尊重でき、信頼できる相手と人生を歩んで頂きたいと思いました。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	60歳～64歳	自営業（農・林・漁業）	男は男。女は女。それぞれの役割を担って、生活出来る体制の整備に期待します。女が結婚、育児もしない世界に共感出来ません。
男性	60歳～64歳	正規雇用者	このアンケート調査をどの様に、いつまでに、改善に反映させるのか関心を持っています。やりっぱなしにしない様に！
男性	60歳～64歳	正規雇用者	もっと勉強したい。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	施策や環境を整えるとともに、積極的に参画する女性を増やす事が必要と思う。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	他人事ではなく、まず長野市が実践してみせる事です。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	女性の参画は、家族構成や環境に大きく影響する。参画しやすい条件を家庭で話し合うことが大切である。
男性	60歳～64歳	無職	妻または一般女性に協力したいが、何から手伝えればいいかわからない。時間はあるが。
女性	60歳～64歳	自営業（農・林・漁業）	女性が社会進出をするには、それなりの学習、努力が必要です。それと家族の協力。意見が言えること、実行できること、女性も甘えてはいけなと思います。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	私の現役の時代と今は考え方が全く変わってきているので、私はあまり理解できません。とても平和に家庭を守ってきて、何の不満も無く、過ごしてきましたので、今回の調査に良い意見が言えず、申し訳ありません。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	男女共同参画社会とは・・・を読ませていただいて自分も自分達世代も考え方なり行動を見直さなければという思いがします。行政から制度上改められても（それはそれでとても大切ですが）自分達女性の側に遠慮してしまう気持ちや得に子育て中の女性に親としての子ども達に対する罪悪感など乗り越えなければならない個人的問題で一步前に出れない現状があります。制度が浸透して男性の意識もそれに慣れてあたり前になっても、家事・育児・介護を女性がやらざるを得ない現実では難しいと思われまます。それと、少子化・結婚しない男女・晩婚化・卵子の老化等々思われますと、これからの未来の社会を思うと女性の社会的地位の向上と晩婚化等無縁じゃない気がします。どう考えて良いのかまとまりませんが少子化等含めて考えていけたらと思っています。
女性	60歳～64歳	家事専業者	男女共同参画という名称？そのものが、いまひとつ理解出来ていません。意識の無さを反省しつつ、自分なりに書かせていただきました。
女性	60歳～64歳	家事専業者	主婦としての生活が長く、男女不平等と感じる機会が少ないため、とても難しい質問で困りました。介護や育児は女性の仕事と思込んでいる男性が多い現在、女性の地位は危ぶまれる。だってそのこと（介護・育児）に従事している間は職場から遠のかざるを得ないから。
女性	60歳～64歳	家事専業者	私は60を過ぎていますので、若い方をお願いしたいです。男女という考えを改めなければ。この問題は先生です。子どもの時から、親の考え方をなおして、子どもに話してほしいのです。学校がいくら取り上げても駄目なのです。私事ですが、主人が家にいるようになったらと、どうなるのかと思います。改めて自分はどうしたら良いのかと考えさせられました。
女性	60歳～64歳	家事専業者	今度のアンケートで、「男女共同参画」について知りました。まだこの「男女共同参画」の周知が広くされていない感じがします。もっと広く情報提供が必要と思います。
女性	60歳～64歳	家事専業者	施策推進などに参加している方達はどんな方々でしょうか。役員などいくつも（兼ねて）いる方が多いと思います。同じ顔ぶれだけの集団ではなかなか前に進まないのでは？新しい顔なら新しい風も吹くと思います。役員選びが大切！
女性	60歳～64歳	家事専業者	女性が社会に参加し、生き生きと活躍することで、生む性として不利にならない様、社会保険、奨学金の返還など少子化へ向かう事がない様環境を整えて欲しいと思います。人生のライフスタイルに合わせ、子育てしながら学生生活や、就労介護を前向きに行う事のできる社会を、小中高の教育の段階から、男女共同参画の考え方を取り入れて、起業やサービスにも努めていけます様期待します。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	60歳～64歳	無職	他県より来た者です。田舎の方に住んでいますが、集会に女の私が出席すると、「男がいるくせに. . . .」と思われるようです。頭のカタイ方が多いですね。「かたち」を作ることになりやすいですが、中身のある活動を行ってほしいです。そして、弱い者（女だったり、お年寄り、子ども、わずかな男の方）の事を、皆で、話し合い、考え、行動して行ってほしいです。実のある活動をお願いします。
男性	65歳～69歳	自営業（農・林・漁業）	女性をより多く住自協へ役員等として入れる為、女性（中心）の会＝大半はなくてもよい会（白バラ・日赤etc＝他で対応できる）を残してあるが、地域全体の団体の見直しをすすめる区長（区の長）をはじめ、中心として活躍できる会（団体）から役として参加する方向ですすめるなければいつまでたっても女性は補助的役割で終わる。
男性	65歳～69歳	自営業（農・林・漁業）	アンケート調査、活かして下さい。
男性	65歳～69歳	自営業（農・林・漁業以外）	少子化と高齢化は別の問題であり、高齢化について記します。現在の65才は、30年前より15才は若く、高齢化準備期間であり、家族・夫婦・子どもの諸問題が顕在化しつつ金銭的（経済的）に余裕もあり、被覆されている。65才～74才は、前期高齢期であり、身体的・精神的な衰えを感じつつ、又金銭的に余裕があるのに支えられるが、家族（自身の親・子ども）の心配事に悩まされる。75才～84才は、後期高齢期であり、心身共に衰えを実感し、金銭的問題を加え、一つでも現実起こると、未解決のまま諸問題を内包しつつ、先延ばしされる。85才以上は、後期終末期であり、周りに感謝しながら、日々自らの終末を感じながらの生活となる。「男女共同参画」については、問23の1、5、10等に重点に着実に実施し、着実に結実される様望みます。
男性	65歳～69歳	会社役員・経営者	理想と現実があるとします。男女は平等である（人間として、人類共としても）ことは、当たり前ですが、男性と女性は、全く同じではない！従って、100%同じくしようとしてはいけない事と思う。行政は出来る事だけやれば良い。やりすぎではいけません（税金は正しく使っていたきたいのです）。理想は、行政は市民をいつくしみ育て指導し、市民は行政に協調し協力する。
男性	65歳～69歳	非正規雇用者	自治会役員への女性参加が進まず、困っています。「どのように誘導すれば良いか」、情報がほしい。
男性	65歳～69歳	無職	男女共同参画を阻害している要因は様々あると思います。残念ながら、女性自身に「家庭優先」の考え方が多いように思います。それでは、仕事上も社会生活上も責任を果たせない場合があると思います。もっと女性自身社会に目を向けて欲しいと思っています。
女性	65歳～69歳	自営業（農・林・漁業）	”女性が社会で活躍することはあたり前”という考えになる様な状態になることが一番と思います。力のある女性が今とても多くいます。その人たちが思い切り力を発揮する場をどんどん作ってくれるのは、行政の力だと思います。女性の声の届く国政、県政、市政へまず女性の議席を増やして（女性の議席〇名と決めて）いくのはどうでしょう。
女性	65歳～69歳	自営業（農・林・漁業以外）	ご意見ではございませんが、何せ昔の人間ですかね。食事、仕事、洗濯、掃除、みんな自分がやるものだと思っていましたので、特別、苦には思いませんが、仕事以外は何も手伝ってくれない夫に、ストレスが. . . 。これからの若い人達には、男女共同で生きて行ってほしいです。
女性	65歳～69歳	非正規雇用者	言葉は良く耳にしますが、今の世の中では、男女がなかなか平等とはいきません。女性の方もこれからは大いに地域の行事などに参加してほしいと思います。行政の方も、もっと宣伝する必要があると思います。
女性	65歳～69歳	家事専業者	男女共同参画から性差を忘れないで、人間尊重へ、人間平等へと進んで行ってほしいです。
女性	65歳～69歳	家事専業者	男性、女性の特性を生かし、それぞれのし得る事を認め合い、協和し互いに自覚と責任を持つことが大切だと思います。
女性	65歳～69歳	無職	それぞれの個人の意識の改革が大切だと思いますが、勉強する場所、意見をいえる環境作りも大切だと思います。それによって個人個人の成長につながると思います。それから社会全体に発展していければいいです。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	70歳以上	自営業（農・林・漁業）	男女が家庭生活で対等な役割を果たしながら、仕事や地域活動と両立ができるような環境づくりを早くしてもらいたい。
男性	70歳以上	自営業（農・林・漁業）	女性が（自分から）積極的に参画すべきだ。
男性	70歳以上	自営業（農・林・漁業）	女性は女性、男性は男性では有るが、お互いに話し合い出来る事からだんだんやって行ったらと思う。私は自分の出来る事はなるべく自分で食事、洗濯等も誰でも出来ると思われる。2人してやれば良いと思う。
男性	70歳以上	自由業	次世代には、「男女共同参画」が死語になること。
男性	70歳以上	非正規雇用者	日本国に女性総理大臣が誕生した時点で、男女共同参画社会が実現されたと思います。現に、英国、韓国など一国の首相に女性が就いています。一国のトップが女性で占めれば、戦争もDVも無くなるでしょう。
男性	70歳以上	無職	女性自身にまだ女だからといった、気持ちをもっているのではないか。
男性	70歳以上	無職	9年前から、体が不自由になり分からない事ばかりです。協力出来なくてすみません。
男性	70歳以上	無職	女性の能力を生かすことが、男の一方的な思考から、巾広い方面に発展するもとなると思う。
男性	70歳以上	無職	人間として性別ではなく、平等であり、その意味において、共に共同して、良き社会を作り上げて行く努力を今以上に進めて行くべきであると感じております。
男性	70歳以上	無職	政府機関から「男女共同参画白書」が出版されて、大分経過しました。年に1回の出版物ですが、初版（第1回目）が出版された時と今の社会とあまり変化がないように思うのは、私だけでしょうか。
男性	70歳以上	無職	女性が子どもがいても働きやすい社会、職場が多くなるように条件を整備して下さい。
男性	70歳以上	無職	男女共同参画の拠点施設や、他の団体、サークル活動、能力開発、研修の場の提供など活動をして大変かとは思いますが、利用を考えると、ほんの一部の人達の利用に限定された事と思います。現在の社会通念や慣習、しきたり、等の考え方を考えるには、学校教育をはじめ、社会教育、歴史教育を基本的に推し進めていただきたいと思います。行政には限界があると思いますので、「男女共同参画」も政治家の提案を積極的に取り組んでいただければと、私は考えます！
男性	70歳以上	無職	女性（妻）の長期就業による夫の孤独生活を見るに耐えないこと。未婚者（男女問わず）49才（独身男性）43才（未婚女性）の親の悲鳴！！多忙過ぎて親の許でしか生活できない（乳離れされていない男44才）などを見たり身近にいるのを考えるに、男は男（仕事）女は女（家事・育児・世帯を持つことの欠落さ）が痛感する！！（男女）性の社会への対応の仕方に歪んだ自由が蔓んでいる。自由なら何でも構わない社会にならなければいいが。
女性	70歳以上	非正規雇用者	私の夫は“家事・育児は女性がするもの”と昔の考えでいます。私も自分が出来るうちとはとごみ出し等もしていますが、退職者が多くなった私の地域では、男性の方のごみ出しが増えてきています。女性の一人暮らしの方もいらっしゃいますが、地域の役員は順番ですので、女性の参加も多くなってきています。現在の若夫婦は平等で“持ちつ持たれつ”の生活が多くなって来ているように思い、大変良い事だと思います（女性が随分強くなってきていますね）。
女性	70歳以上	非正規雇用者	回答について良くわからないです。適当でごめんなさい。
女性	70歳以上	非正規雇用者	私達の若い頃（幼い時代）は親との同居家族でした。3世帯他、現在の核家族と違い、親の目もあり、簡単にDVということは無かった様に思われます。私もDVの一人です。当時5才、4才の二人の娘の母親。姉の方が「お母さん、お父さん置いて何処かへ行こうよ！！」と言われたのが離婚の決心でした。娘達の心の痛さを知り、大泣きしたものです。
女性	70歳以上	家事専業者	2年前に東御市での会に参加、こんな小規模な町でも・・・と感心しました。私の周囲ではあまり話題にもなりません。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	70歳以上	家事専業者	男女共同参画と最近数多く耳にしますけど、女性はこの言葉に甘んじる事なく、職場でも、家庭でも強く頑張ってもらいたいものです。私自身、60才近くまでフルタイムで外で社員と同様な事(仕事)をして頑張ってきました。勿論ずっと臨時職員でした。でも家庭の事も何とか頑張る事が出来ましたので、人間やれば必ず出来ますので、外で働いている女性の皆様頑張って欲しいと思います。
女性	70歳以上	家事専業者	私も定年までは会社の役員をしておりました。女性だからこそ活かせることがたくさんあります。これからの女性は社会に出て、大いに活躍できるチャンスを望みます。
女性	70歳以上	無職	現代社会、小家族増えるので大変です。結婚しないのか?年齢の高い男女が多い。
女性	70歳以上	無職	男女の区別なく、人間として互いに大切にしよう社会作りが必要だと思います。今ある女性・男性の不平等な問題の意識を持ち解決していく、啓発、教育、法律作りが求められます。日頃女性から、男女が対等であることを機会のあるごとに発声していく。子どもの頃より、教育、共育、共働の大切さを学んで行くことが必要と思う。女性、男性は全く同じではないことを知り、互いを認めあい、その特徴を生かし合わなくてはならないと思う。
男性	70歳以上	その他	民主主義と民主教育(基本的人権)、男女同権、同和教育、ジェンダー、DVそして男女共同参画へと戦後50年少しも男、女の位置と関係は少しも変わらない。良い方向へ向きつつあるも、こんな状態が長く続いてきているのは、日本人にある利己主義と、自分の優位性(自分より下位と思う人の存在のあることの満足感)を持っていることの自覚にあることと思う。そのことは経済→各個の経済力の強さにふり回されて、権利のみ主張し義務を遂行してない(しようしない)国民一人一人の問題である「働かずに優雅な生活を願う、国民意識を変えることが課題である。(方法は分からない、無責任だが・・・)。12年前ではあるが、県教委の中にも(校長への女性推せんに対して)異議を申し立てた「主幹」がいた。
無回答	無回答	無回答	市よりのCMが必要です。

調査票

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

	男性が優位	女性が優位	平等である	わからない		問1
1 家庭では	1	2	3	4	→	
2 学校教育の場では	1	2	3	4	→	
3 地域社会では	1	2	3	4	→	
4 職場では	1	2	3	4	→	
5 法律や制度の上では	1	2	3	4	→	
6 慣習・しきたりでは	1	2	3	4	→	
7 政治の場では	1	2	3	4	→	
8 社会全体では	1	2	3	4	→	

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

	知っている	聞いたことがある	知らない		問2
1 男女共同参画社会	1	2	3	→	
2 ジェンダー（社会的性別）	1	2	3	→	
3 女子差別撤廃条約	1	2	3	→	
4 男女雇用機会均等法	1	2	3	→	
5 長野市男女共同参画推進条例	1	2	3	→	
6 長野市男女共同参画センター	1	2	3	→	

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の上で男女の差がなくなる社会
- 2 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会
- 3 男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会
- 4 新たな発想や多様な価値観が活かされる社会
- 5 男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会
- 6 男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会
- 7 その他（ ）

問3

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対

問4

調査票

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。
次の中から1つお選びください。

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他 ()

問5

問6 男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をしたことがありますか。
あなたにあてはまるものすべてをお選びください。

- 1 進学のとときにあった
- 2 就職のとときにあった
- 3 仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった
- 4 管理職へ昇進したかったが、あきらめざるを得なかったことがあった
- 5 その他 ()
- 6 特にない

問6

「労働」に関することでおたずねします。

問7 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。
あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	男性の方が 優遇されて いる	女性の方が 優遇されて いる	平等で ある	わから ない
1 賃金	1	2	3	4
2 昇進や昇格	1	2	3	4
3 仕事の内容	1	2	3	4
4 研修の機会や内容	1	2	3	4

問7
→
→
→
→

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」に関することでおたずねします。

問8 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。
次の中から1つお選びください。

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
- 3 知らない

問8

裏面もございます

問9 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問9

問10 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問10

問11 あなたは次にあげる家事をしていますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族が 同じ程度 している	自分は手伝い 程度している	していない		問11
1 掃除	1	2	3	4	→	
2 洗濯	1	2	3	4	→	
3 食料品、日用品などの買物	1	2	3	4	→	
4 食事のしたく	1	2	3	4	→	
5 食事の後かたづけ	1	2	3	4	→	
6 ごみを捨てる	1	2	3	4	→	

問12 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。
あなたは育児または介護をどの程度していますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族が 同じ程度 している	自分は手伝い 程度している	していない		問12
1 育児（お孫さんを含む）	1	2	3	4	→	
2 介護	1	2	3	4	→	

問 13 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- 1 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
- 2 職場や同僚に迷惑がかかるから
- 3 利用しにくい雰囲気があるから
- 4 上司がいい顔をしないから
- 5 育児、介護は女性の方が向いているから
- 6 他に育児、介護をする人がいるから
- 7 昇給、昇格に影響すると考えるから
- 8 男性で「育児・介護休業制度」を利用する人がほとんどいないから
- 9 制度の整備が不十分だから
- 10 その他（具体的に

問 13

問 14 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。

次の中から3つまでお選びください。

- 1 男女の役割分担意識についての社会通念、慣習、しきたりを改める
- 2 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- 3 行政や民間、地域社会などにおける方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 4 雇用機会や昇進など、職場における男女の対等な取り扱いを徹底する
- 5 労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
- 6 社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についても、その評価を高める
- 7 男性が家事・子育て・介護・地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 8 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめる
- 9 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける
- 10 官民ともに育児・介護に係る施設や家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
- 11 その他（具体的に
- 12 特に必要なことはない

問 14

「地域社会」に関することでおたずねします。

問 15 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	そうである	そうではない	わからない		問15
1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている	1	2	3	→	
2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である	1	2	3	→	
3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている	1	2	3	→	
4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3	→	
5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている	1	2	3	→	
6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3	→	

裏面もございます

問 16 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）※1を導入すること
- 2 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
- 3 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
- 4 女性が積極的に役職につくこと
- 5 その他（具体的に _____）

問 16

※1 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）…男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するために必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう

男女の「人権」に関することでおたずねします。

※2

問 17 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

※2 DV(ドメスティック・バイオレンス)…配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為

	受けたことがある	したことがある	受けたこともしたこともある	受けたこともしたこともない		問17
1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす	1	2	3	4	→	
2 なぐる	1	2	3	4	→	
3 ける	1	2	3	4	→	
4 髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4	→	
5 大声で怒鳴る	1	2	3	4	→	
6 メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4	→	
7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4	→	
8 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4	→	
9 生活費を渡さない	1	2	3	4	→	
10 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4	→	
11 避妊に協力しない	1	2	3	4	→	

問 18 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- 1 長野県女性相談センター
- 2 児童虐待・DV 24時間ホットライン
- 3 長野市福祉事務所(長野市役所保育家庭支援課内、篠ノ井支所内)
- 4 女性の人権ホットライン
- 5 県警女性被害犯罪ダイヤルサポート110
- 6 県警(地域安全推進室)
- 7 長野犯罪被害者支援センター
- 8 長野市男女共同参画センター

問 18	

問 19 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えにもっとも近いのはどれですか。次の中から1つお選びください。

- 1 どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- 2 どんな場合でも人権侵害にあたると思う
- 3 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 4 人権侵害にあたるとは思わない
- 5 わからない

問 19

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問 20 平成 25 年 7 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数と割合は、6 人(15.8%)、平成 24 年 7 月 1 日現在の住民自治協議会における女性役員の数と割合は 517 人(18.0%)となっています。

このことについて、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

- 1 現在より大幅に増えた方がよい
- 2 現在より少し増えた方がよい
- 3 現状でよい
- 4 現状より少なくてよい
- 5 わからない

問 20

問 21 あなたは、政策決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

- 1 政治が身近になる
- 2 男性中心の考え方に変化が生じる
- 3 男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される
- 4 女性が持つ意見や発想が活かされる
- 5 何も期待しない
- 6 わからない

問 21

問 22 男女共同参画社会を実現するための拠点施設(長野市男女共同参画センター)の役割としてあなたは何を望みますか。次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 図書や情報の収集・提供 | 2 団体やサークルの活動・提供 |
| 3 調査・研究 | 4 学習・研修 |
| 5 職業能力開発 | 6 相談 |
| 7 わからない | 8 その他() |

問 22

問 23 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善
- 2 政策・方針決定の場への女性の登用促進
- 3 学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実
- 4 女性の人材育成の推進
- 5 女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実
- 6 育児や介護に関するサービスの充実
- 7 夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実
- 8 男女共同参画に関する情報提供の充実
- 9 情報提供や総合相談、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の整備
- 10 企業に対する就労条件の改善策の啓発
- 11 職場における男女の平等な扱いについて企業への周知徹底
- 12 その他（具体的に

問 23

問 24 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

記入もれ等を確認いただき、同封の返信用封筒に調査票を入れ 7月17日（水） までに、ポストへご投函ください。

平成25年9月発行

発行 長野市

編集 長野市生活部 男女共同参画推進課

長野市大字鶴賀緑町1613番地 電話026(224)5428(直通)

E-mail : danjo@city.nagano.lg.jp

集計 協同組合長野シーアイ開発センター